保健医療に関する意識調査

（県民アンケート調査）

－ 報 告 書 －

平成２１年１月

群　　馬　　県

目　次

Ⅰ　調査の概要 …… 1

Ⅱ　調査結果の分析 …… 11

1．健康状態 …… 13
（1）自分の健康状態 …… 13
（2）同居家族の健康状態 …… 16
2．健康に対する不安 …… 19
（1）健康に対する不安の有無 …… 19
（2）具体的な不安内容 …… 22
3．健康保持のために気をつけていること …… 27
4．健康診断 …… 34
（1）健康診断受診の有無 …… 34
（2）健康診断の受診内容 …… 37
（3）健康診断の受診場所 …… 41
（4）健康診断結果への対応 …… 44
（5）健康診断を受けなかった理由 …… 47
5．地域医療について …… 51
（1）地域の医療全般に対する満足度 …… 51
（2）地域医療に対する意識 …… 54
（3）不足している医療機関 …… 57
（4）不足している治療分野 …… 59
6．医療機関の選択 …… 63
（1）医療機関の選択 …… 63
（2）医療機関の選択理由 …… 69
（3）医療機関の所在地 …… 75
7．家族が夜間や休日に病気になった際の対応 …… 76
8．かかりつけ医 …… 80
（1）かかりつけ医の有無 …… 80
（2）かかりつけ医を決めている理由 …… 83
（3）かかりつけ医の種類 …… 87
（4）かかりつけ医を決めていない理由 …… 90
9．かかりつけ歯科医 …… 93
（1）かかりつけ歯科医の有無 …… 93
（2）かかりつけ歯科医を決めている理由 …… 96
10．歯科の保健医療についての要望 …… 99

11. 薬局について …… 102
（1）院外薬局での調剤の有無 …… 102
（2）かかりつけ薬局の有無 …… 105
（3）かかりつけ薬局の選択理由 …… 108
（4）かかりつけ薬局を決めていない理由 …… 111
12. 入院・自宅療養 …… 113
（1）入院・自宅療養の経験 …… 113
（2）入院・自宅療養で困ったこと …… 116
13. 転院について …… 121
（1）転院に対する不安感 …… 121
（2）具体的な不安内容 …… 124
（3）転院先の選択で重視すること …… 129
14. 在宅医療について …… 132
（1）在宅医療に対する不安感 …… 132
（2）具体的な不安内容 …… 135
（3）治る見込みの少ない病気にかかったときに過ごしたい場所 …… 138
（4）自宅で過ごす場合に必要なこと …… 141
15. 高齢者保健医療福祉サービスへの要望 …… 144
16. 医療機関への要望 …… 147
17. 保健医療情報について …… 155
（1）知りたい保健医療情報 …… 155
（2）保健医療情報の入手方法 …… 162

Ⅲ　調査票 …… 169

Ⅰ　調査の概要

１．調査目的

この調査は、保健、医療及び健康に関する県民の意見・要望を把握し、保健医療施策の基礎資料を得ることを目的とする。

２．調査項目

（１）健康状態
（２）健康に対する不安
（３）健康づくり
（４）健康診断
（５）地域医療について
（６）医療機関の選択
（７）救急医療への対応
（８）かかりつけ医
（９）かかりつけ歯科医
（10）歯科保健医療への要望
（11）薬局について
（12）入院・自宅療養
（13）転院について
（14）在宅医療について
（15）高齢者保健医療福祉サービスへの要望
（16）医療機関への要望
（17）保健医療情報について

３．調査設計

（１）調査地域　群馬県全域（10 保健医療圏）
（２）調査対象　満 20 歳以上男女個人
（３）標 本 数　4,001
（４）抽出方法　層化二段無作為抽出法
（５）調査方法　郵送法（督促ハガキ 1 回）
（６）調査時期　平成 20 年 9 月
（７）調査担当　企画・実施・分析　群馬県健康福祉部医務課
　　実施・集計・分析　社団法人　中央調査社

４．回収結果

（１）回収数（率）　2,050（51.2%）

地域別回収結果

地域別	標本数	回収数	回収率（%）
前橋保健医療圏	320	172	53.8
高崎・安中保健医療圏	600	283	47.2
桐生保健医療圏	386	181	46.9
伊勢崎保健医療圏	346	155	44.8
太田・館林保健医療圏	679	337	49.6
渋川保健医療圏	380	199	52.4
藤岡保健医療圏	390	219	56.2
富岡保健医療圏	300	179	59.7
吾妻保健医療圏	300	158	52.7
沼田保健医療圏	300	167	55.7
（前橋市）	(300)	(166)	55.3
（高崎市）	(300)	(127)	42.3
（安中市）	(300)	(156)	52.0
（桐生市）	(300)	(144)	48.0
(伊勢崎市)	(300)	(133)	44.3
（太田市）	(300)	(146)	48.7
（館林市）	(300)	(147)	49.0
（渋川市）	(300)	(156)	52.0
（藤岡市）	(300)	(167)	55.7
計	4,001	2,050	51.2

５．集計方法

この調査は、保健医療圏別の母集団構成比と無関係に標本数を割り当てているため（標本抽出法参照）、集計にあたっては、各保健医療圏・市郡規模別の抽出率（有効回収数／20 歳以上人口）が均等となるよう係数を算出し、加重集計した。各保健医療圏・市郡規模別の加重係数及び加重後の規正標本数は以下のとおりである。

加重後の規正標本数の合計は、16,276 人となり、結果の比率はこれを母数として算出したものである。なお、規正標本数は、乗算結果の少数第１位を四捨五入しているため、全県の標本数を分類した各区分の標本数の合計とは一致しないことがある。

回収数、加重係数及び加重後の規正標本数

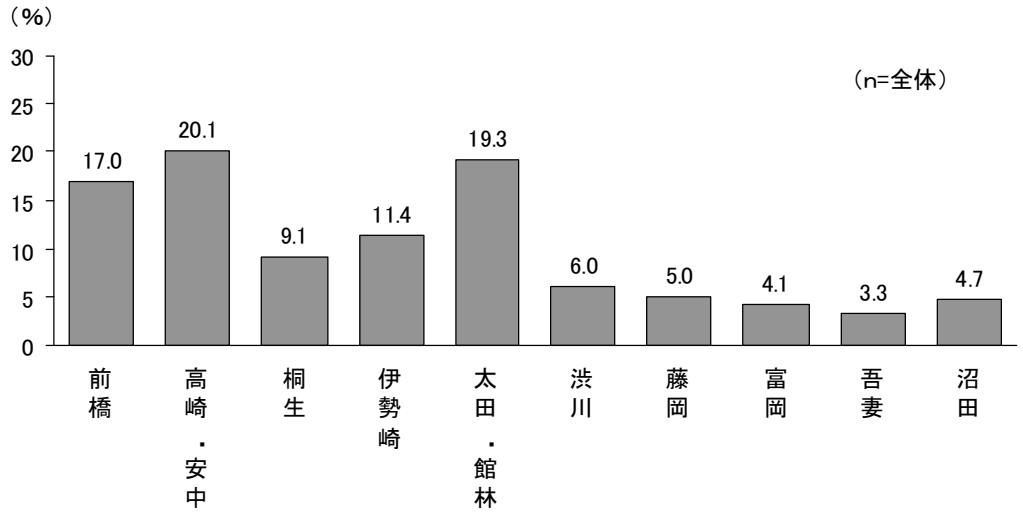
保健医療圏	市郡規模別	母集団	標本数	回収数	加重係数	規正標本数
前橋	◎前橋市	258,523	300	166	15.57	2,585
	郡部	18,178	20	6	30.33	182
	計	276,701	320	172	＊	2,767
高崎・安中	◎高崎市	274,855	300	127	21.65	2,750
	○安中市	52,740	300	156	3.38	527
	計	327,595	600	283	＊	3,277
桐生	◎桐生市	105,842	300	144	7.35	1,058
	人口5万人未満の市	42,243	86	37	11.41	422
	計	148,085	386	181	＊	1,481
伊勢崎	◎伊勢崎市	156,776	300	133	11.79	1,568
	郡部	28,553	46	22	13.00	286
	計	185,329	346	155	＊	1,854
太田・館林	◎太田市	167,483	300	146	11.47	1,675
	○館林市	63,374	300	147	4.31	634
	郡部	82,826	79	44	18.82	828
	計	313,683	679	337	＊	3,136
渋川	○渋川市	71,156	300	156	4.56	711
	郡部	25,870	80	43	6.02	259
	計	97,026	380	199	＊	970
藤岡	○藤岡市	56,703	300	167	3.40	568
	郡部	24,281	90	52	4.67	243
	計	80,984	390	219	＊	811
富岡	人口5万人未満の市	43,554	195	113	3.86	436
	郡部	23,317	105	66	3.53	233
	計	66,871	300	179	＊	669
吾妻	郡部	53,836	300	158	3.41	539
	計	53,836	300	158	＊	539
沼田	人口5万人未満の市	43,819	170	100	4.38	438
	郡部	33,466	130	67	5.00	335
	計	77,285	300	167	＊	773
合計	人口10万人以上の市	963,479	1,500	716	＊	9,635
	人口5万人以上の市	243,973	1,200	626	＊	2,440
	人口5万人未満の市	129,616	451	250	＊	1,296
	郡部	290,327	850	458	＊	2,905
	計	1,627,395	4,001	2,050	＊	16,276

◎人口 10 万人以上の市

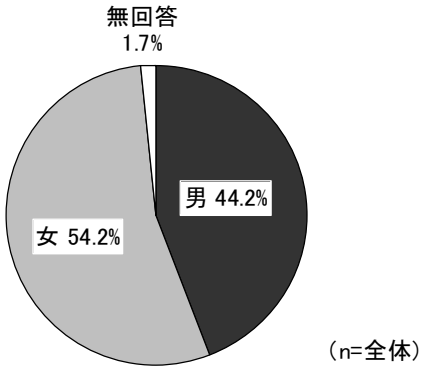
○人口５万人以上の市

６．調査対象の特性

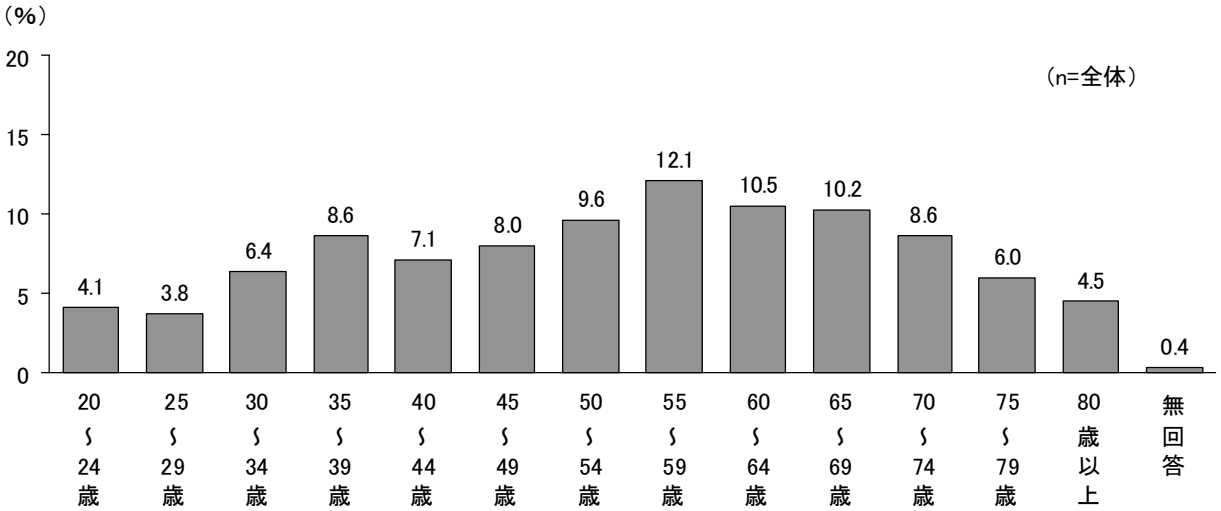
（１）保健医療圏別



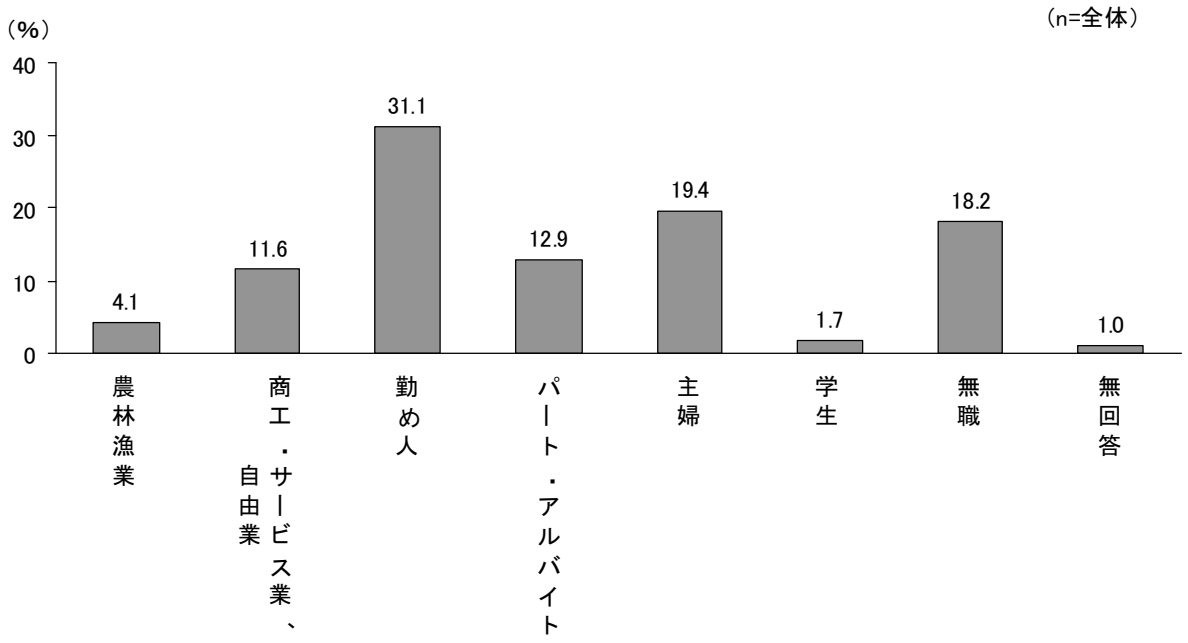
（２）性別



（３）年齢別



（４）職業別



７．調査結果の見方

（１）比率は、各質問の無回答を含む規正標本総数（一部の人に特定した質問では、該当する規正標本数）に対する百分比（%）を表している。
100%の基数を、グラフでは「ｎ」と表示している。

（２）百分比（%）は、小数第２位を四捨五入して少数第１位表示とした。よって、百分比の計が 100%にならない場合もある。

（３）質問によって回答が複数になる場合があり、そのときの百分比の合計は 100%を超える。

■標本抽出法

母集団 ／ 群馬県内の市町村に居住する満 20 歳以上の男女個人
標本数 ／ 標準標本数 3,000
追加標本数 1,001　　計 4,001（244 地点）
抽出法 ／ 層化二段無作為抽出法

〈 標本巣の決定 〉

標本数の決定については、信頼度 95%、抽出誤差範囲±８％を目標に行うものであり、１保健医療圏あたりの標本数は 156（最低）となるが、調査方法が郵送のため回答率 55%として計算して端数切り上げを行い、１保健医療圏あたり 300 人とした。

〈 層化 〉

（１） 10 保健医療圏を層とする。(地域別)
（２） 各保健医療圏については、人口５万人以上の市、人口５万人未満の市及び郡部に分類して、それぞれを層とする。(市郡規模別)

〈 標本の分配 〉

（１） 各保健医療圏に 300 人の標本を割当てる（10 保健医療圏計 3,000 人)。
（２） 各保健医療圏については、市郡規模別の層における母集団数（平成 17 年 10 月 1 日現在における満 20 歳以上の人口）の大きさに比例して、300 人の標本を配分する。
（３） 人口５万人以上の９市（前橋市、高崎市、安中市、桐生市、伊勢崎市、太田市、館林市、渋川市、藤岡市）については、それぞれ独自の集計分析を行う必要から、下記の標本数を加えて各 300 人とする。

前橋市 20　安中市 252　伊勢崎市 46　館林市 239　藤岡市 90
高崎市 48　桐生市　86　太田市　140　渋川市　80

〈 標本の抽出 〉

（１） 第一次抽出単位の調査地点は、平成 17 年国勢調査時に設定された調査区を使用する。
（２） 調査地点の抽出数は、１調査地点あたりの調査対象者数が 16 人程度になるよう各層に配分された標本数から算出する。
（３） 調査地点の抽出は、層別に等間隔に行う。(１段)
（４） ３により抽出された調査地点における対象者の抽出は、調査地点の中から住民基本台帳を用い、等間隔で行う。(２段)

以上の作業の結果、得られた地域別、市郡規模別の標本数・地点数は次のとおりである。

属性別母集団数・標本数・調査地点数

市郡別 保健医療圏	人口10万人以上の市	人口5万人以上の市	人口5万人未満の市	郡　部	計
前橋	258,523 300(18)			18,178 20(2)	276,701 320(20)
高崎･安中	274,855 300(18)	52,740 300(18)			327,595 600(36)
桐生	105,842 300(18)		42,243 86(6)		148,085 386(24)
伊勢崎	156,776 300(18)			28,553 46(3)	185,329 346(21)
太田･館林	167,483 300(18)	63,374 300(18)		82,826 79(5)	313,683 679(41)
渋川		71,156 300(18)		25,870 80(5)	97,026 380(23)
藤岡		56,703 300(18)		24,281 90(6)	80,984 390(24)
富岡			43,554 195(12)	23,317 105(7)	66,871 300(19)
吾妻				53,836 300(18)	53,836 300(18)
沼田			43,819 170(10)	33,466 130(8)	77,285 300(18)
計	963,479 1,500(90)	243,973 1,200(72)	129,616 451(28)	290,327 850(54)	1,627,395 4,001(244)

上段：母集団数（平成 17 年 10 月 1 日現在／平成 17 年国勢調査）

下段：標本数（カッコ内は調査地点数）

Ⅱ　調査結果の分析

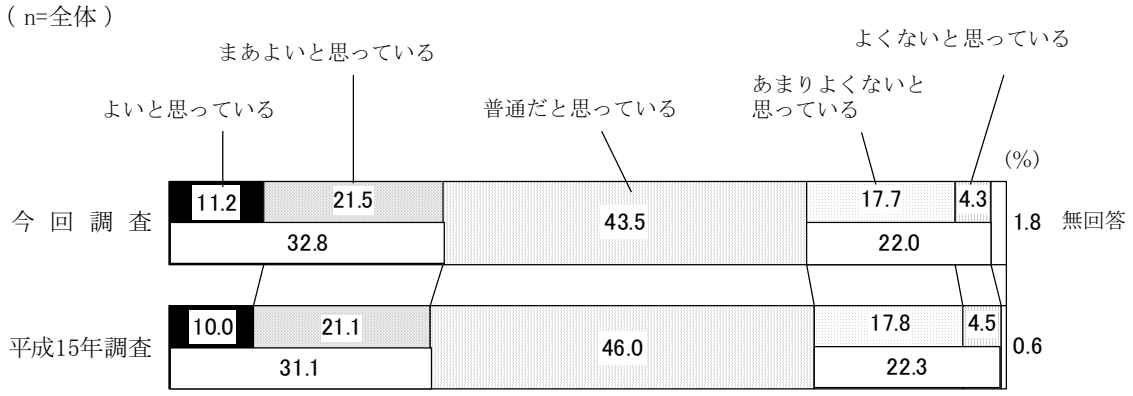
1　健康状態

（１）自分の健康状態

～　「よい」33%、「普通」44%、「よくない」22%　～

問１　あなたはご自分の健康状態について、どうお考えですか。次の中からあてはまるものをあげてください。（○は１つだけ）

図１－１



自分の健康状態について、「よいと思っている」人は 11.2%で、これに「まあよいと思っている」（21.5%）を合わせた＜よいと思う＞は 32.8%となっている。これに対して「よくないと思っている」人は 4.3%で、これに「あまりよくないと思っている」(17.7%) を合わせた＜よくないと思う＞は 22.0%となっている。

平成 15 年の調査結果との比較では、ほぼ同様となっている。

◆***地域別***　健康状態について、＜よいと思う＞は高崎・安中保健医療圏、伊勢崎保健医療圏、富岡保健医療圏をのぞくと、いずれも 30.0%を超えており、その中では、前橋保健医療圏（37.6%）、太田・館林保健医療圏（36.8%）、渋川保健医療圏（38.1%）が多くなっている。

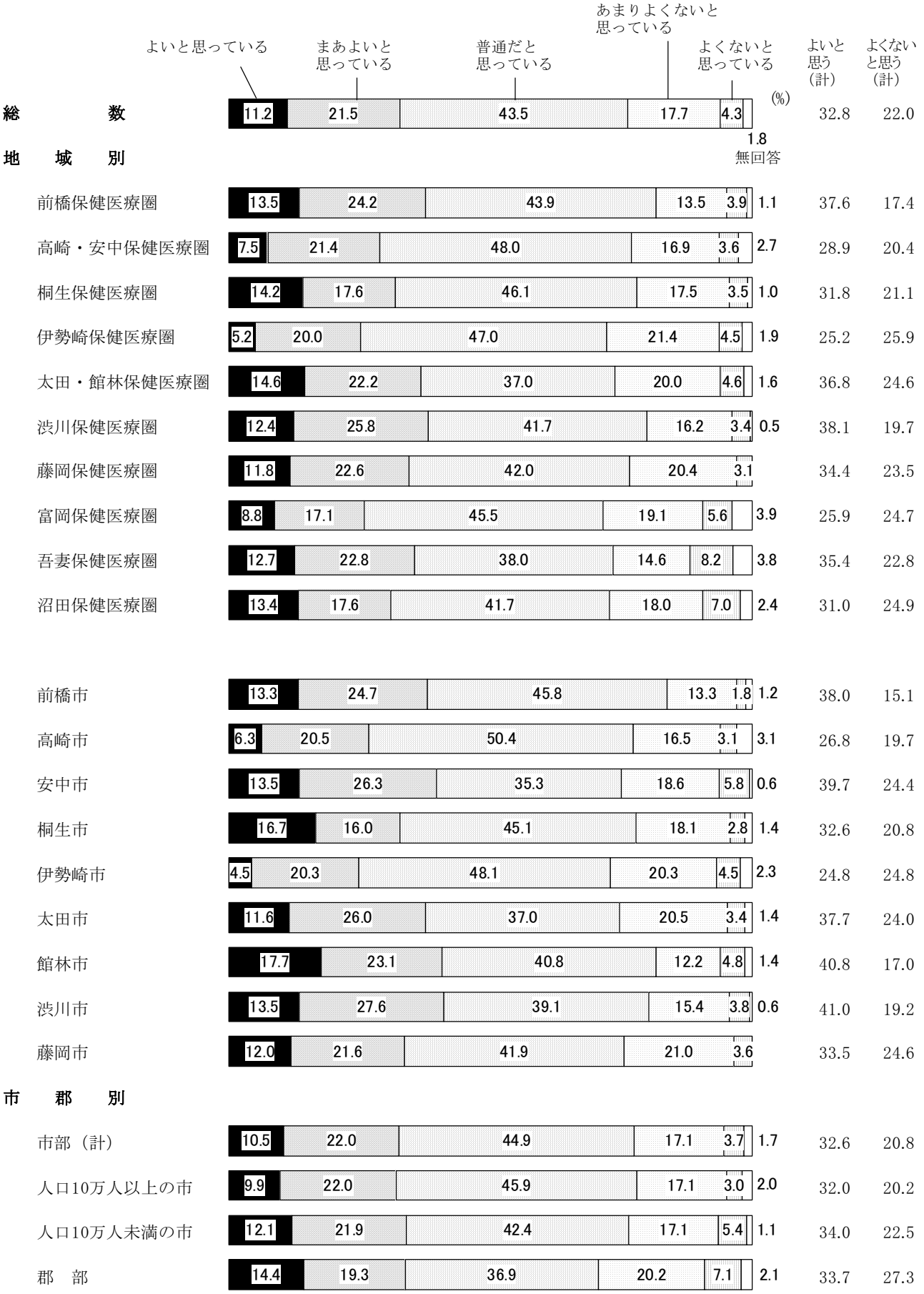
◆***市郡別***　＜よいと思う＞は市部と郡部の間で差がみられないが、＜よくないと思う＞は市部に比べ郡部で多くなっている。

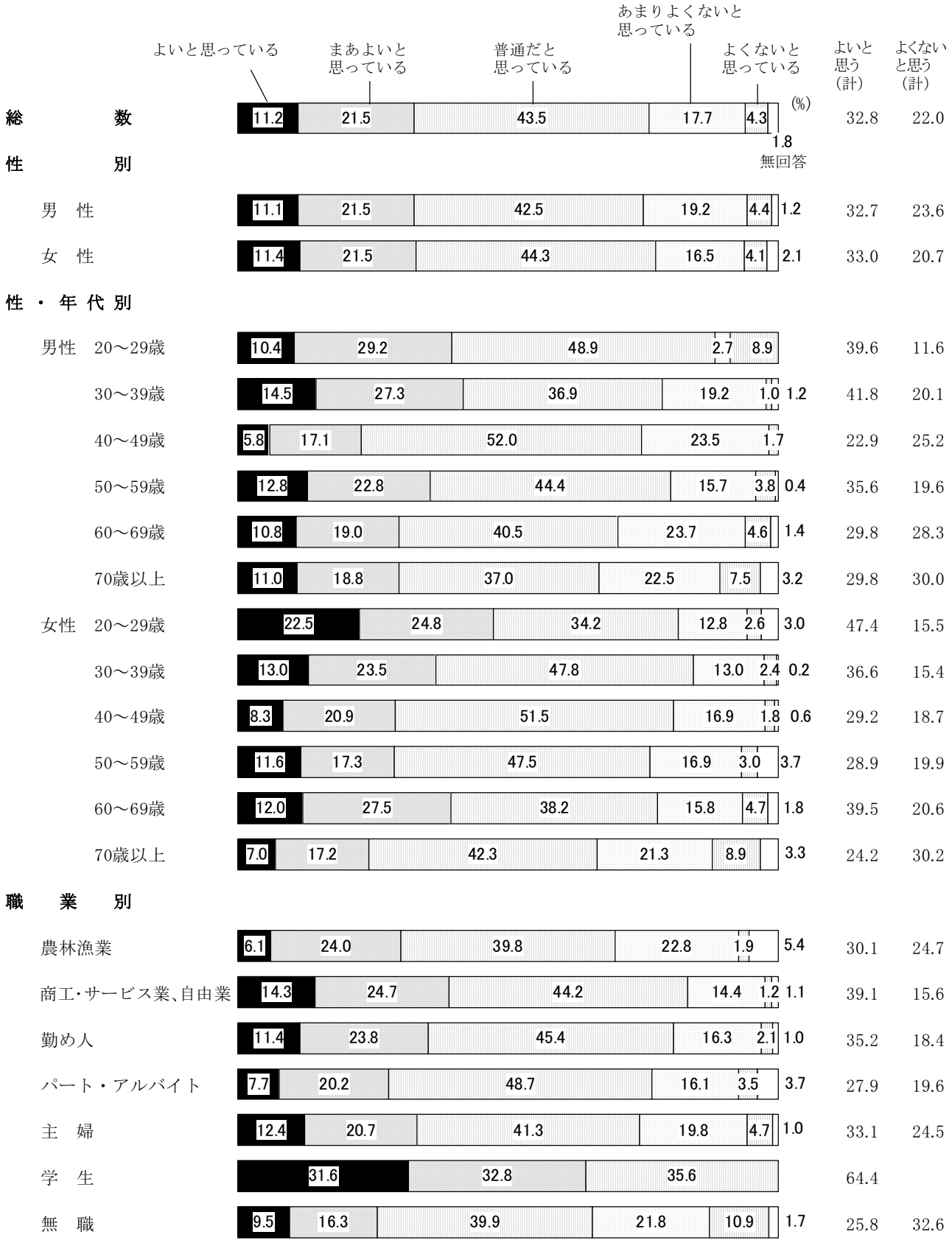
◆***性　別***　性別による差異はほとんど認められない。

◆***性・年代別***　＜よいと思う＞は、男性では 20 代（39.6%）と 30 代（41.8%）で多く、女性では 20 代（47.4%）で多くなっている。一方、＜よくないと思う＞は男女とも 70 歳以上で 30%以上と多くなっている。

◆***職業別***　＜よいと思う＞は、学生（64.4%）で多く、パート･アルバイト（27.9%）と無職（25.8%）で少なくなっている。

図１－２　自分の健康状態


よいと思っている
まあよいと思っている
普通だと思っている
あまりよくないと思っている
よくないと思っている
よいと思う（計）
よくないと思う（計）
(%)
総　数　11.2　21.5　43.5　17.7　4.3　1.8　32.8　22.0
無回答
地　域　別
前橋保健医療圏　13.5　24.2　43.9　13.5　3.9　1.1　37.6　17.4
高崎・安中保健医療圏　7.5　21.4　48.0　16.9　3.6　2.7　28.9　20.4
桐生保健医療圏　14.2　17.6　46.1　17.5　3.5　1.0　31.8　21.1
伊勢崎保健医療圏　5.2　20.0　47.0　21.4　4.5　1.9　25.2　25.9
太田・館林保健医療圏　14.6　22.2　37.0　20.0　4.6　1.6　36.8　24.6
渋川保健医療圏　12.4　25.8　41.7　16.2　3.4　0.5　38.1　19.7
藤岡保健医療圏　11.8　22.6　42.0　20.4　3.1　34.4　23.5
富岡保健医療圏　8.8　17.1　45.5　19.1　5.6　3.9　25.9　24.7
吾妻保健医療圏　12.7　22.8　38.0　14.6　8.2　3.8　35.4　22.8
沼田保健医療圏　13.4　17.6　41.7　18.0　7.0　2.4　31.0　24.9
前橋市　13.3　24.7　45.8　13.3　1.8　1.2　38.0　15.1
高崎市　6.3　20.5　50.4　16.5　3.1　3.1　26.8　19.7
安中市　13.5　26.3　35.3　18.6　5.8　0.6　39.7　24.4
桐生市　16.7　16.0　45.1　18.1　2.8　1.4　32.6　20.8
伊勢崎市　4.5　20.3　48.1　20.3　4.5　2.3　24.8　24.8
太田市　11.6　26.0　37.0　20.5　3.4　1.4　37.7　24.0
館林市　17.7　23.1　40.8　12.2　4.8　1.4　40.8　17.0
渋川市　13.5　27.6　39.1　15.4　3.8　0.6　41.0　19.2
藤岡市　12.0　21.6　41.9　21.0　3.6　33.5　24.6
市　郡　別
市部（計）　10.5　22.0　44.9　17.1　3.7　1.7　32.6　20.8
人口10万人以上の市　9.9　22.0　45.9　17.1　3.0　2.0　32.0　20.2
人口10万人未満の市　12.1　21.9　42.4　17.1　5.4　1.1　34.0　22.5
郡　部　14.4　19.3　36.9　20.2　7.1　2.1　33.7　27.3

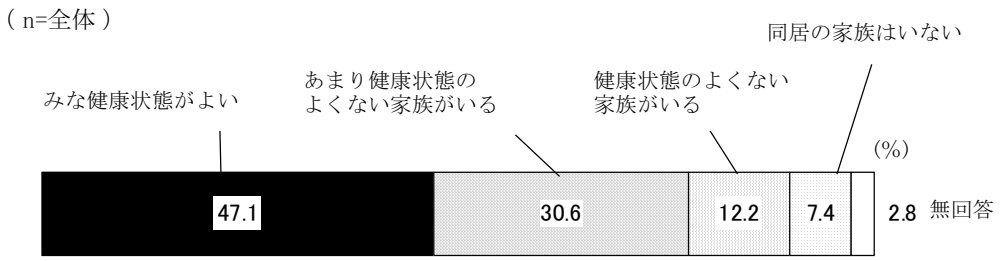

よいと思っている
まあよいと思っている
普通だと思っている
あまりよくないと思っている
よくないと思っている
よいと思う（計）
よくないと思う（計）
(%)
総数 11.2 21.5 43.5 17.7 4.3 1.8 32.8 22.0
無回答
性別
男性 11.1 21.5 42.5 19.2 4.4 1.2 32.7 23.6
女性 11.4 21.5 44.3 16.5 4.1 2.1 33.0 20.7
性・年代別
男性 20～29歳 10.4 29.2 48.9 2.7 8.9 39.6 11.6
30～39歳 14.5 27.3 36.9 19.2 1.0 1.2 41.8 20.1
40～49歳 5.8 17.1 52.0 23.5 1.7 22.9 25.2
50～59歳 12.8 22.8 44.4 15.7 3.8 0.4 35.6 19.6
60～69歳 10.8 19.0 40.5 23.7 4.6 1.4 29.8 28.3
70歳以上 11.0 18.8 37.0 22.5 7.5 3.2 29.8 30.0
女性 20～29歳 22.5 24.8 34.2 12.8 2.6 3.0 47.4 15.5
30～39歳 13.0 23.5 47.8 13.0 2.4 0.2 36.6 15.4
40～49歳 8.3 20.9 51.5 16.9 1.8 0.6 29.2 18.7
50～59歳 11.6 17.3 47.5 16.9 3.0 3.7 28.9 19.9
60～69歳 12.0 27.5 38.2 15.8 4.7 1.8 39.5 20.6
70歳以上 7.0 17.2 42.3 21.3 8.9 3.3 24.2 30.2
職業別
農林漁業 6.1 24.0 39.8 22.8 1.9 5.4 30.1 24.7
商工・サービス業、自由業 14.3 24.7 44.2 14.4 1.2 1.1 39.1 15.6
勤め人 11.4 23.8 45.4 16.3 2.1 1.0 35.2 18.4
パート・アルバイト 7.7 20.2 48.7 16.1 3.5 3.7 27.9 19.6
主婦 12.4 20.7 41.3 19.8 4.7 1.0 33.1 24.5
学生 31.6 32.8 35.6 64.4
無職 9.5 16.3 39.9 21.8 10.9 1.7 25.8 32.6

（２）同居家族の健康状態

～　「みな健康状態がよい」47%　～

問２　あなたの同居のご家族の健康状態について、どうお考えですか。次の中からあてはまるものをあげてください。（○は１つだけ）

図１－３



同居家族の健康状態については、「みな健康状態がよい」が 47.1%で、半数近くを占めている。一方、「健康状態のよくない家族がいる」は 12.2%、「あまり健康状態のよくない家族がいる」は 30.6%となっている。

◆***地域別***　「みな健康状態がよい」は桐生保健医療圏（52.2%）、渋川保健医療圏（50.3%）、藤岡保健医療圏（56.4%）で 50%を超えている。

◆***市郡別***　「みな健康状態がよい」は郡部に比べ市部で多くなっている。

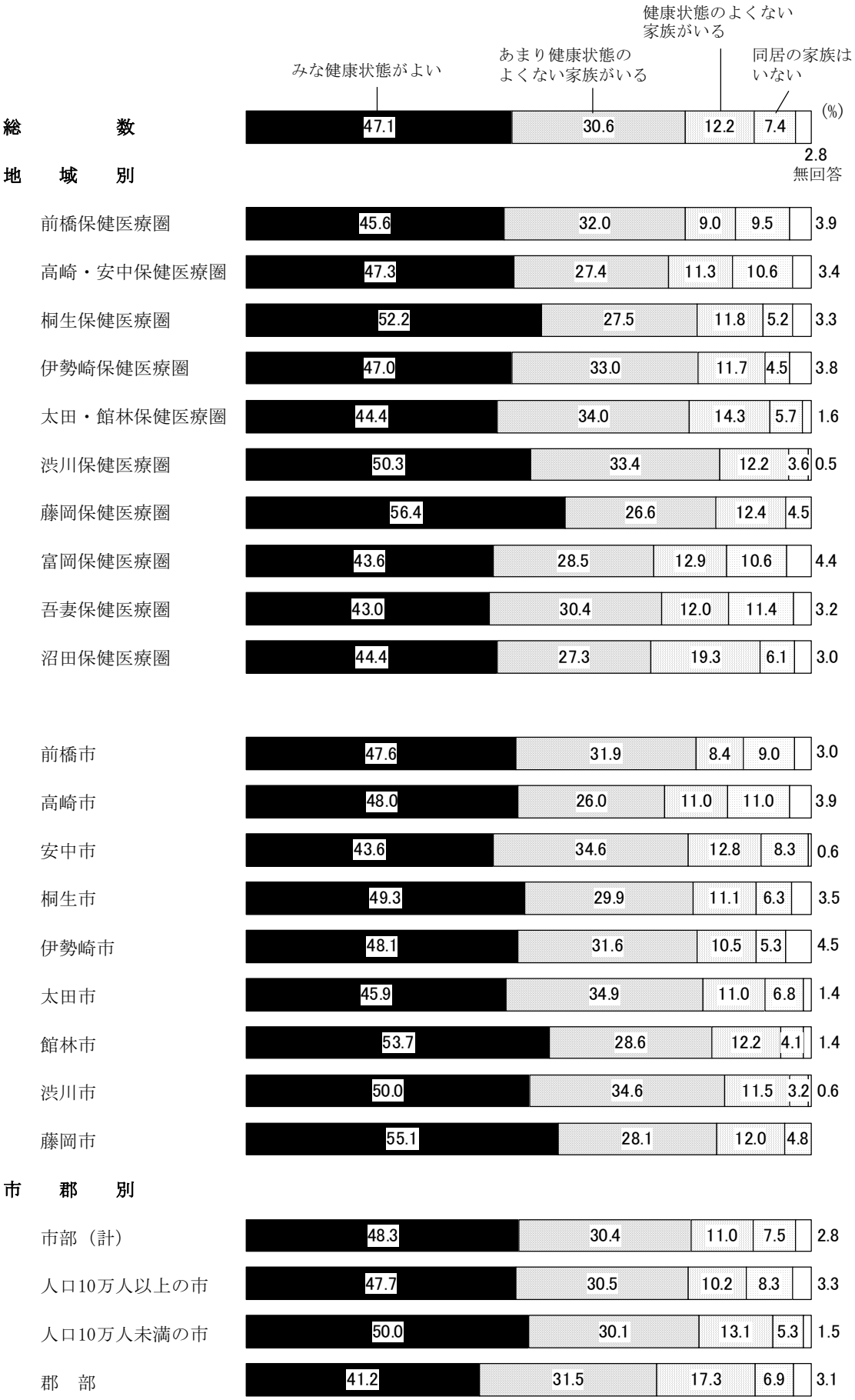
◆***性　別***　性別による差異はほとんど認められない。

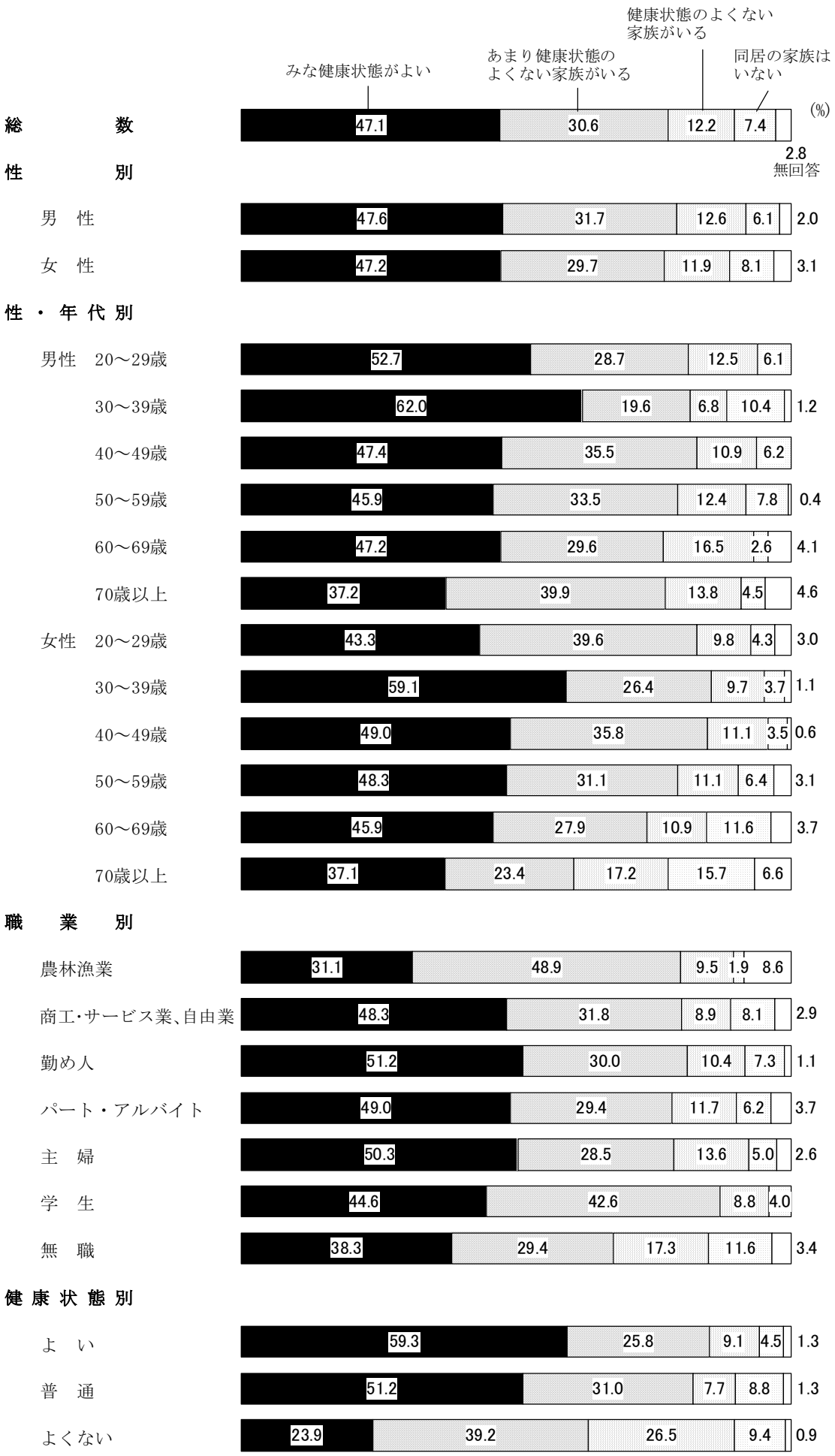
◆***性・年代別***　「みな健康状態がよい」は、男女とも、30 代で 60%前後と最も多くなっている。一方、男女とも、70 歳以上で 30%台後半と少なくなっている。

◆***職業別***　「みな健康状態がよい」は、農林漁業（31.1%）と無職（38.3%）で少なくなっている。

◆***健康状態別***　「みな健康状態がよい」は、健康状態がよい（59.3%）、普通（51.2%）という人では 50%を超えるが、よくない人では、23.9%と少なくなっている。

図１－４　同居家族の健康状態




みな健康状態がよい
あまり健康状態のよくない家族がいる
健康状態のよくない家族がいる
同居の家族はいない
(%)
2.8 無回答
総数 47.1 30.6 12.2 7.4
性別
男性 47.6 31.7 12.6 6.1 2.0
女性 47.2 29.7 11.9 8.1 3.1
性・年代別
男性 20～29歳 52.7 28.7 12.5 6.1
30～39歳 62.0 19.6 6.8 10.4 1.2
40～49歳 47.4 35.5 10.9 6.2
50～59歳 45.9 33.5 12.4 7.8 0.4
60～69歳 47.2 29.6 16.5 2.6 4.1
70歳以上 37.2 39.9 13.8 4.5 4.6
女性 20～29歳 43.3 39.6 9.8 4.3 3.0
30～39歳 59.1 26.4 9.7 3.7 1.1
40～49歳 49.0 35.8 11.1 3.5 0.6
50～59歳 48.3 31.1 11.1 6.4 3.1
60～69歳 45.9 27.9 10.9 11.6 3.7
70歳以上 37.1 23.4 17.2 15.7 6.6
職業別
農林漁業 31.1 48.9 9.5 1.9 8.6
商工･サービス業､自由業 48.3 31.8 8.9 8.1 2.9
勤め人 51.2 30.0 10.4 7.3 1.1
パート・アルバイト 49.0 29.4 11.7 6.2 3.7
主婦 50.3 28.5 13.6 5.0 2.6
学生 44.6 42.6 8.8 4.0
無職 38.3 29.4 17.3 11.6 3.4
健康状態別
よい 59.3 25.8 9.1 4.5 1.3
普通 51.2 31.0 7.7 8.8 1.3
よくない 23.9 39.2 26.5 9.4 0.9

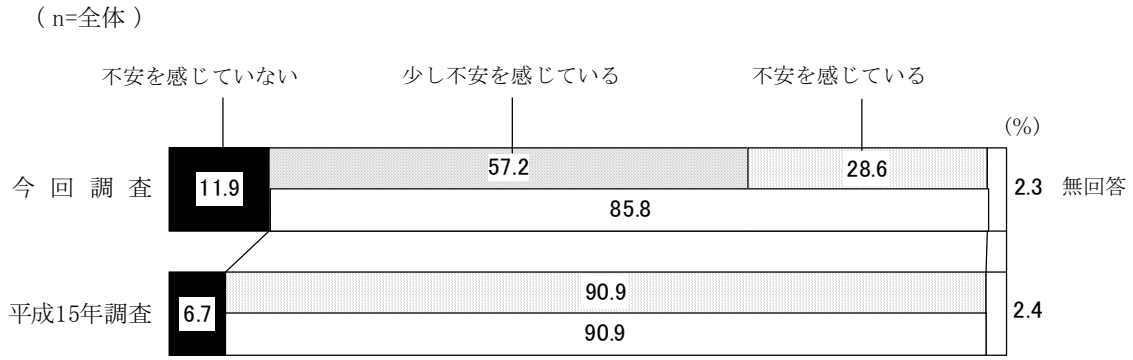
２　健康に対する不安

（１）健康に対する不安の有無

～　「不安を感じている」人は86%と断然多い　～

問３　あなたは、日ごろ「もし自分が病気になったら……」という不安を感じていますか。次の中からあてはまるものをあげてください。（○は１つだけ）

図２－１



（注）　平成15年調査では、調査対象者全員に、「不安を感じない、考えたことはない」か、または、不安がある場合の、今回の問３－１で聞いた不安の具体的内容を同時に聞いた。平成15年調査の結果から、今回質問の問３と比較可能な数値を算出し比較した。

日頃、「もし自分が病気になったら」という「不安を感じていない」人は 11.9%にとどまる。一方、「不安を感じている」人は 28.6%で、これに「少し不安を感じている」(57.2%) を合わせた＜不安を感じている＞は 85.8%となっている。

平成 15 年調査とは質問形式が異なっているが、＜不安を感じている＞が多数を占める傾向は変わらない。

◆***地域別***　全地域で、＜不安を感じている＞が 80%を超えるが、中でも伊勢崎保健医療圏（90.4%）で最も多く 90%を超えている。

◆***市郡別***　＜不安を感じている＞は市部と郡部の間に大きな差はみられず、ともに 80%を超えている。

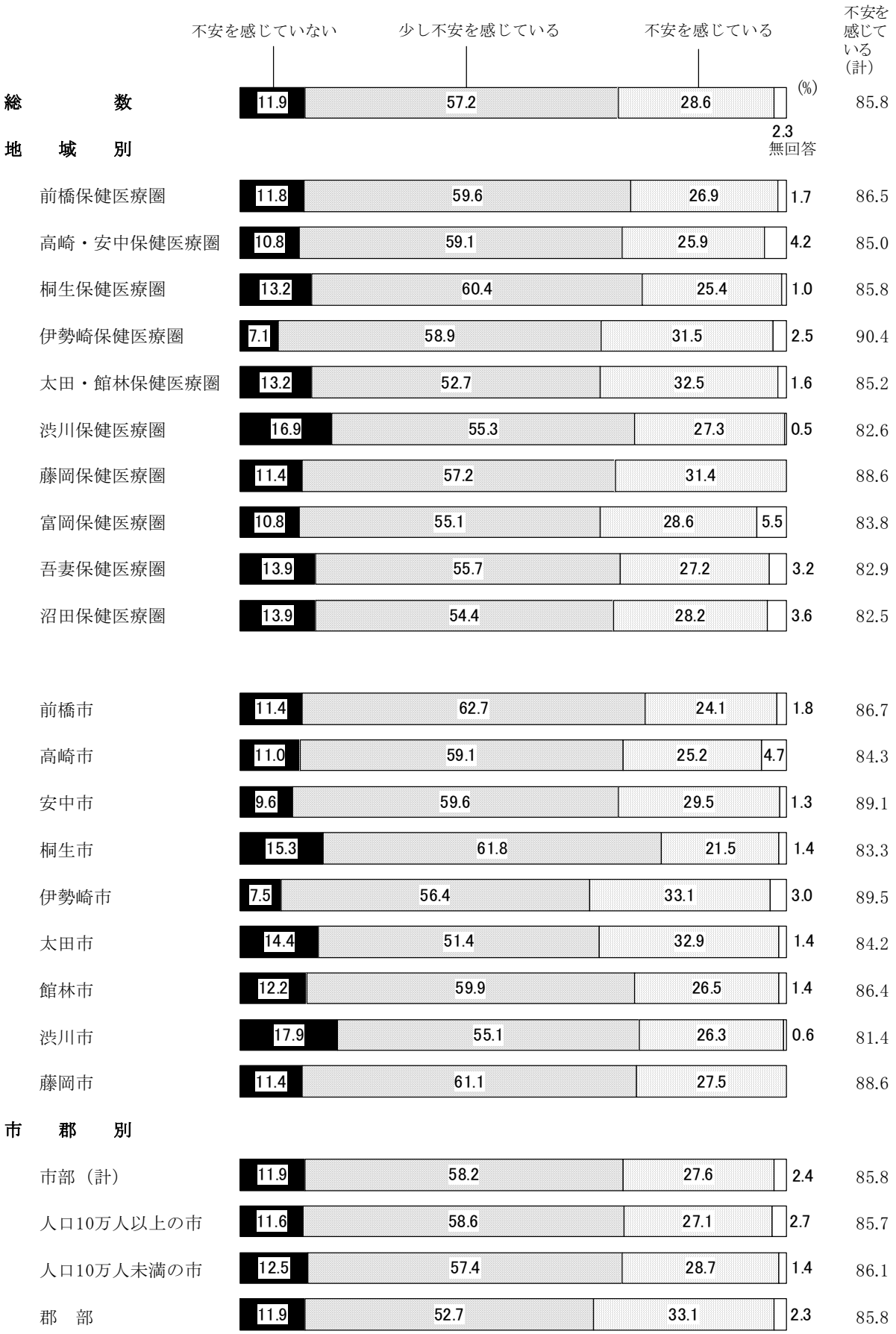
◆***性　別***　＜不安を感じている＞は男女で大きな差はみられず、ともに 85%を超えている。

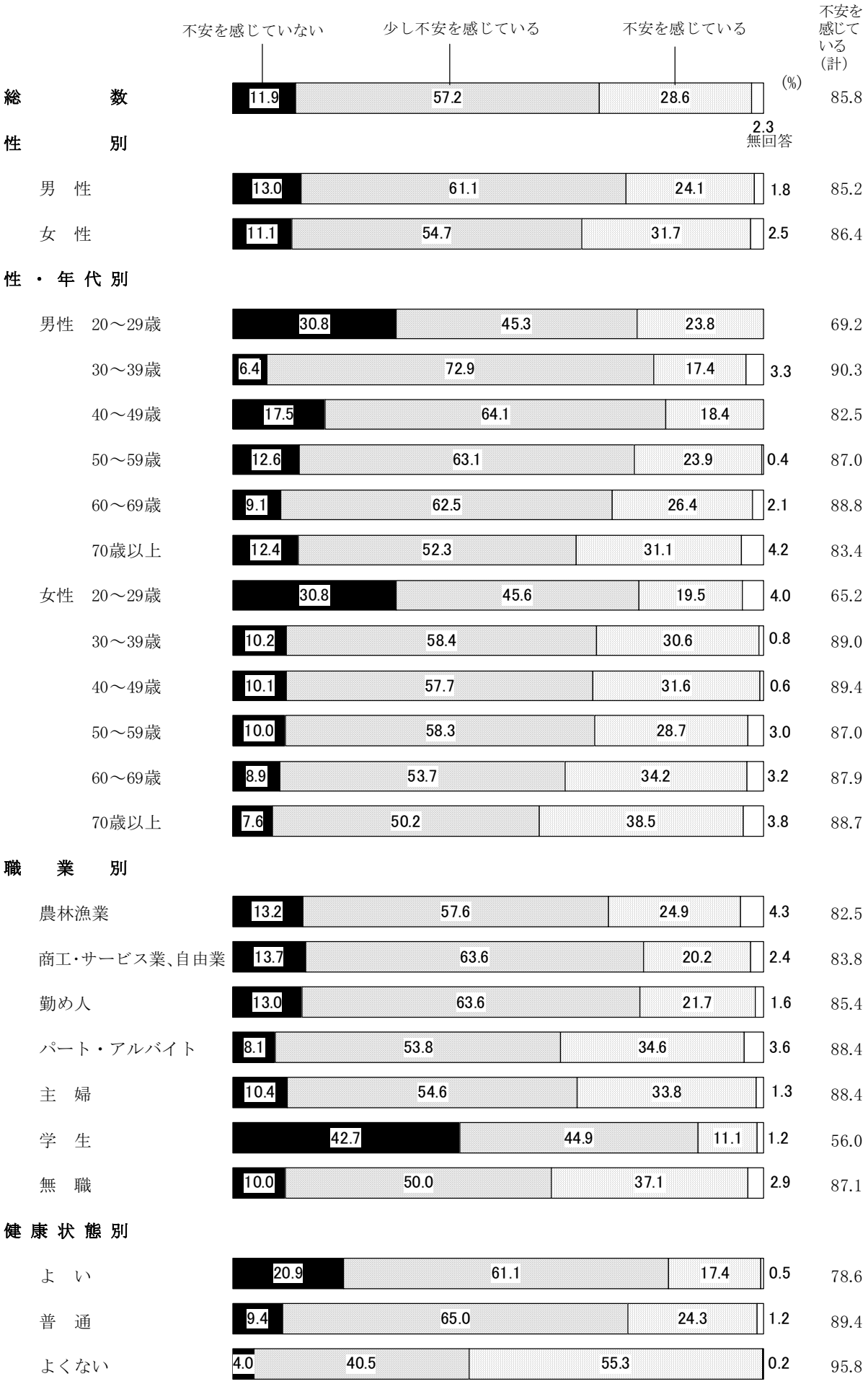
◆***性・年代別***　＜不安を感じている＞は男女とも、20 代で 60%台後半と少ないが、30 代より上の年齢ではいずれも 80%を超えている。

◆***職業別***　＜不安を感じている＞は、学生をのぞく職業ではいずれも 80%を超えている。不安を感じる程度が高いのは、パート・アルバイト、主婦、無職である。

◆***健康状態別***　＜不安を感じている＞は、健康状態がよくない人ほど多くなっている。

図２－２　健康に対する不安の有無



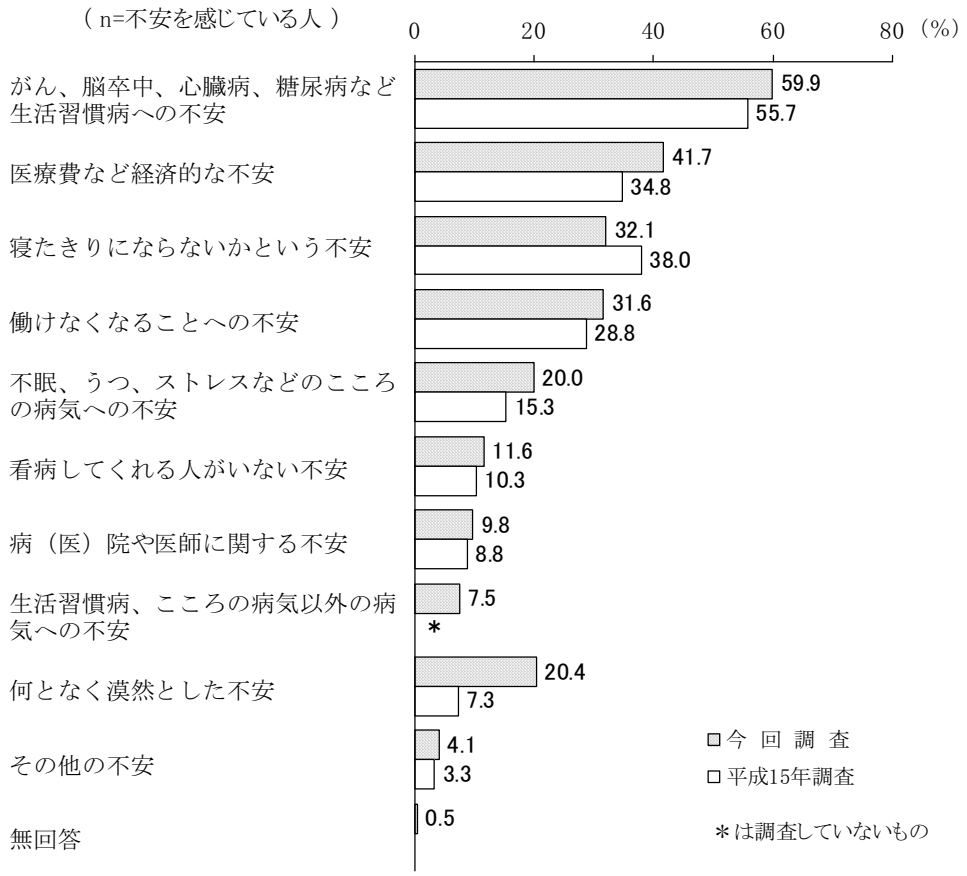

不安を感じていない
少し不安を感じている
不安を感じている
不安を感じている（計）
(%)
総数 11.9 57.2 28.6 2.3 無回答 85.8
性別
男性 13.0 61.1 24.1 1.8 85.2
女性 11.1 54.7 31.7 2.5 86.4
性・年代別
男性 20～29歳 30.8 45.3 23.8 69.2
30～39歳 6.4 72.9 17.4 3.3 90.3
40～49歳 17.5 64.1 18.4 82.5
50～59歳 12.6 63.1 23.9 0.4 87.0
60～69歳 9.1 62.5 26.4 2.1 88.8
70歳以上 12.4 52.3 31.1 4.2 83.4
女性 20～29歳 30.8 45.6 19.5 4.0 65.2
30～39歳 10.2 58.4 30.6 0.8 89.0
40～49歳 10.1 57.7 31.6 0.6 89.4
50～59歳 10.0 58.3 28.7 3.0 87.0
60～69歳 8.9 53.7 34.2 3.2 87.9
70歳以上 7.6 50.2 38.5 3.8 88.7
職業別
農林漁業 13.2 57.6 24.9 4.3 82.5
商工・サービス業、自由業 13.7 63.6 20.2 2.4 83.8
勤め人 13.0 63.6 21.7 1.6 85.4
パート・アルバイト 8.1 53.8 34.6 3.6 88.4
主婦 10.4 54.6 33.8 1.3 88.4
学生 42.7 44.9 11.1 1.2 56.0
無職 10.0 50.0 37.1 2.9 87.1
健康状態別
よい 20.9 61.1 17.4 0.5 78.6
普通 9.4 65.0 24.3 1.2 89.4
よくない 4.0 40.5 55.3 0.2 95.8

（２）具体的な不安内容

～　「がん、脳卒中、心臓病、糖尿病など生活習慣病への不安」60%が最多　～

問３－１　具体的にはそれはどんな不安ですか。（○は３つまで）

図２－３



（注）　平成15年調査では、調査対象者全員に、「不安を感じない、考えたことはない」か、または、不安がある場合の、今回の問３－１で聞いた不安の具体的内容を同時に聞いた。平成15年調査の結果から、今回質問の問３－１と比較可能な数値を算出し比較した。

「もし自分が病気になったら」という不安をもっている人に、具体的に不安なことを聞いたところ、「がん、脳卒中、心臓病、糖尿病など生活習慣病への不安」が 59.9%と最も多く、「医療費など経済的な不安」(41.7%)、「寝たきりにならないかという不安」(32.1%)、「働けなくなることへの不安」(31.6%)の順となっている。

平成 15 年調査とは質問形式が異なっているが、おおよその傾向に変化はみられないものの「何となく漠然とした不安」が今回調査で多くみられる。

◆***地域別***　いずれの地域でも「がん、脳卒中、心臓病、糖尿病など生活習慣病への不安」が最も多くなっている。その他には、全体でも 30%以上があげた「医療費など経済的な不安」「寝たきりにならないかという不安」「働けなくなることへの不安」が上位を占めている。

◆***市郡別***　人口規模が小さいほど「寝たきりにならないかという不安」が多くなっている。

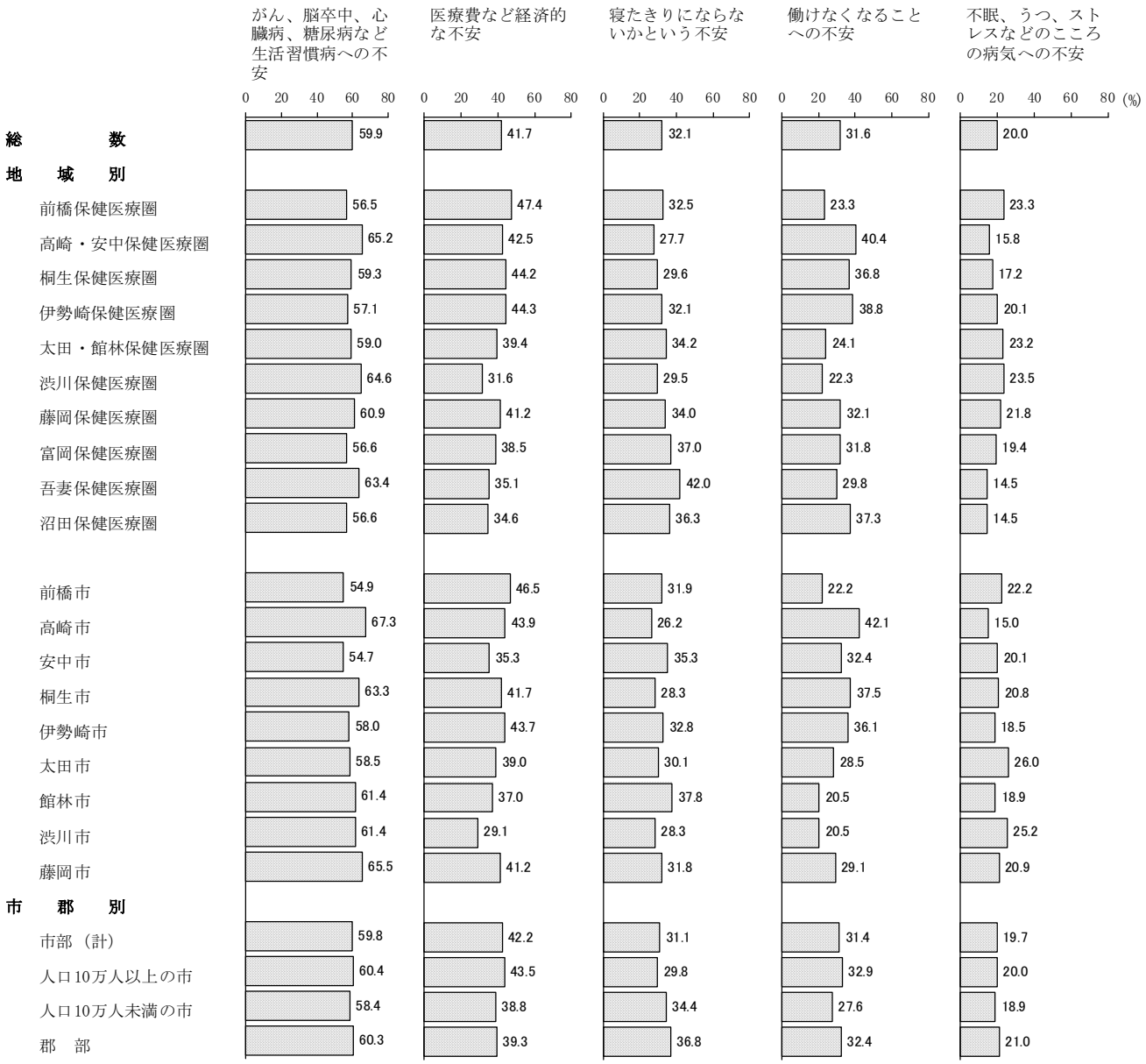
◆***性　別***　男女とも「がん、脳卒中、心臓病、糖尿病など生活習慣病への不安」が最も多いが、女性（53.8%）に比べ男性（67.2%）で多くなっている。

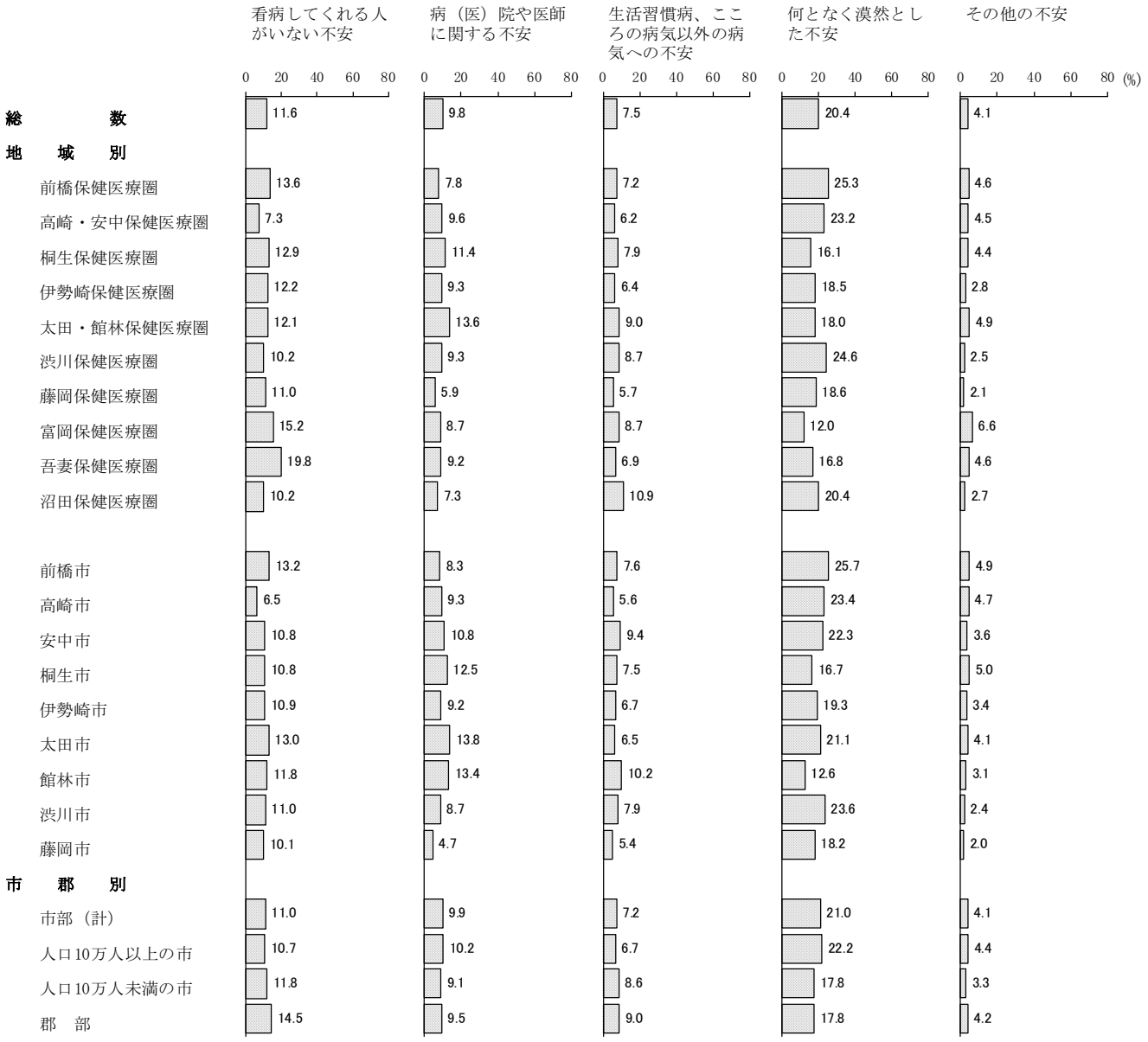
◆***性・年代別***　男性の 50 代から 60 代で、「がん、脳卒中、心臓病、糖尿病など生活習慣病への不安」が 70%を超えている。また、男女とも年齢が高くなるにつれて「寝たきりにならないかという不安」が増加しており、70 歳以上の男性では 55.4%、女性では 59.2%に達している。

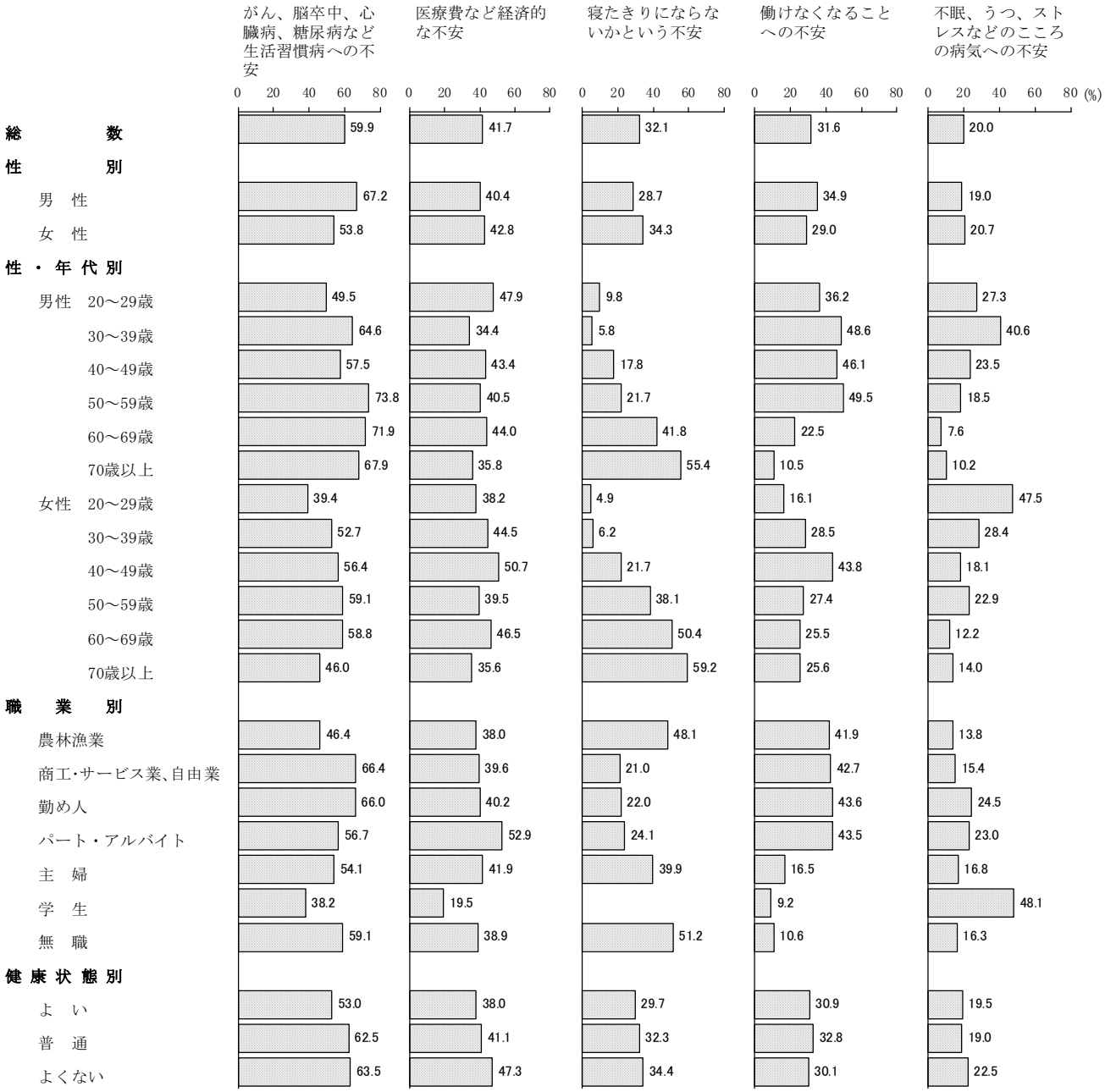
◆***職業別***　農林漁業と学生をのぞいたすべての職業で「がん、脳卒中、心臓病、糖尿病など生活習慣病への不安」が最も多くなっている。また、パート・アルバイトで「医療費など経済的な不安」が 52.9%、農林漁業と無職で「寝たきりにならないかという不安」がそれぞれ 48.1%、51.2%と、多くなっている。

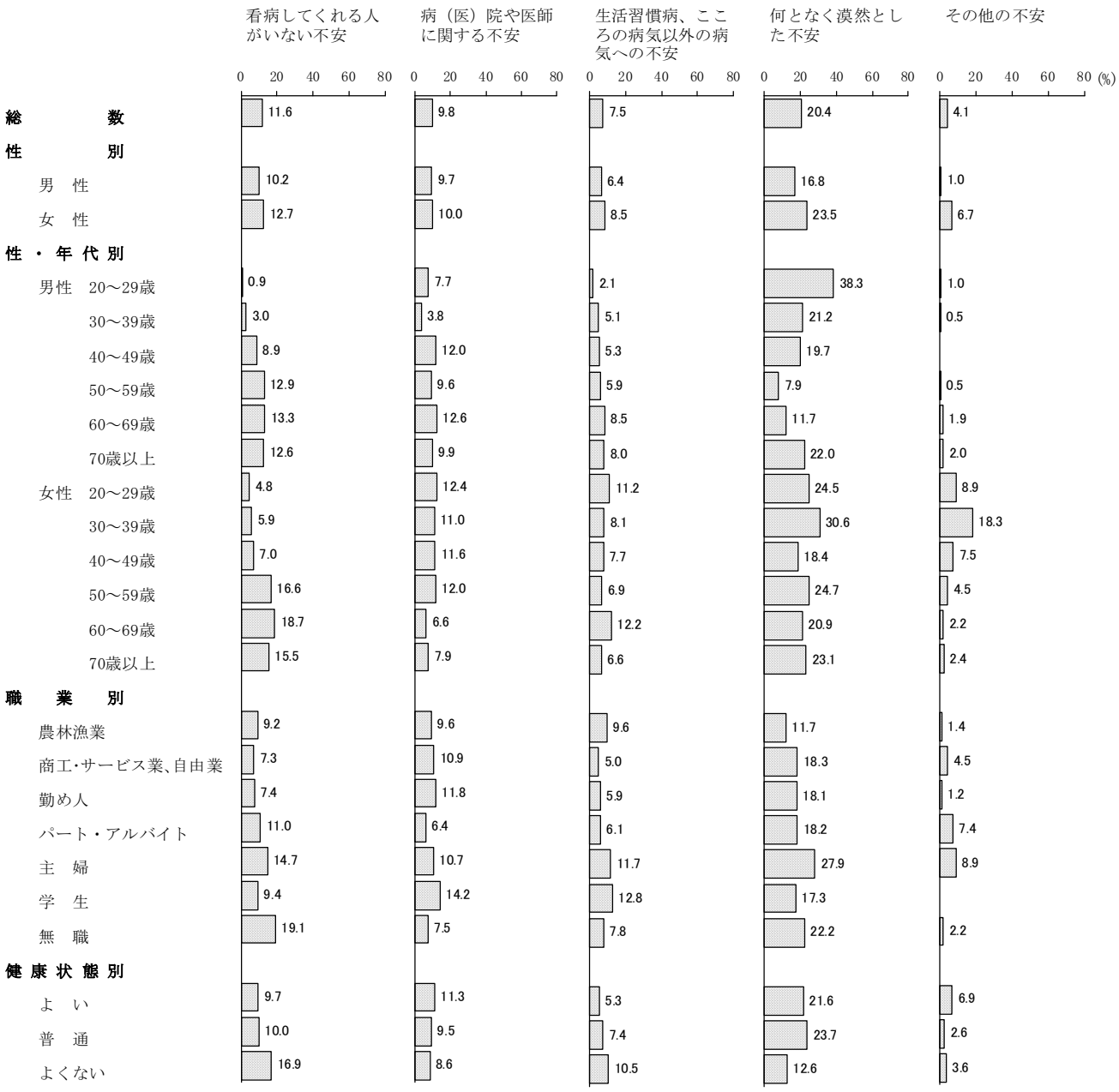
◆***健康状態別***　健康状態がよくない人ほど「がん、脳卒中、心臓病、糖尿病など生活習慣病への不安」「医療費など経済的な不安」「寝たきりにならないかという不安」が多くなっている。

図２－４　具体的な不安内容




看病してくれる人がいない不安
病（医）院や医師に関する不安
生活習慣病、こころの病気以外の病気への不安
何となく漠然とした不安
その他の不安
0 20 40 60 80 (%)
総数 11.6 9.8 7.5 20.4 4.1
地域別
前橋保健医療圏 13.6 7.8 7.2 25.3 4.6
高崎・安中保健医療圏 7.3 9.6 6.2 23.2 4.5
桐生保健医療圏 12.9 11.4 7.9 16.1 4.4
伊勢崎保健医療圏 12.2 9.3 6.4 18.5 2.8
太田・館林保健医療圏 12.1 13.6 9.0 18.0 4.9
渋川保健医療圏 10.2 9.3 8.7 24.6 2.5
藤岡保健医療圏 11.0 5.9 5.7 18.6 2.1
富岡保健医療圏 15.2 8.7 8.7 12.0 6.6
吾妻保健医療圏 19.8 9.2 6.9 16.8 4.6
沼田保健医療圏 10.2 7.3 10.9 20.4 2.7
前橋市 13.2 8.3 7.6 25.7 4.9
高崎市 6.5 9.3 5.6 23.4 4.7
安中市 10.8 10.8 9.4 22.3 3.6
桐生市 10.8 12.5 7.5 16.7 5.0
伊勢崎市 10.9 9.2 6.7 19.3 3.4
太田市 13.0 13.8 6.5 21.1 4.1
館林市 11.8 13.4 10.2 12.6 3.1
渋川市 11.0 8.7 7.9 23.6 2.4
藤岡市 10.1 4.7 5.4 18.2 2.0
市郡別
市部（計） 11.0 9.9 7.2 21.0 4.1
人口10万人以上の市 10.7 10.2 6.7 22.2 4.4
人口10万人未満の市 11.8 9.1 8.6 17.8 3.3
郡部 14.5 9.5 9.0 17.8 4.2


がん、脳卒中、心臓病、糖尿病など生活習慣病への不安
医療費など経済的な不安
寝たきりにならないかという不安
働けなくなることへの不安
不眠、うつ、ストレスなどのこころの病気への不安
0 20 40 60 80 (%)
総数 59.9 41.7 32.1 31.6 20.0
性別
男性 67.2 40.4 28.7 34.9 19.0
女性 53.8 42.8 34.3 29.0 20.7
性・年代別
男性 20～29歳 49.5 47.9 9.8 36.2 27.3
30～39歳 64.6 34.4 5.8 48.6 40.6
40～49歳 57.5 43.4 17.8 46.1 23.5
50～59歳 73.8 40.5 21.7 49.5 18.5
60～69歳 71.9 44.0 41.8 22.5 7.6
70歳以上 67.9 35.8 55.4 10.5 10.2
女性 20～29歳 39.4 38.2 4.9 16.1 47.5
30～39歳 52.7 44.5 6.2 28.5 28.4
40～49歳 56.4 50.7 21.7 43.8 18.1
50～59歳 59.1 39.5 38.1 27.4 22.9
60～69歳 58.8 46.5 50.4 25.5 12.2
70歳以上 46.0 35.6 59.2 25.6 14.0
職業別
農林漁業 46.4 38.0 48.1 41.9 13.8
商工･サービス業､自由業 66.4 39.6 21.0 42.7 15.4
勤め人 66.0 40.2 22.0 43.6 24.5
パート・アルバイト 56.7 52.9 24.1 43.5 23.0
主婦 54.1 41.9 39.9 16.5 16.8
学生 38.2 19.5 9.2 48.1
無職 59.1 38.9 51.2 10.6 16.3
健康状態別
よい 53.0 38.0 29.7 30.9 19.5
普通 62.5 41.1 32.3 32.8 19.0
よくない 63.5 47.3 34.4 30.1 22.5

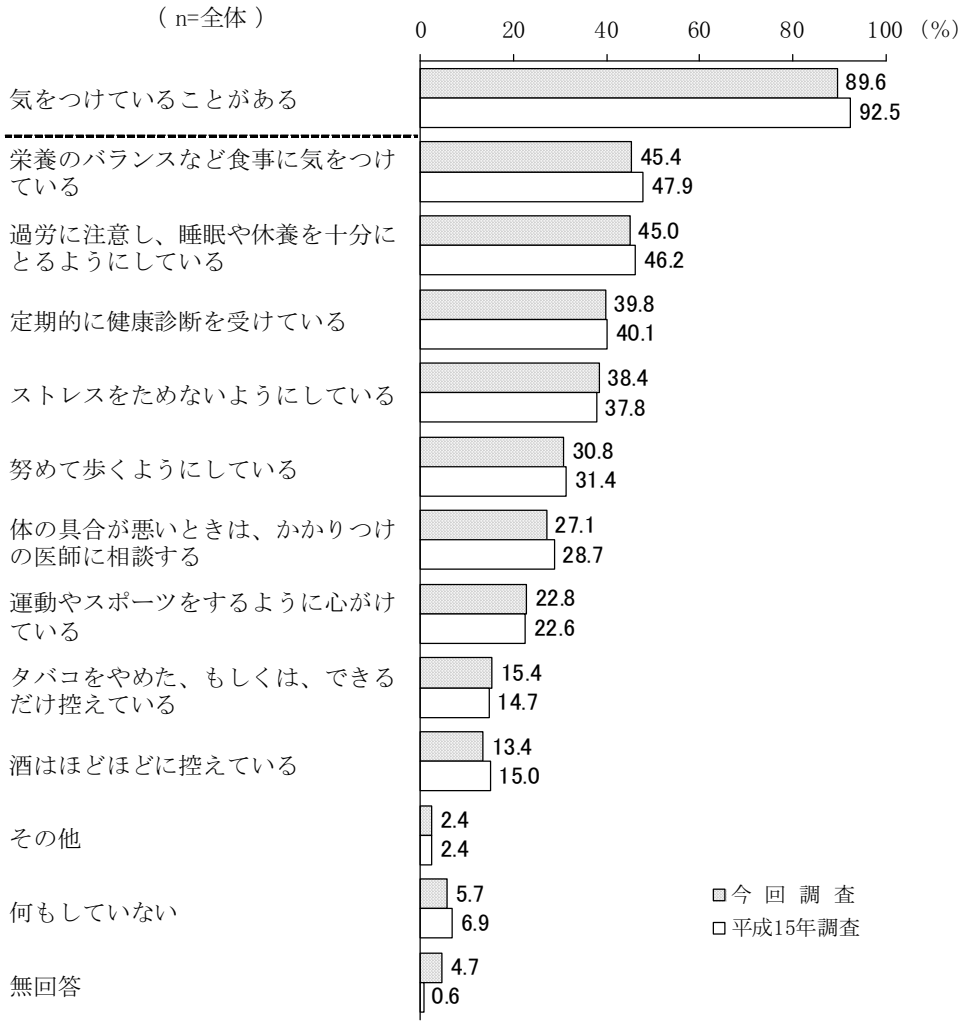

看病してくれる人がいない不安
病（医）院や医師に関する不安
生活習慣病、こころの病気以外の病気への不安
何となく漠然とした不安
その他の不安
0 20 40 60 80 (%)
総数 11.6 9.8 7.5 20.4 4.1
性別
男性 10.2 9.7 6.4 16.8 1.0
女性 12.7 10.0 8.5 23.5 6.7
性・年代別
男性 20～29歳 0.9 7.7 2.1 38.3 1.0
30～39歳 3.0 3.8 5.1 21.2 0.5
40～49歳 8.9 12.0 5.3 19.7
50～59歳 12.9 9.6 5.9 7.9 0.5
60～69歳 13.3 12.6 8.5 11.7 1.9
70歳以上 12.6 9.9 8.0 22.0 2.0
女性 20～29歳 4.8 12.4 11.2 24.5 8.9
30～39歳 5.9 11.0 8.1 30.6 18.3
40～49歳 7.0 11.6 7.7 18.4 7.5
50～59歳 16.6 12.0 6.9 24.7 4.5
60～69歳 18.7 6.6 12.2 20.9 2.2
70歳以上 15.5 7.9 6.6 23.1 2.4
職業別
農林漁業 9.2 9.6 9.6 11.7 1.4
商工･サービス業､自由業 7.3 10.9 5.0 18.3 4.5
勤め人 7.4 11.8 5.9 18.1 1.2
パート・アルバイト 11.0 6.4 6.1 18.2 7.4
主婦 14.7 10.7 11.7 27.9 8.9
学生 9.4 14.2 12.8 17.3
無職 19.1 7.5 7.8 22.2 2.2
健康状態別
よい 9.7 11.3 5.3 21.6 6.9
普通 10.0 9.5 7.4 23.7 2.6
よくない 16.9 8.6 10.5 12.6 3.6

３　健康保持のために気をつけていること

～　「気をつけている」が90%と圧倒的に多い　～

問４　あなたは、健康のために何か気をつけていることがありますか。次の中からあてはまるものをあげてください。（○はあてはまるものすべて）

図３－１



健康保持のために＜気をつけている＞という人は 89.6%を占めている。その内容では、「栄養のバランスなど食事に気をつけている」が 45.4%、「過労に注意し、睡眠や休養を十分にとるようにしている」が 45.0%と多くなっている。

平成 15 年の調査結果との比較では、＜気をつけている＞という人はやや減少している。

◆***地域別***　いずれの地域でも、＜気をつけている＞は 90%前後を占めている。具体的な内容を見ると、いずれの地域でも「栄養のバランスなど食事に気をつけている」と「過労に注意し、睡眠や休養を十分にとるようにしている」が 40%以上となっている。伊勢崎保健医療圏では、「定期的に健康診断を受けている」が 48.4%と、他の保健医療圏に比べて多くなっている。

◆***市郡別***　人口規模が大きいほど「定期的に健康診断を受けている」が多くなっている。

◆***性　別***　男性では「タバコをやめた、もしくは、できるだけ控えている」（26.4%）と「酒はほどほどに控えている」（22.2%）が女性に比べて多くなっている。一方、女性では「栄養のバランスなど

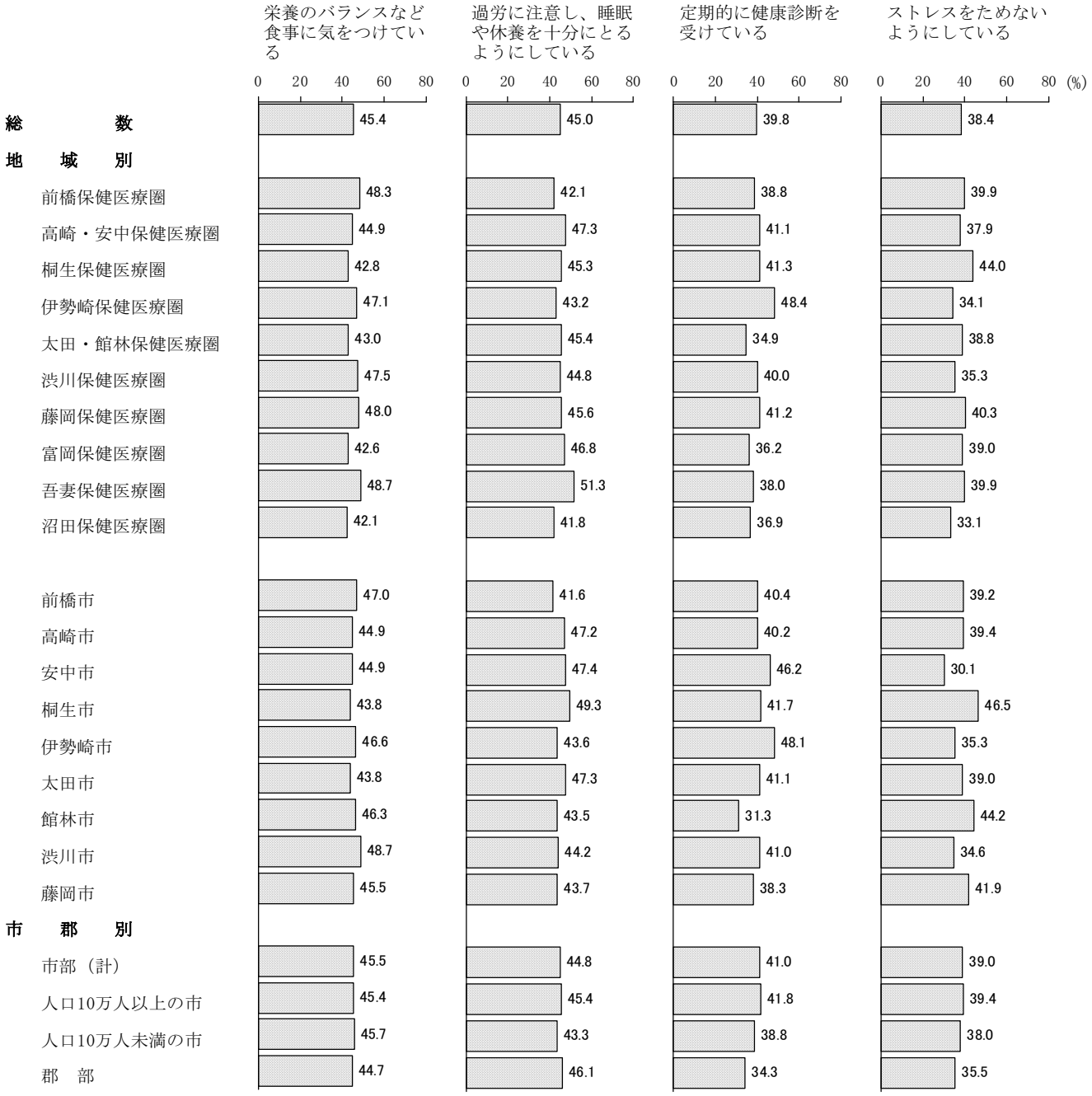
食事に気をつけている」が 51.3%と、男性（38.4%）を上回っている。

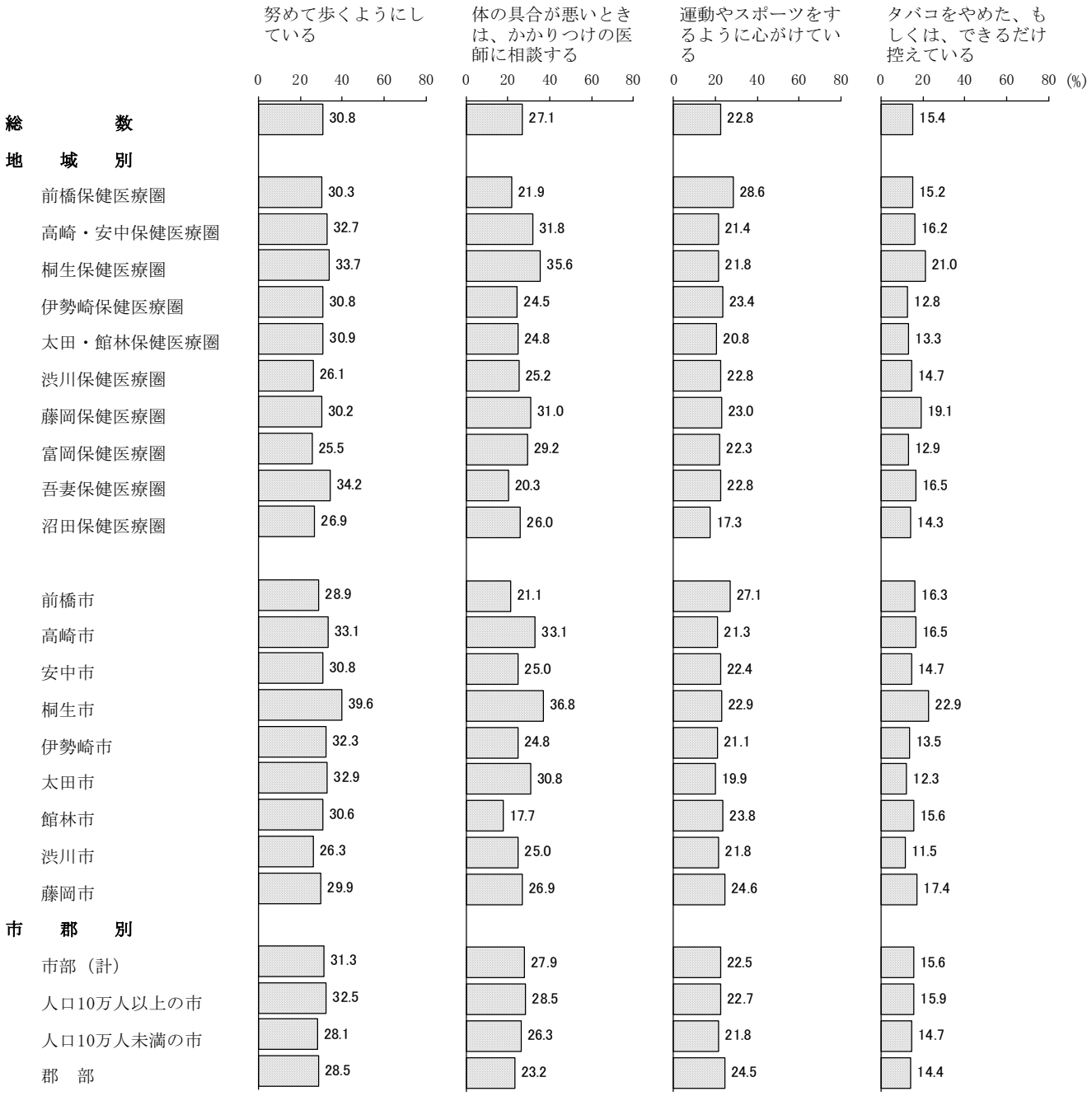
◆***性・年代別***　女性については、年齢が高くなるにつれて、「努めて歩くようにしている」と「体の具合が悪いときは、かかりつけの医師に相談する」が増加している。また、男性の 40 代以上で、「定期的に健康診断を受けている」が 40%を超えている。

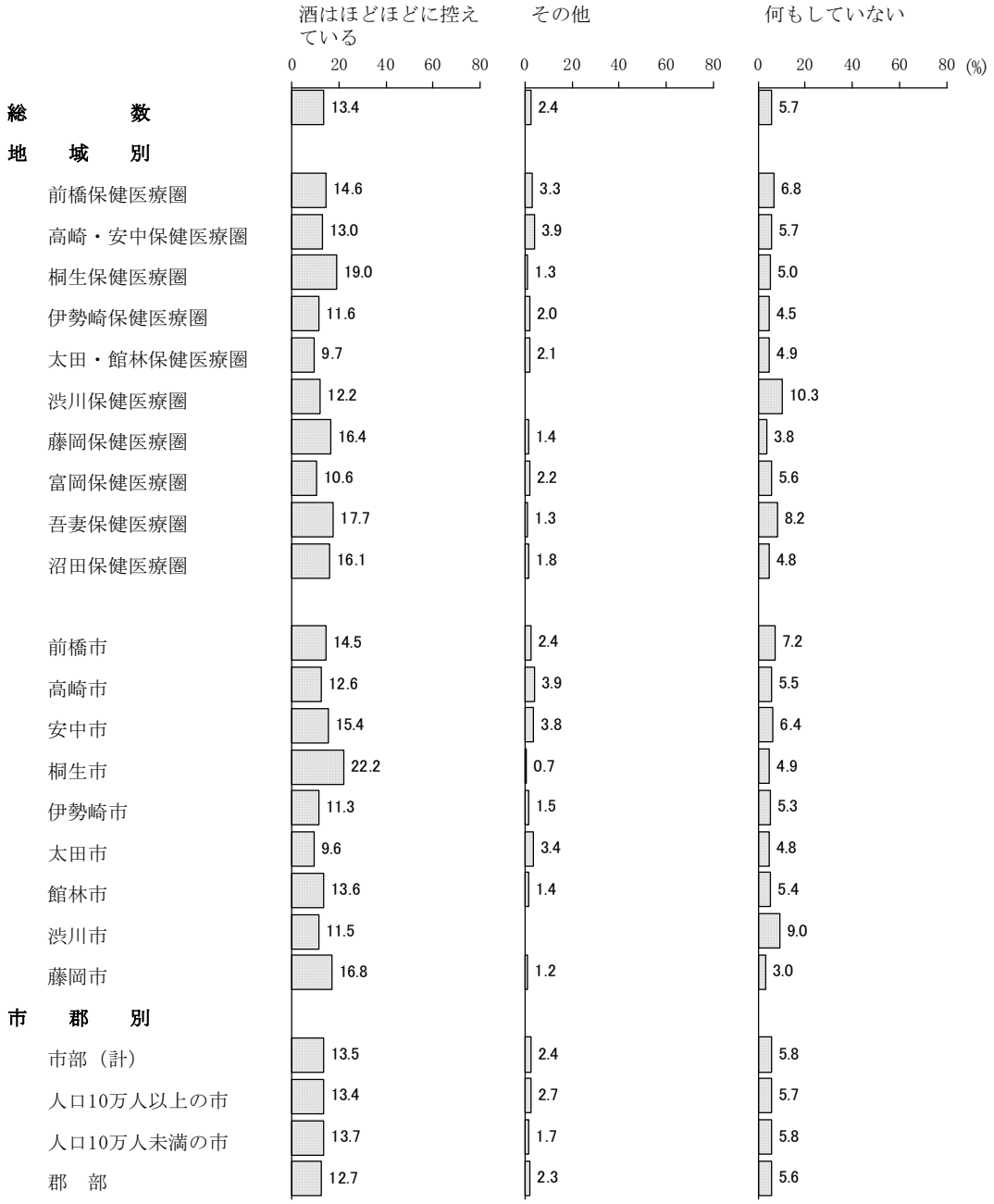
◆***職業別***　主婦では「栄養のバランスなど食事に気をつけている」が 60.7%と多くなっている。無職では「努めて歩くようにしている」が 50.1%と、他の職業に比べかなり多くなっている。

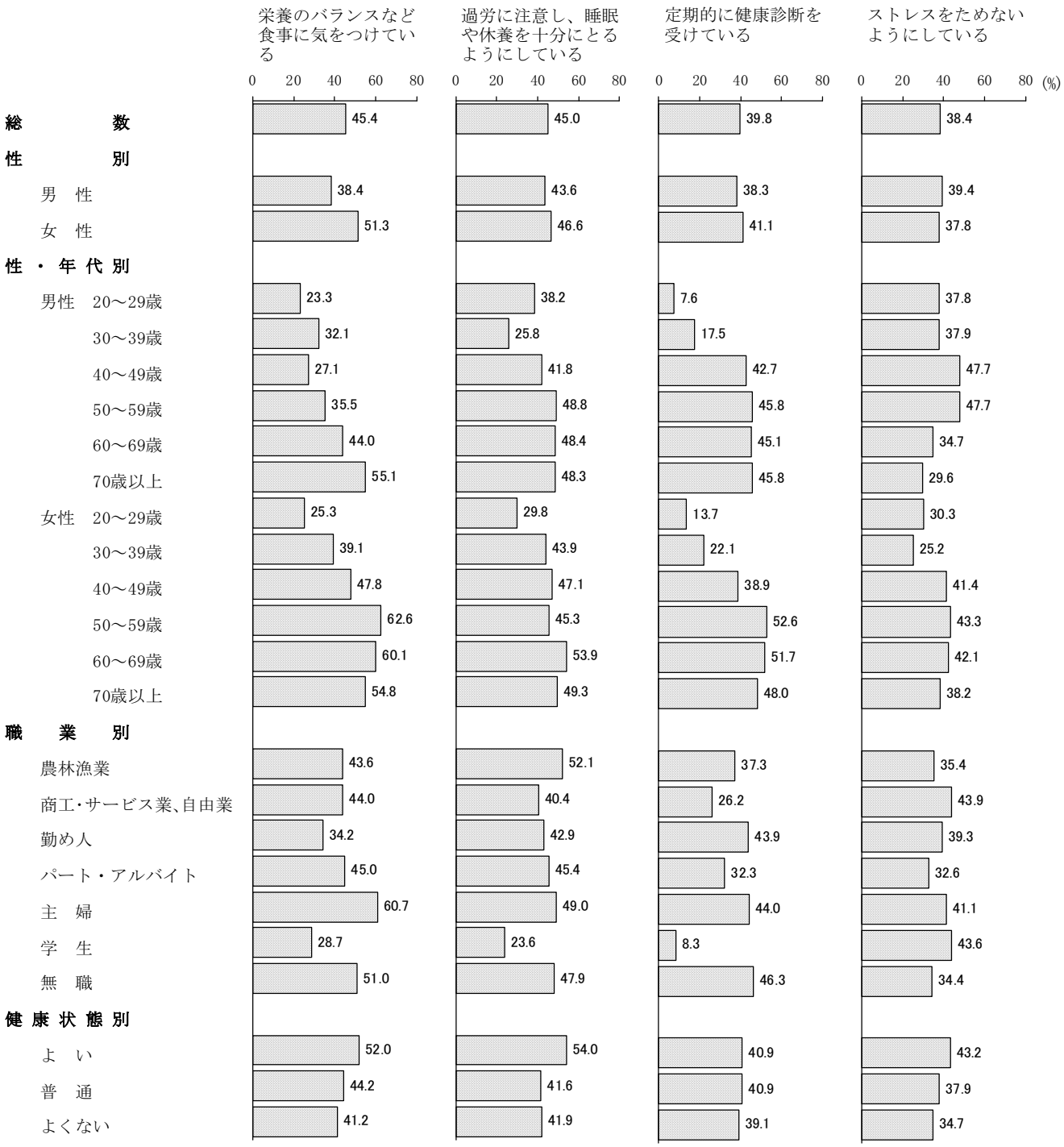
◆***健康状態別***　健康状態のよいという人では「栄養のバランスなど食事に気をつけている」が 52.0%、「過労に注意し、睡眠や休養を十分にとるようにしている」が 54.0%と、普通、よくないという人に比べて多くなっている。また、「体の具合が悪いときは、かかりつけの医師に相談する」は健康状態がよくない人ほど多く、「運動やスポーツをするように心がけている」はよい人ほど多くなっている。

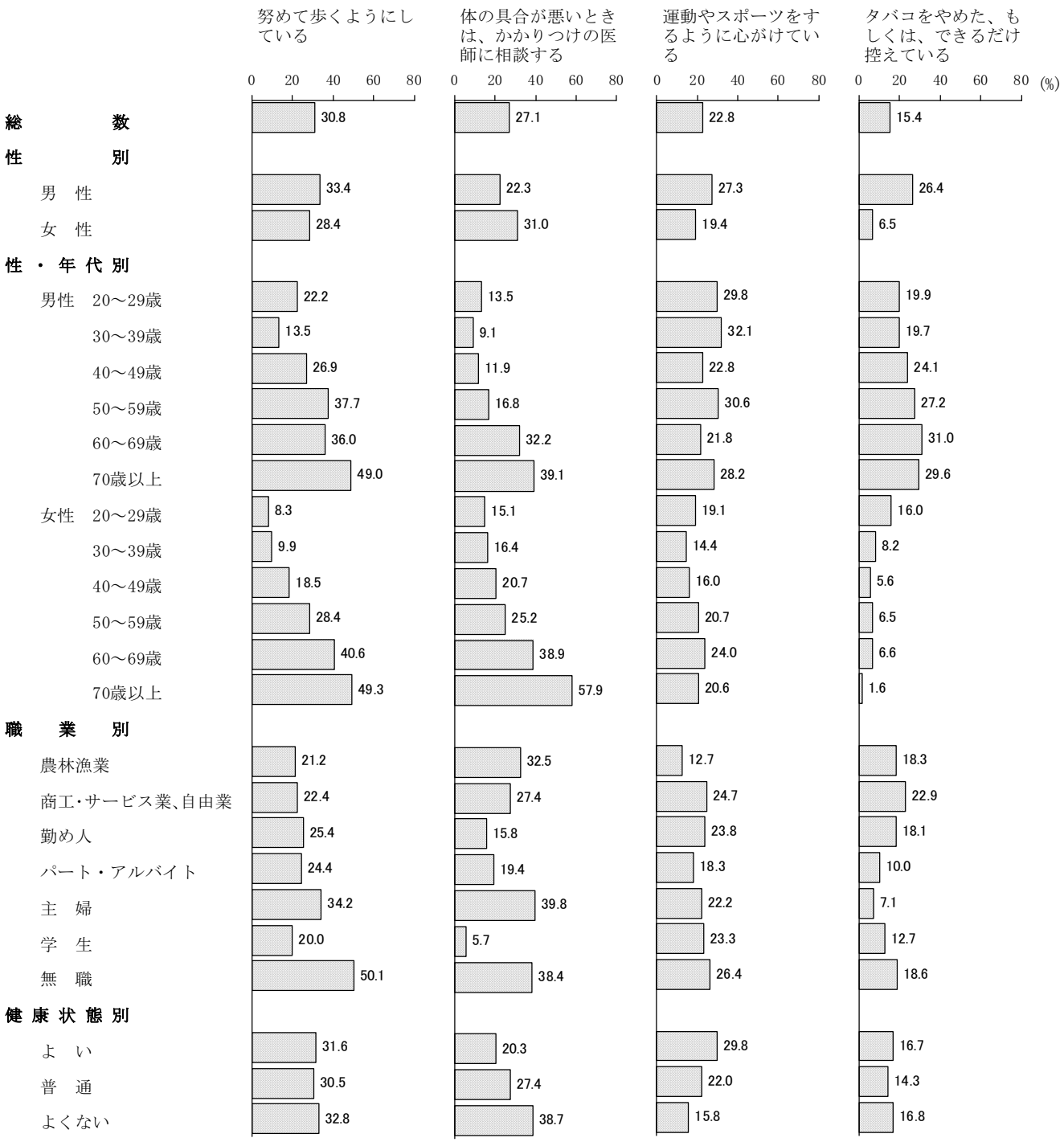
図３－２　健康保持のために気をつけていること

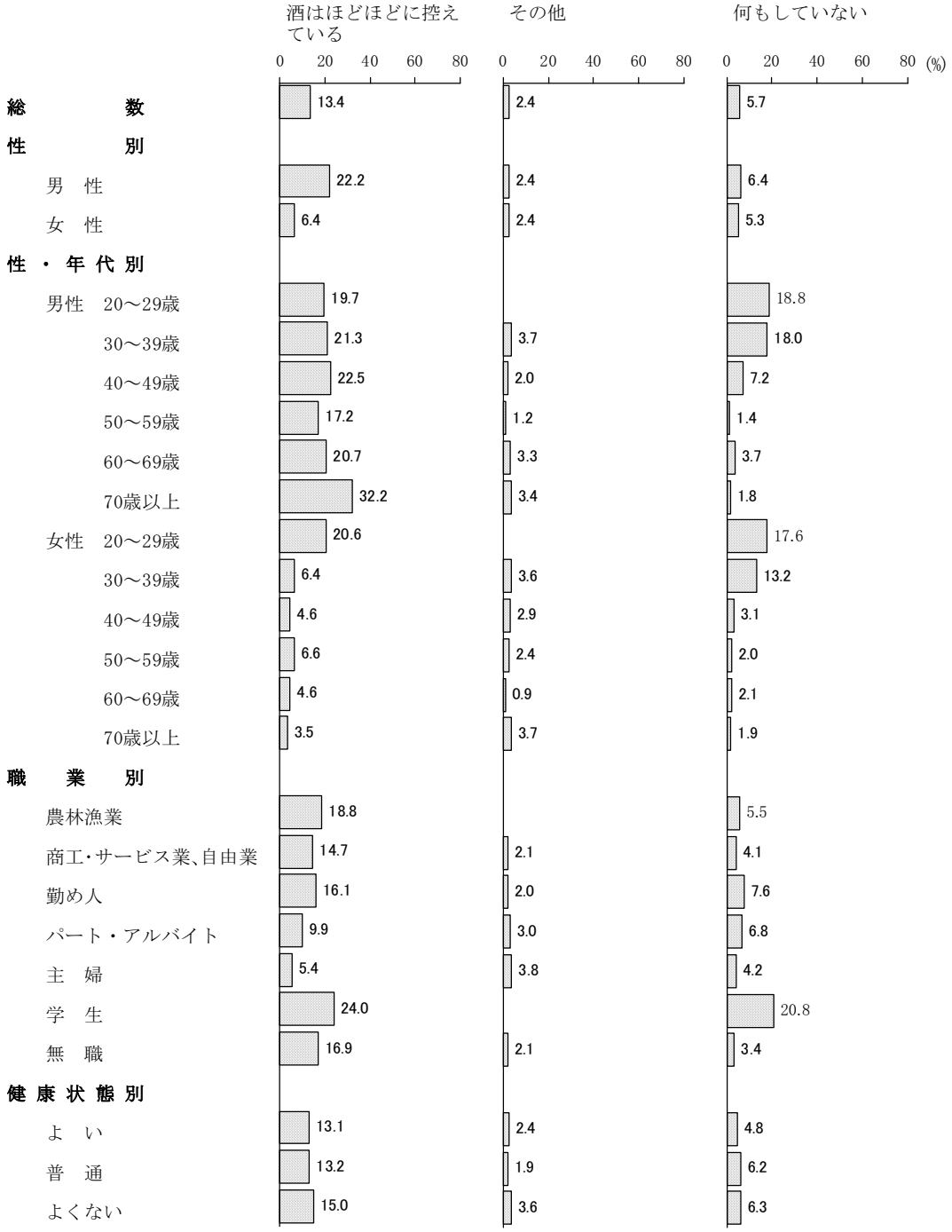



努めて歩くようにしている
体の具合が悪いときは、かかりつけの医師に相談する
運動やスポーツをするように心がけている
タバコをやめた、もしくは、できるだけ控えている
0 20 40 60 80 (%)
総数 30.8 27.1 22.8 15.4
地域別
前橋保健医療圏 30.3 21.9 28.6 15.2
高崎・安中保健医療圏 32.7 31.8 21.4 16.2
桐生保健医療圏 33.7 35.6 21.8 21.0
伊勢崎保健医療圏 30.8 24.5 23.4 12.8
太田・館林保健医療圏 30.9 24.8 20.8 13.3
渋川保健医療圏 26.1 25.2 22.8 14.7
藤岡保健医療圏 30.2 31.0 23.0 19.1
富岡保健医療圏 25.5 29.2 22.3 12.9
吾妻保健医療圏 34.2 20.3 22.8 16.5
沼田保健医療圏 26.9 26.0 17.3 14.3
前橋市 28.9 21.1 27.1 16.3
高崎市 33.1 33.1 21.3 16.5
安中市 30.8 25.0 22.4 14.7
桐生市 39.6 36.8 22.9 22.9
伊勢崎市 32.3 24.8 21.1 13.5
太田市 32.9 30.8 19.9 12.3
館林市 30.6 17.7 23.8 15.6
渋川市 26.3 25.0 21.8 11.5
藤岡市 29.9 26.9 24.6 17.4
市郡別
市部（計） 31.3 27.9 22.5 15.6
人口10万人以上の市 32.5 28.5 22.7 15.9
人口10万人未満の市 28.1 26.3 21.8 14.7
郡　部 28.5 23.2 24.5 14.4


酒はほどほどに控えている
その他
何もしていない
0 20 40 60 80
(%)
総数 13.4 2.4 5.7
地域別
前橋保健医療圏 14.6 3.3 6.8
高崎・安中保健医療圏 13.0 3.9 5.7
桐生保健医療圏 19.0 1.3 5.0
伊勢崎保健医療圏 11.6 2.0 4.5
太田・館林保健医療圏 9.7 2.1 4.9
渋川保健医療圏 12.2 10.3
藤岡保健医療圏 16.4 1.4 3.8
富岡保健医療圏 10.6 2.2 5.6
吾妻保健医療圏 17.7 1.3 8.2
沼田保健医療圏 16.1 1.8 4.8
前橋市 14.5 2.4 7.2
高崎市 12.6 3.9 5.5
安中市 15.4 3.8 6.4
桐生市 22.2 0.7 4.9
伊勢崎市 11.3 1.5 5.3
太田市 9.6 3.4 4.8
館林市 13.6 1.4 5.4
渋川市 11.5 9.0
藤岡市 16.8 1.2 3.0
市郡別
市部（計） 13.5 2.4 5.8
人口10万人以上の市 13.4 2.7 5.7
人口10万人未満の市 13.7 1.7 5.8
郡　部 12.7 2.3 5.6


栄養のバランスなど食事に気をつけている
過労に注意し、睡眠や休養を十分にとるようにしている
定期的に健康診断を受けている
ストレスをためないようにしている
0 20 40 60 80 (%)
総数 45.4 45.0 39.8 38.4
性別
男性 38.4 43.6 38.3 39.4
女性 51.3 46.6 41.1 37.8
性・年代別
男性 20～29歳 23.3 38.2 7.6 37.8
30～39歳 32.1 25.8 17.5 37.9
40～49歳 27.1 41.8 42.7 47.7
50～59歳 35.5 48.8 45.8 47.7
60～69歳 44.0 48.4 45.1 34.7
70歳以上 55.1 48.3 45.8 29.6
女性 20～29歳 25.3 29.8 13.7 30.3
30～39歳 39.1 43.9 22.1 25.2
40～49歳 47.8 47.1 38.9 41.4
50～59歳 62.6 45.3 52.6 43.3
60～69歳 60.1 53.9 51.7 42.1
70歳以上 54.8 49.3 48.0 38.2
職業別
農林漁業 43.6 52.1 37.3 35.4
商工・サービス業、自由業 44.0 40.4 26.2 43.9
勤め人 34.2 42.9 43.9 39.3
パート・アルバイト 45.0 45.4 32.3 32.6
主婦 60.7 49.0 44.0 41.1
学生 28.7 23.6 8.3 43.6
無職 51.0 47.9 46.3 34.4
健康状態別
よい 52.0 54.0 40.9 43.2
普通 44.2 41.6 40.9 37.9
よくない 41.2 41.9 39.1 34.7


努めて歩くようにしている
体の具合が悪いときは、かかりつけの医師に相談する
運動やスポーツをするように心がけている
タバコをやめた、もしくは、できるだけ控えている
0 20 40 60 80
(%)
総数 30.8 27.1 22.8 15.4
性別
男性 33.4 22.3 27.3 26.4
女性 28.4 31.0 19.4 6.5
性・年代別
男性 20～29歳 22.2 13.5 29.8 19.9
30～39歳 13.5 9.1 32.1 19.7
40～49歳 26.9 11.9 22.8 24.1
50～59歳 37.7 16.8 30.6 27.2
60～69歳 36.0 32.2 21.8 31.0
70歳以上 49.0 39.1 28.2 29.6
女性 20～29歳 8.3 15.1 19.1 16.0
30～39歳 9.9 16.4 14.4 8.2
40～49歳 18.5 20.7 16.0 5.6
50～59歳 28.4 25.2 20.7 6.5
60～69歳 40.6 38.9 24.0 6.6
70歳以上 49.3 57.9 20.6 1.6
職業別
農林漁業 21.2 32.5 12.7 18.3
商工・サービス業、自由業 22.4 27.4 24.7 22.9
勤め人 25.4 15.8 23.8 18.1
パート・アルバイト 24.4 19.4 18.3 10.0
主婦 34.2 39.8 22.2 7.1
学生 20.0 5.7 23.3 12.7
無職 50.1 38.4 26.4 18.6
健康状態別
よい 31.6 20.3 29.8 16.7
普通 30.5 27.4 22.0 14.3
よくない 32.8 38.7 15.8 16.8


酒はほどほどに控えている
その他
何もしていない
0 20 40 60 80
(%)
総数 13.4 2.4 5.7
性別
男性 22.2 2.4 6.4
女性 6.4 2.4 5.3
性・年代別
男性 20～29歳 19.7 18.8
30～39歳 21.3 3.7 18.0
40～49歳 22.5 2.0 7.2
50～59歳 17.2 1.2 1.4
60～69歳 20.7 3.3 3.7
70歳以上 32.2 3.4 1.8
女性 20～29歳 20.6 17.6
30～39歳 6.4 3.6 13.2
40～49歳 4.6 2.9 3.1
50～59歳 6.6 2.4 2.0
60～69歳 4.6 0.9 2.1
70歳以上 3.5 3.7 1.9
職業別
農林漁業 18.8 5.5
商工・サービス業、自由業 14.7 2.1 4.1
勤め人 16.1 2.0 7.6
パート・アルバイト 9.9 3.0 6.8
主婦 5.4 3.8 4.2
学生 24.0 20.8
無職 16.9 2.1 3.4
健康状態別
よい 13.1 2.4 4.8
普通 13.2 1.9 6.2
よくない 15.0 3.6 6.3

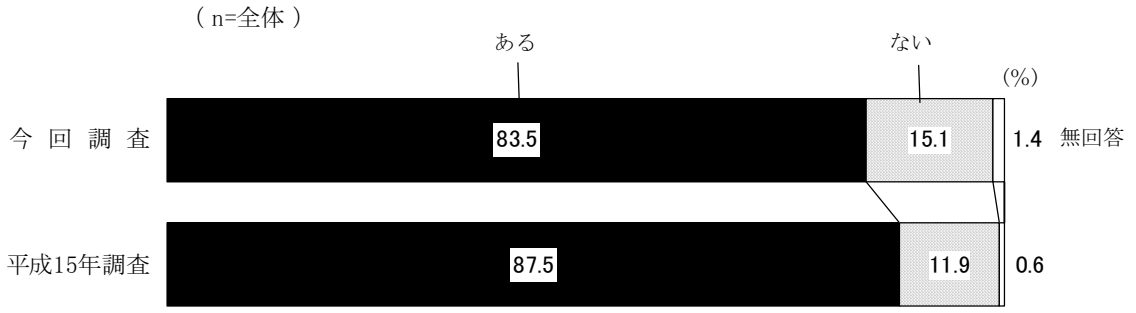
４　健康診断

（１）健康診断受診の有無

～　「健康診断を受けた」84%　～

問５　あなたは、過去１年間に健康診断を受けたことがありますか。（○は１つだけ）

図４－１



（注）平成15年調査では、調査対象者全員に、健康診断を「受けていない」か、または、受けた場合の、今回の問５－１で聞いた受診内容を同時に聞いた。平成15年調査の結果から、今回質問の問５と比較可能な数値を算出し比較した。

過去１年間に健康診断を「受けた」という人は83.5%、「受けていない」は15.1%となっている。

平成 15 年調査とは質問形式が異なっているが、健康診断の受診率に変動はあるものの、受診者が多数を占める傾向は変わらない。

◆***地域別***　いずれの保健医療圏でも、「受けた」が80%を超えている。

◆***市郡別***　人口規模が小さいほど、受診率が高く、郡部では「受けた」が87.6%を占めている。

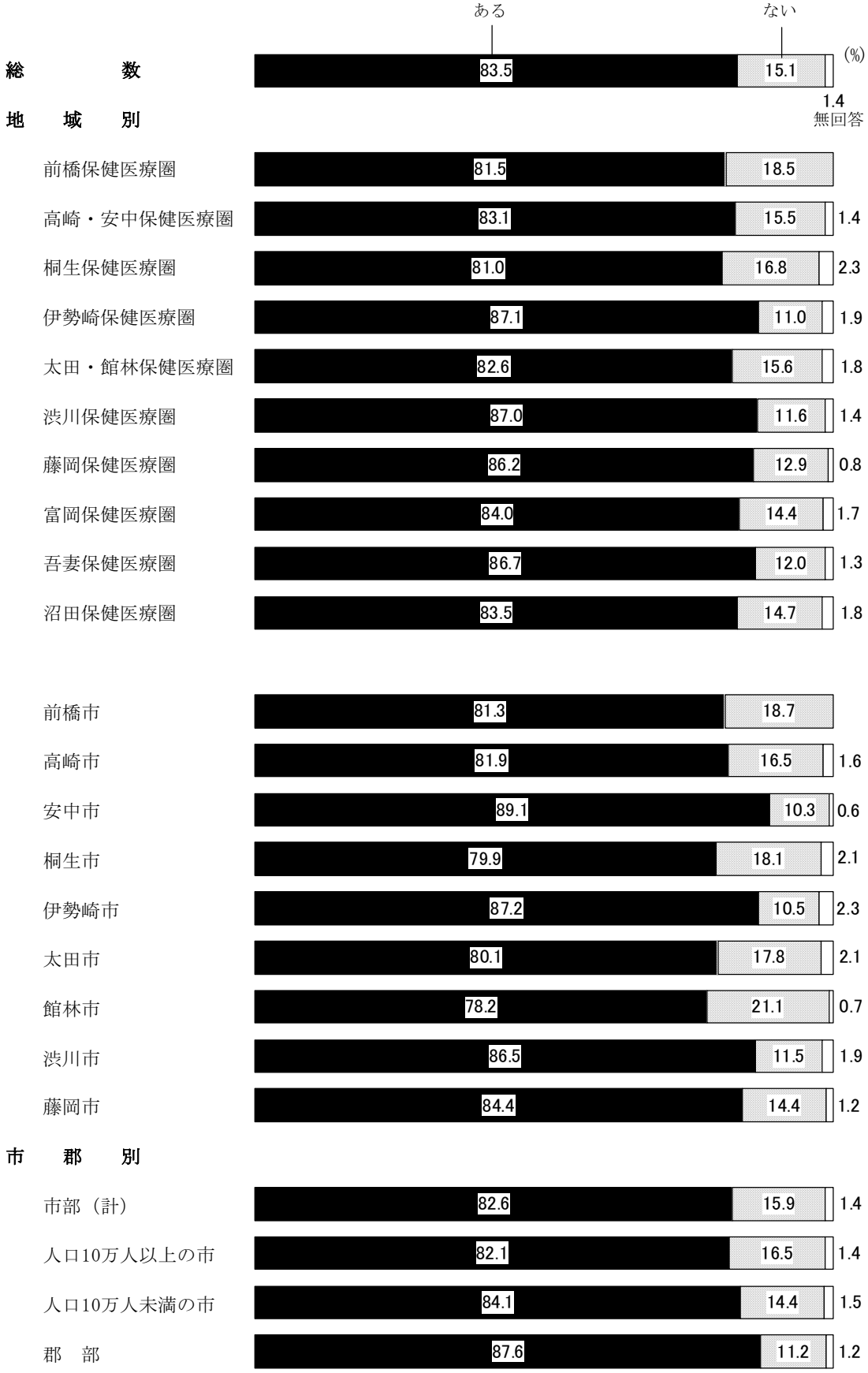
◆***性　別***　男性の受診率は87.2%と女性（80.8%）を上回っている。

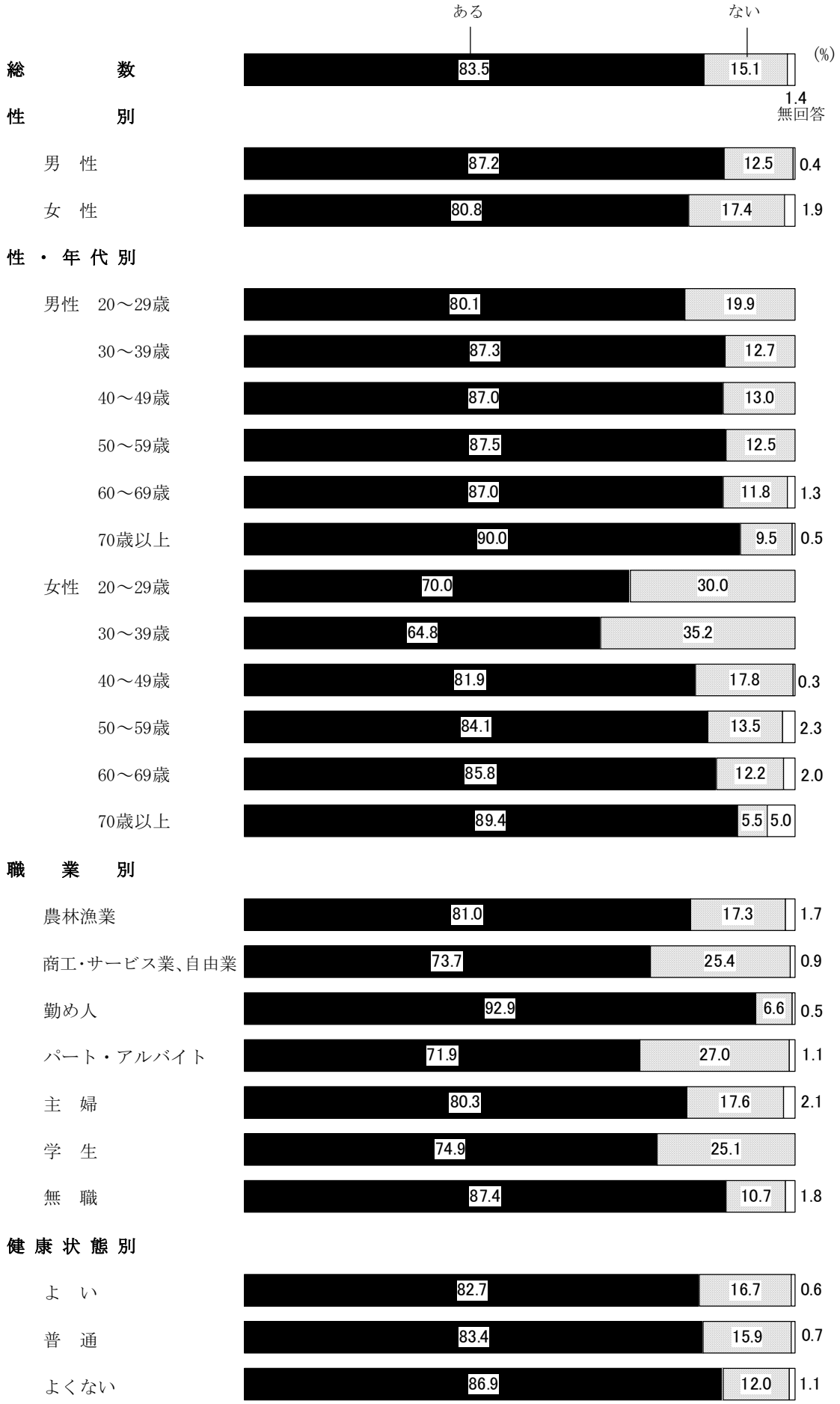
◆***性・年代別***　男性では20代（80.1%）で受診率が低く、30代以上の年齢では90%前後となっている。女性では、20代で70.0%、30代で64.8%と受診率が低く、40代以上では80%を超え、年齢が高くなるにつれて増加している。

◆***職業別***　勤め人で92.9%、無職で87.4%と受診率が高く、商工・サービス業で73.7%、パート・アルバイトで71.9%、学生で74.9%と低くなっている。

◆***健康状態別***　健康状態に関わらず、受診率は80%を超えている。

図４－２　健康診断受診の有無



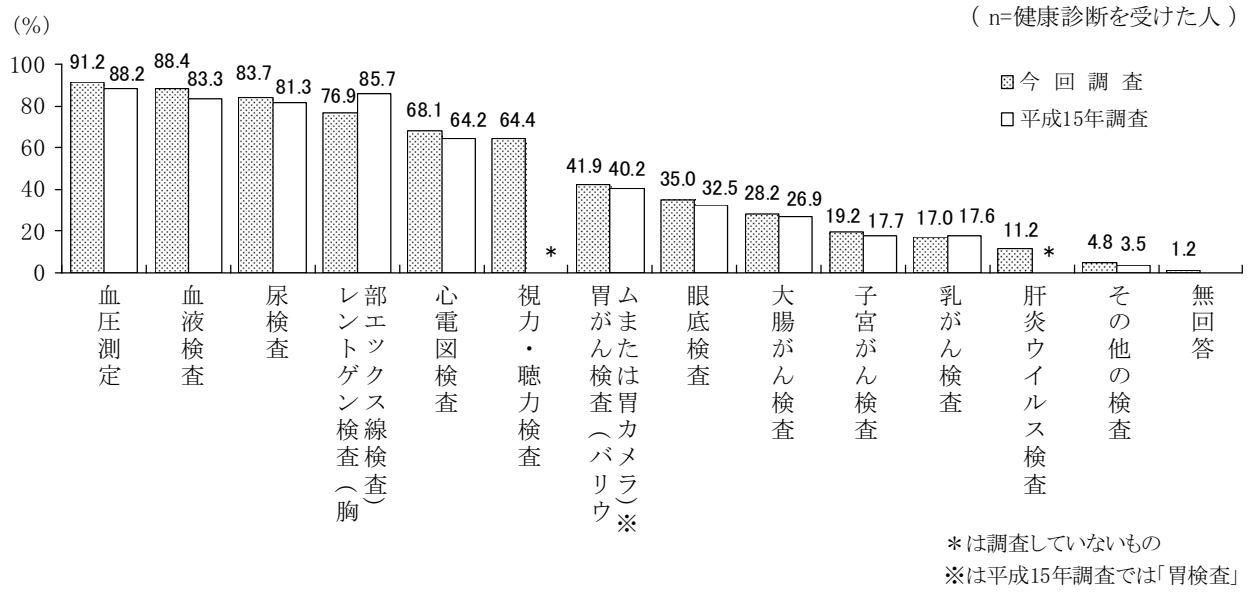

ある
ない
(%)
総　　数 83.5 15.1 1.4
無回答
性　　別
男　性 87.2 12.5 0.4
女　性 80.8 17.4 1.9
性・年代別
男性　20～29歳 80.1 19.9
30～39歳 87.3 12.7
40～49歳 87.0 13.0
50～59歳 87.5 12.5
60～69歳 87.0 11.8 1.3
70歳以上 90.0 9.5 0.5
女性　20～29歳 70.0 30.0
30～39歳 64.8 35.2
40～49歳 81.9 17.8 0.3
50～59歳 84.1 13.5 2.3
60～69歳 85.8 12.2 2.0
70歳以上 89.4 5.5 5.0
職　業　別
農林漁業 81.0 17.3 1.7
商工･サービス業､自由業 73.7 25.4 0.9
勤め人 92.9 6.6 0.5
パート・アルバイト 71.9 27.0 1.1
主　婦 80.3 17.6 2.1
学　生 74.9 25.1
無　職 87.4 10.7 1.8
健康状態別
よ　い 82.7 16.7 0.6
普　通 83.4 15.9 0.7
よくない 86.9 12.0 1.1

（２）健康診断の受診内容

～　「血圧測定」91%、「血液検査」88%、「尿検査」84%が多い　～

問５－１　受けたものをあげて下さい。（○はあてはまるものすべて）

図４－３



（注）　平成15年調査では、調査対象者全員に、健康診断を「受けていない」か、または、受けた場合の、今回の問５－１で聞いた受診内容を同時に聞いた。平成15年調査の結果から、今回質問の問５－１と比較可能な数値を算出し比較した。

過去１年間に健康診断を「受けた」人の内容としては「血圧測定」(91.2%)、「血液検査」(88.4%)、「尿検査」(83.7%)、「レントゲン検査（胸部エックス線検査)」(76.9%）の４項目が、70%を超えている。

平成 15 年調査とは質問形式が異なり、項目も変わっているが、「レントゲン検査（胸部エックス線検査)」が減少している。

◆***地域別***　渋川保健医療圏と沼田保健医療圏では、上位４項目の割合が、いずれも 85%以上となっている。

◆***市郡別***　市部と郡部で上位４項目のうち「血圧測定」「血液検査」「尿検査」はあまり差異がみられないが、「レントゲン検査」は市部より郡部でやや多い。

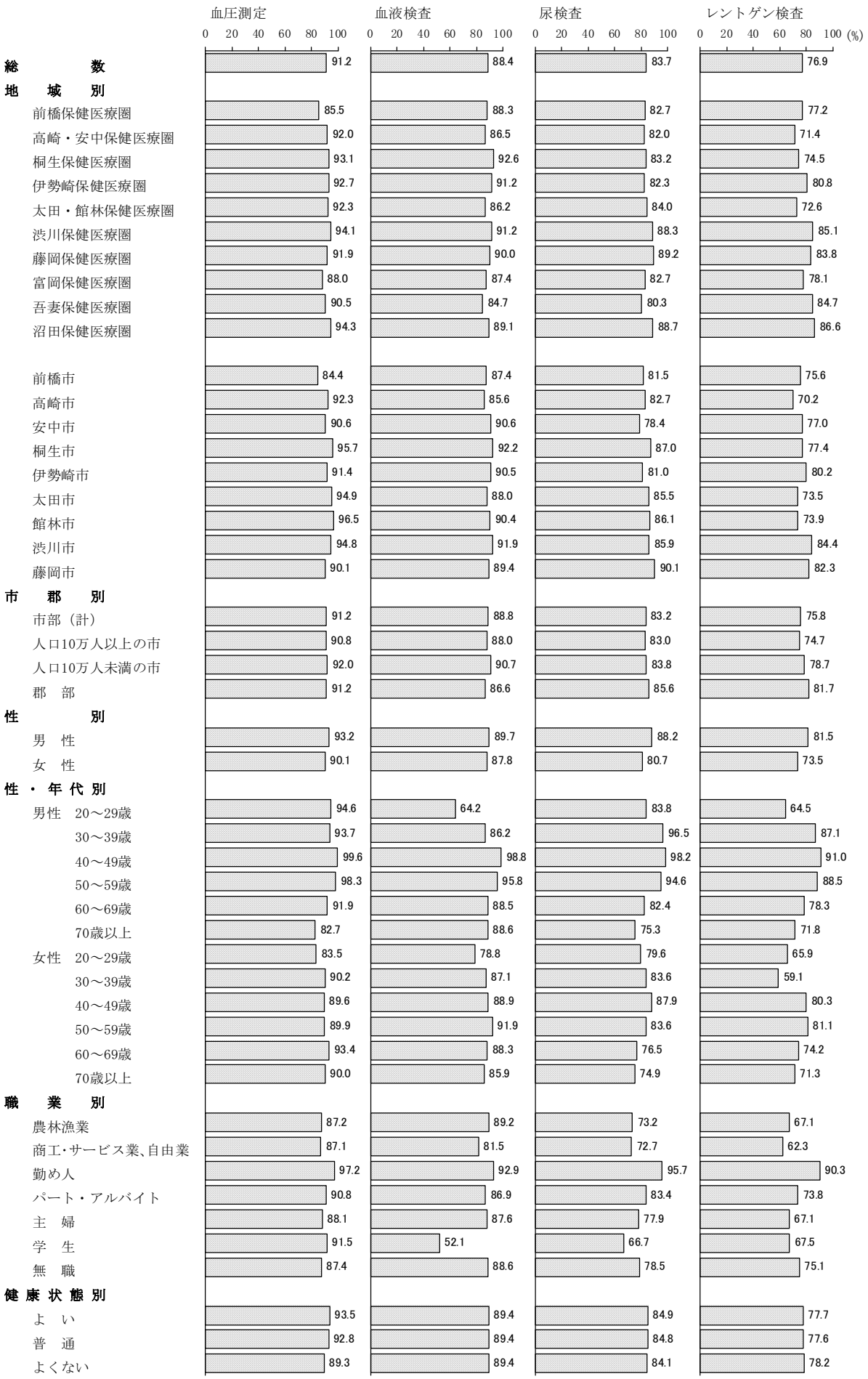
◆***性　別***　女性特有の検診以外のほとんどの項目で男性の方が多くなっている。

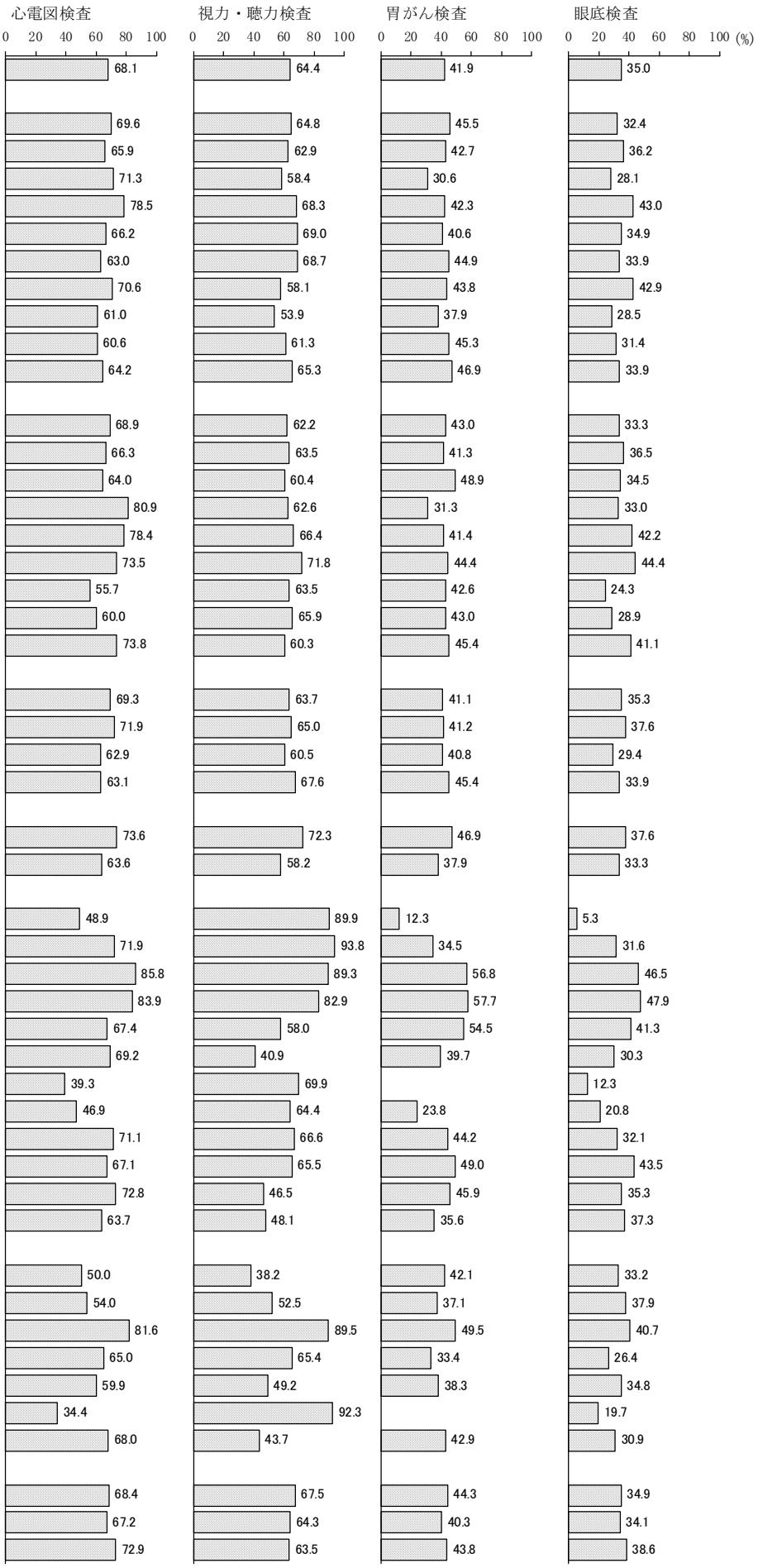
◆***性・年代別***　男女ともに 40 代、50 代を中心に各検査の受診率が高く、20 代で低い傾向がみられるが、「視力・聴力検査」は 20 代や 30 代でも多くなっている。また、男性では年齢が上がるにつれて「大腸がん検査」が増加し、60 代で 46.5%と最も高くなるが、70 代では 28.6%と下がっている。

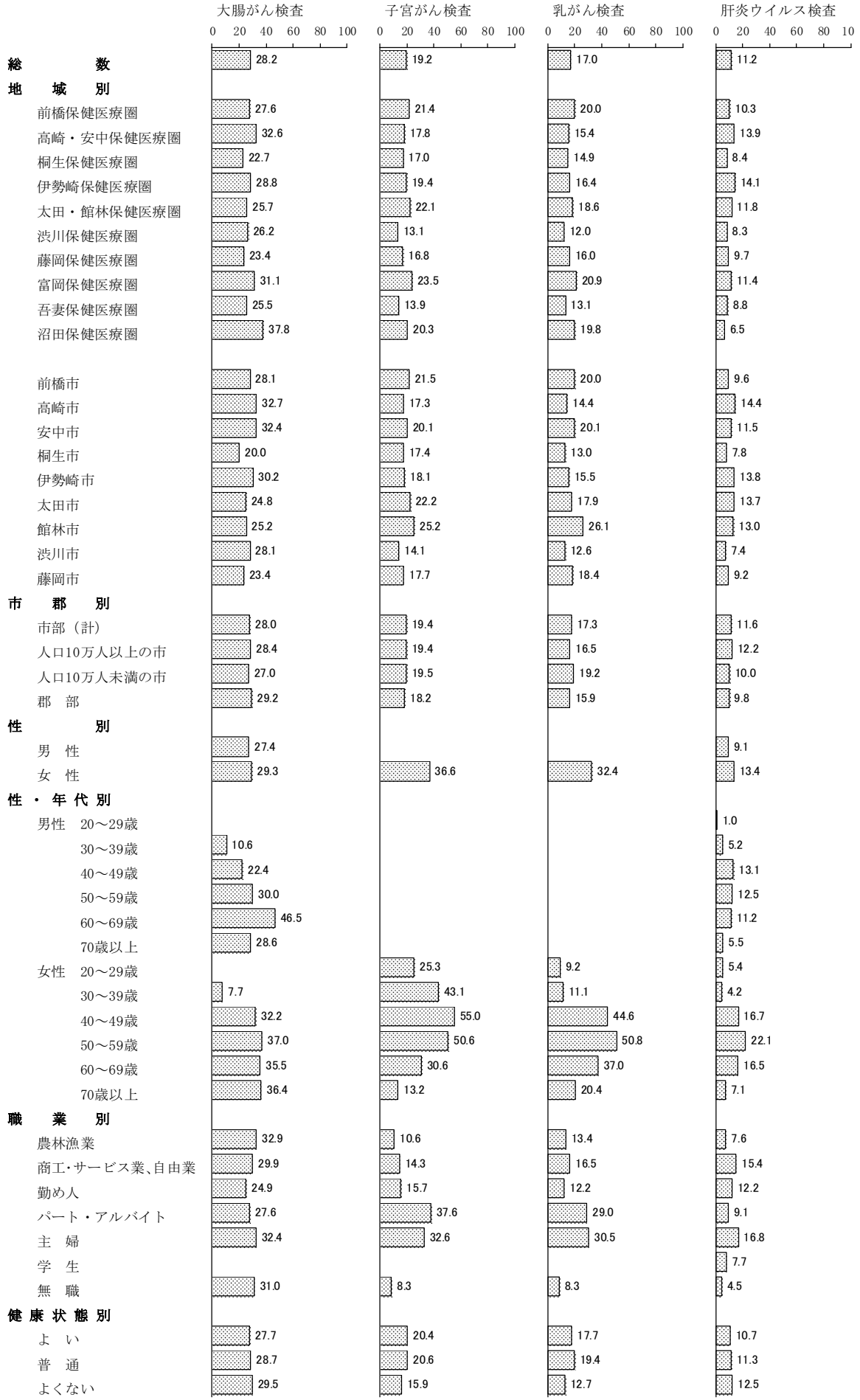
◆***職業別***　勤め人は、上位にあげられたほとんどの項目で他の職業に比べ受診率が高くなっているが、中でも「尿検査」「レントゲン検査」「心電図検査」での差が多くみられる。

◆***健康状態別***　健康状態がよいという人、普通という人では、「子宮がん検査」「乳がん検査」の受診率が、よくないという人よりやや多くなっている。

図４－４　健康診断の受診内容




心電図検査
視力・聴力検査
胃がん検査
眼底検査
0 20 40 60 80 100 (%)
総数 68.1 64.4 41.9 35.0
地域別
前橋保健医療圏 69.6 64.8 45.5 32.4
高崎・安中保健医療圏 65.9 62.9 42.7 36.2
桐生保健医療圏 71.3 58.4 30.6 28.1
伊勢崎保健医療圏 78.5 68.3 42.3 43.0
太田・館林保健医療圏 66.2 69.0 40.6 34.9
渋川保健医療圏 63.0 68.7 44.9 33.9
藤岡保健医療圏 70.6 58.1 43.8 42.9
富岡保健医療圏 61.0 53.9 37.9 28.5
吾妻保健医療圏 60.6 61.3 45.3 31.4
沼田保健医療圏 64.2 65.3 46.9 33.9
前橋市 68.9 62.2 43.0 33.3
高崎市 66.3 63.5 41.3 36.5
安中市 64.0 60.4 48.9 34.5
桐生市 80.9 62.6 31.3 33.0
伊勢崎市 78.4 66.4 41.4 42.2
太田市 73.5 71.8 44.4 44.4
館林市 55.7 63.5 42.6 24.3
渋川市 60.0 65.9 43.0 28.9
藤岡市 73.8 60.3 45.4 41.1
市郡別
市部（計） 69.3 63.7 41.1 35.3
人口10万人以上の市 71.9 65.0 41.2 37.6
人口10万人未満の市 62.9 60.5 40.8 29.4
郡部 63.1 67.6 45.4 33.9
性別
男性 73.6 72.3 46.9 37.6
女性 63.6 58.2 37.9 33.3
性・年代別
男性 20～29歳 48.9 89.9 12.3 5.3
30～39歳 71.9 93.8 34.5 31.6
40～49歳 85.8 89.3 56.8 46.5
50～59歳 83.9 82.9 57.7 47.9
60～69歳 67.4 58.0 54.5 41.3
70歳以上 69.2 40.9 39.7 30.3
女性 20～29歳 39.3 69.9 12.3
30～39歳 46.9 64.4 23.8 20.8
40～49歳 71.1 66.6 44.2 32.1
50～59歳 67.1 65.5 49.0 43.5
60～69歳 72.8 46.5 45.9 35.3
70歳以上 63.7 48.1 35.6 37.3
職業別
農林漁業 50.0 38.2 42.1 33.2
商工・サービス業、自由業 54.0 52.5 37.1 37.9
勤め人 81.6 89.5 49.5 40.7
パート・アルバイト 65.0 65.4 33.4 26.4
主婦 59.9 49.2 38.3 34.8
学生 34.4 92.3 19.7
無職 68.0 43.7 42.9 30.9
健康状態別
よい 68.4 67.5 44.3 34.9
普通 67.2 64.3 40.3 34.1
よくない 72.9 63.5 43.8 38.6

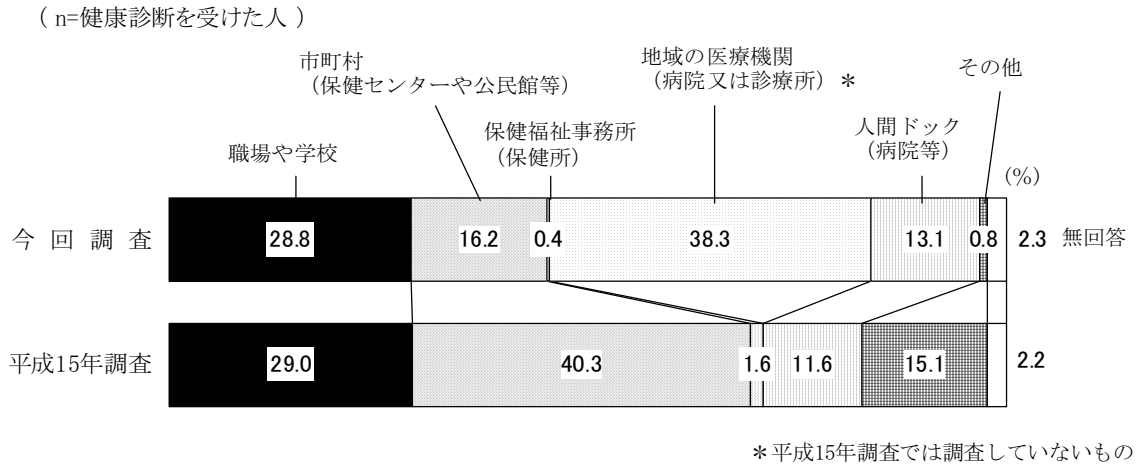

大腸がん検査
子宮がん検査
乳がん検査
肝炎ウイルス検査
0 20 40 60 80 100
0 20 40 60 80 10
総数 28.2 19.2 17.0 11.2
地域別
前橋保健医療圏 27.6 21.4 20.0 10.3
高崎・安中保健医療圏 32.6 17.8 15.4 13.9
桐生保健医療圏 22.7 17.0 14.9 8.4
伊勢崎保健医療圏 28.8 19.4 16.4 14.1
太田・館林保健医療圏 25.7 22.1 18.6 11.8
渋川保健医療圏 26.2 13.1 12.0 8.3
藤岡保健医療圏 23.4 16.8 16.0 9.7
富岡保健医療圏 31.1 23.5 20.9 11.4
吾妻保健医療圏 25.5 13.9 13.1 8.8
沼田保健医療圏 37.8 20.3 19.8 6.5
前橋市 28.1 21.5 20.0 9.6
高崎市 32.7 17.3 14.4 14.4
安中市 32.4 20.1 20.1 11.5
桐生市 20.0 17.4 13.0 7.8
伊勢崎市 30.2 18.1 15.5 13.8
太田市 24.8 22.2 17.9 13.7
館林市 25.2 25.2 26.1 13.0
渋川市 28.1 14.1 12.6 7.4
藤岡市 23.4 17.7 18.4 9.2
市郡別
市部（計） 28.0 19.4 17.3 11.6
人口10万人以上の市 28.4 19.4 16.5 12.2
人口10万人未満の市 27.0 19.5 19.2 10.0
郡部 29.2 18.2 15.9 9.8
性別
男性 27.4 9.1
女性 29.3 36.6 32.4 13.4
性・年代別
男性 20～29歳 1.0
30～39歳 10.6 5.2
40～49歳 22.4 13.1
50～59歳 30.0 12.5
60～69歳 46.5 11.2
70歳以上 28.6 5.5
女性 20～29歳 25.3 9.2 5.4
30～39歳 7.7 43.1 11.1 4.2
40～49歳 32.2 55.0 44.6 16.7
50～59歳 37.0 50.6 50.8 22.1
60～69歳 35.5 30.6 37.0 16.5
70歳以上 36.4 13.2 20.4 7.1
職業別
農林漁業 32.9 10.6 13.4 7.6
商工・サービス業、自由業 29.9 14.3 16.5 15.4
勤め人 24.9 15.7 12.2 12.2
パート・アルバイト 27.6 37.6 29.0 9.1
主婦 32.4 32.6 30.5 16.8
学生 7.7
無職 31.0 8.3 8.3 4.5
健康状態別
よい 27.7 20.4 17.7 10.7
普通 28.7 20.6 19.4 11.3
よくない 29.5 15.9 12.7 12.5

（３）健康診断の受診場所

～　「地域の医療機関（病院又は診療所）」38%が多い　～

問５－２　いちばん最近の健康診断をどこで受けましたか。（○は１つだけ）

図４－５



（注）　平成15年調査の選択肢は、「職場や学校で行なう健康診断」「市町村（保健センター等）で行なう健康診断」「保健福祉事務所（保健所）で行う健康診断」「人間ドック」「その他」

健康診断の受診場所としては「地域の医療機関（病院又は診療所）」が 38.3%で最も多く、以下「職場や学校」(28.8%)、「市町村（保健センターや公民館等）」(16.2%)、「人間ドック（病院等）」(13.1%)の順となっている。

平成 15 年の調査結果とは、選択肢の変更があり数値の変動が大きいので、参考までに掲載することとする。

◆***地域別***　前橋保健医療圏、高崎・安中保健医療圏、桐生保健医療圏、富岡保健医療圏では「地域の医療機関（病院又は診療所）」がいずれも 40%以上と多くなっている。また、吾妻保健医療圏では「市町村（保健センターや公民館等）」が 31.4%と、他の保健医療圏より多くなっている。

◆***市郡別***　人口規模が小さくなるにつれて、「市町村（保健センターや公民館等）」が多くなり、郡部で 33.1%となっている。一方、人口規模が大きくなるにつれて、「地域の医療機関（病院又は診療所）」が多くなり、人口 10 万人以上の市で 44.7%を占めている。

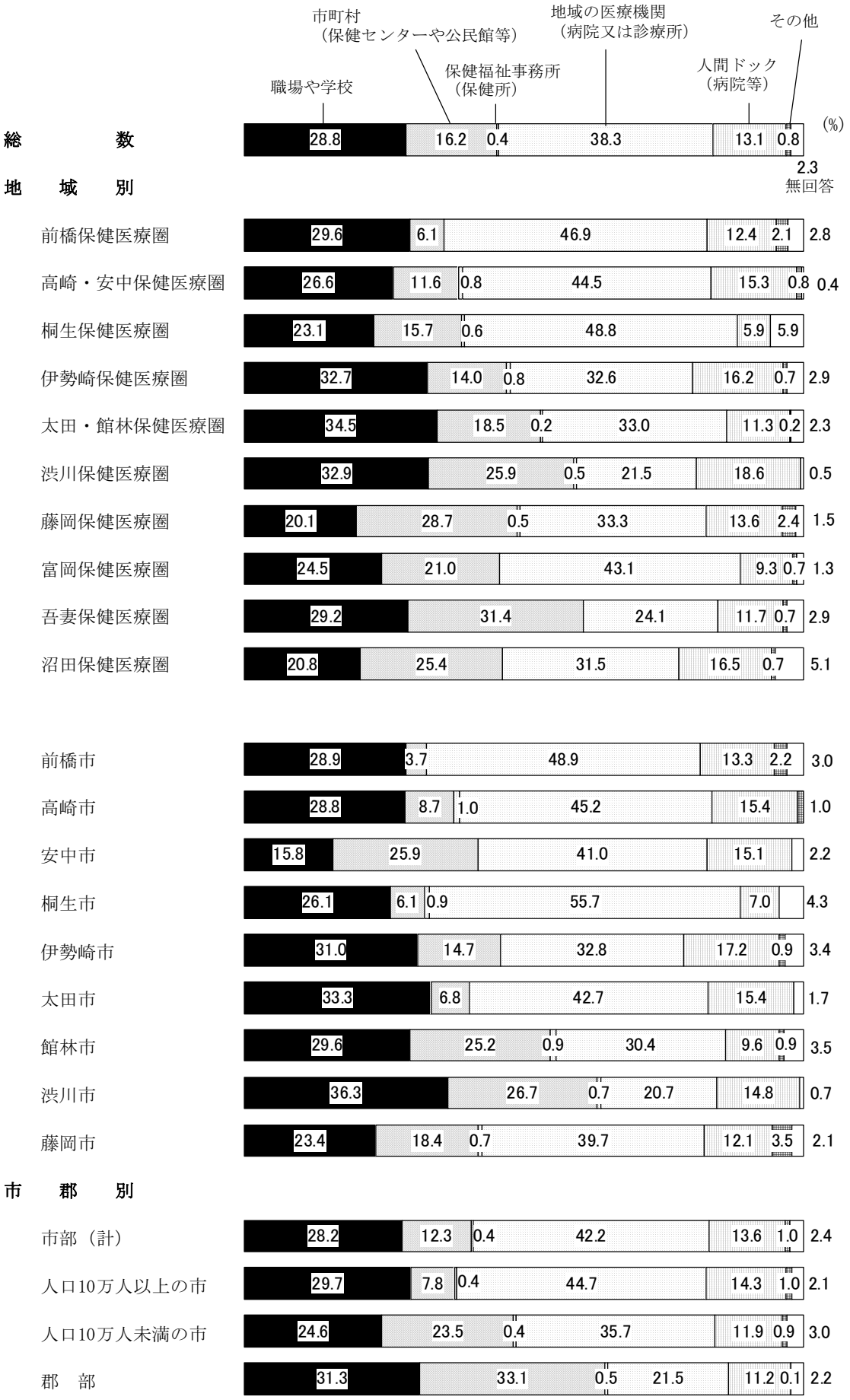
◆***性　別***　男性では「職場や学校」が 35.0%と、女性（23.9%）を上回るほか、「人間ドック（病院等）」も 17.2%と、女性（9.7%）より多い。一方、女性では「地域の医療機関（病院又は診療所）」が 43.9%と、男性（31.7%）を上回るほか、「市町村（保健センターや公民館等）」も 19.4%と、男性（12.4%）より多い。

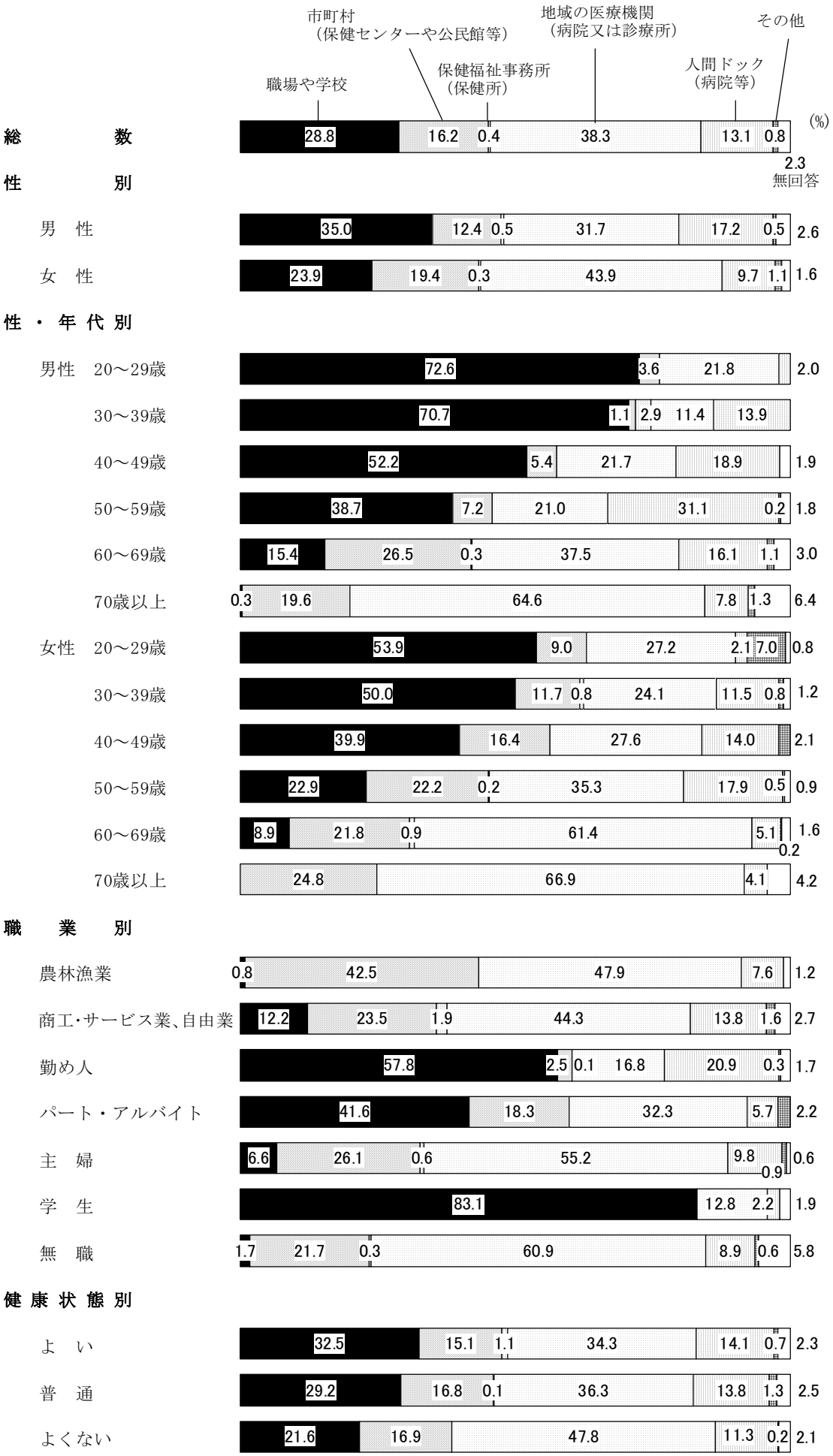
◆***性・年代別***　男女ともに「職場や学校」は年齢が上がるにつれて低くなっている。男性の 70 歳以上と女性の 60 代、70 歳以上では「地域の医療機関（病院又は診療所）」が 60%を超えている。また、男性の 60 代、女性の 50 代以上の年齢では「市町村（保健センターや公民館等）」が 20%以上と多くなっている。男性の 50 代では「人間ドック（病院等）」が 31.1%と多くなっている。

◆***職業別***　勤め人、学生では「職場や学校」が圧倒的に多くなっている。一方、農林漁業、商工･サービス業､自由業、主婦、無職では、「地域の医療機関（病院又は診療所）」が多くなっている。

◆***健康状態別***　健康状態がよいという人ほど、「職場や学校」が多くなっているのに対し、よくない人ほど「地域の医療機関（病院又は診療所）」が多くなっている。

図４－６　健康診断の受診場所



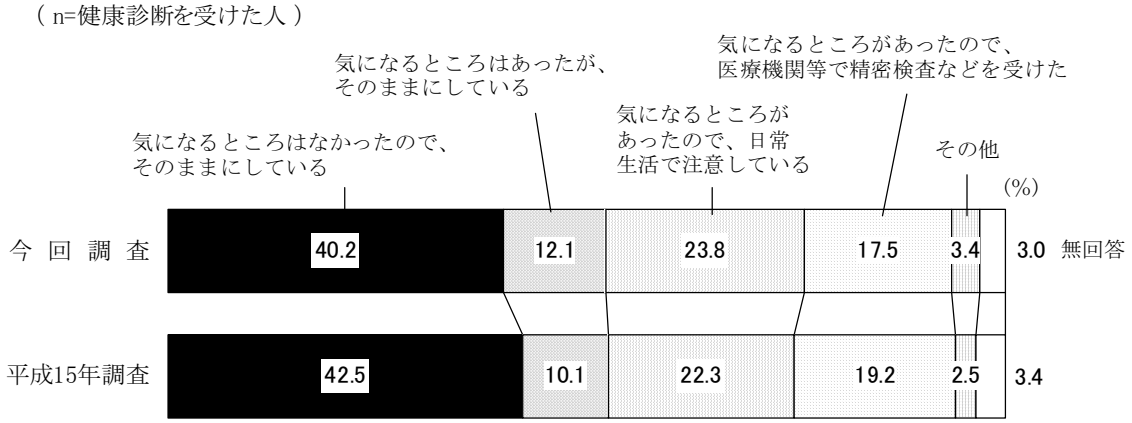

職場や学校
市町村（保健センターや公民館等）
保健福祉事務所（保健所）
地域の医療機関（病院又は診療所）
人間ドック（病院等）
その他
無回答
(%)
総数 28.8 16.2 0.4 38.3 13.1 0.8 2.3
性別
男性 35.0 12.4 0.5 31.7 17.2 0.5 2.6
女性 23.9 19.4 0.3 43.9 9.7 1.1 1.6
性・年代別
男性 20～29歳 72.6 3.6 21.8 2.0
30～39歳 70.7 1.1 2.9 11.4 13.9
40～49歳 52.2 5.4 21.7 18.9 1.9
50～59歳 38.7 7.2 21.0 31.1 0.2 1.8
60～69歳 15.4 26.5 0.3 37.5 16.1 1.1 3.0
70歳以上 0.3 19.6 64.6 7.8 1.3 6.4
女性 20～29歳 53.9 9.0 27.2 2.1 7.0 0.8
30～39歳 50.0 11.7 0.8 24.1 11.5 0.8 1.2
40～49歳 39.9 16.4 27.6 14.0 2.1
50～59歳 22.9 22.2 0.2 35.3 17.9 0.5 0.9
60～69歳 8.9 21.8 0.9 61.4 5.1 0.2 1.6
70歳以上 24.8 66.9 4.1 4.2
職業別
農林漁業 0.8 42.5 47.9 7.6 1.2
商工・サービス業、自由業 12.2 23.5 1.9 44.3 13.8 1.6 2.7
勤め人 57.8 2.5 0.1 16.8 20.9 0.3 1.7
パート・アルバイト 41.6 18.3 32.3 5.7 2.2
主婦 6.6 26.1 0.6 55.2 9.8 0.9 0.6
学生 83.1 12.8 2.2 1.9
無職 1.7 21.7 0.3 60.9 8.9 0.6 5.8
健康状態別
よい 32.5 15.1 1.1 34.3 14.1 0.7 2.3
普通 29.2 16.8 0.1 36.3 13.8 1.3 2.5
よくない 21.6 16.9 47.8 11.3 0.2 2.1

（４）健康診断結果への対応

～　「気になるところはなかったので、そのままにしている」40%が多い　～

問５－３　健康診断を受けた結果どうしましたか。次の中からあてはまるものをあげてください。（○は１つだけ）

図４－７



健康診断結果への対応としては「気になるところはなかったので、そのままにしている」が40.2%で最も多く、以下「気になるところがあったので、日常生活で注意している」（23.8%）、「気になるところがあったので、医療機関等で精密検査などを受けた」（17.5%）の順で続いている。

平成15年の調査結果との比較では、回答傾向にあまり変化はみられない。

◆***地域別***　前橋保健医療圏では「気になるところはなかったので、そのままにしてある」が46.2%と40%台半ばを占めている。

◆***市郡別***　人口10万人以上の市では「気になるところはなかったので、そのままにしている」が42.0%と、人口10万人未満の市や郡部より多くなっている。

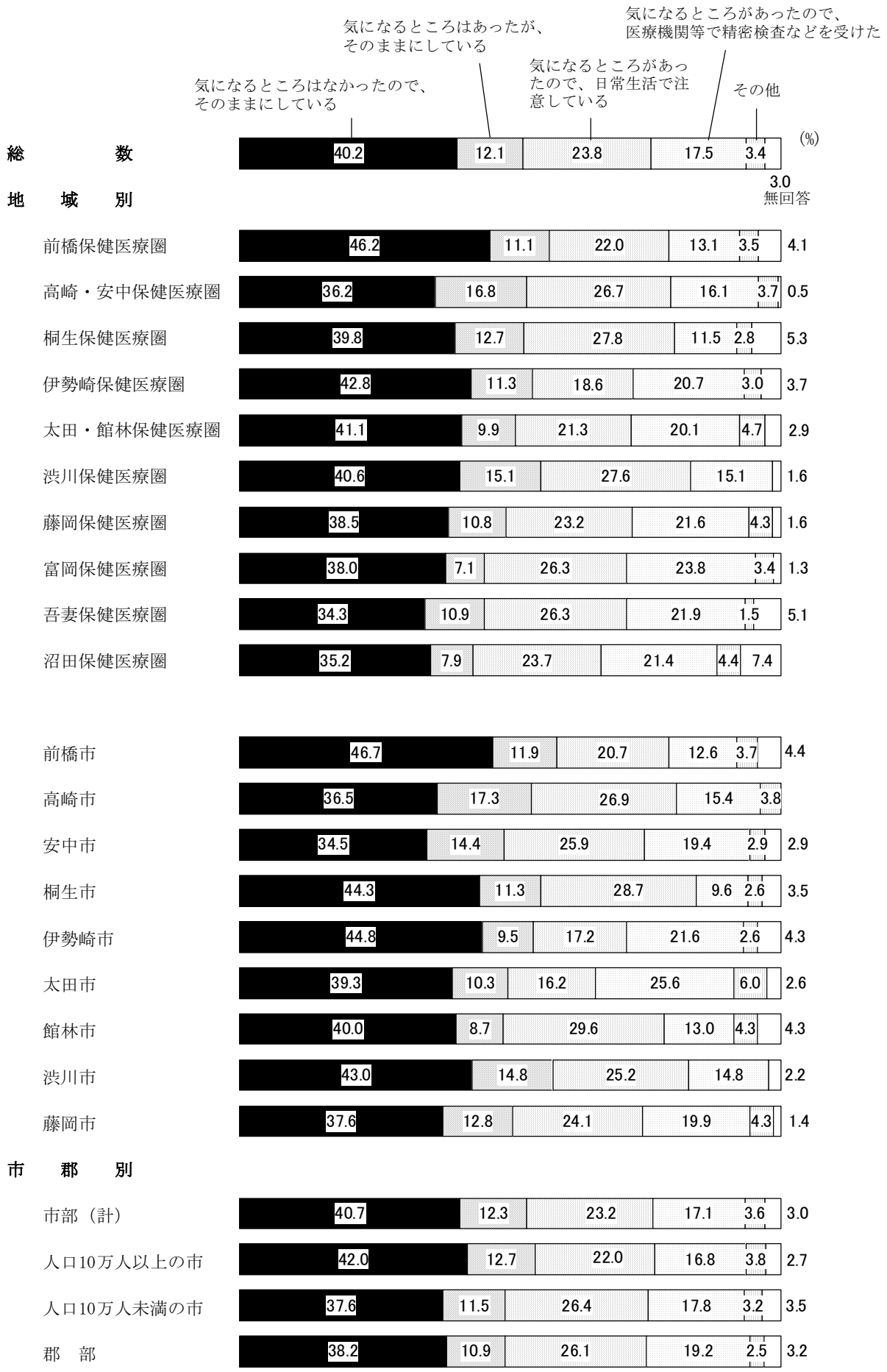
◆***性　別***　女性では「気になるところはなかったので、そのままにしている」が44.9%と、男性（35.2%）を上回っている。男性では「気になるところはあったが、そのままにしている」が15.8%と、女性（9.1%）より多くなっている。

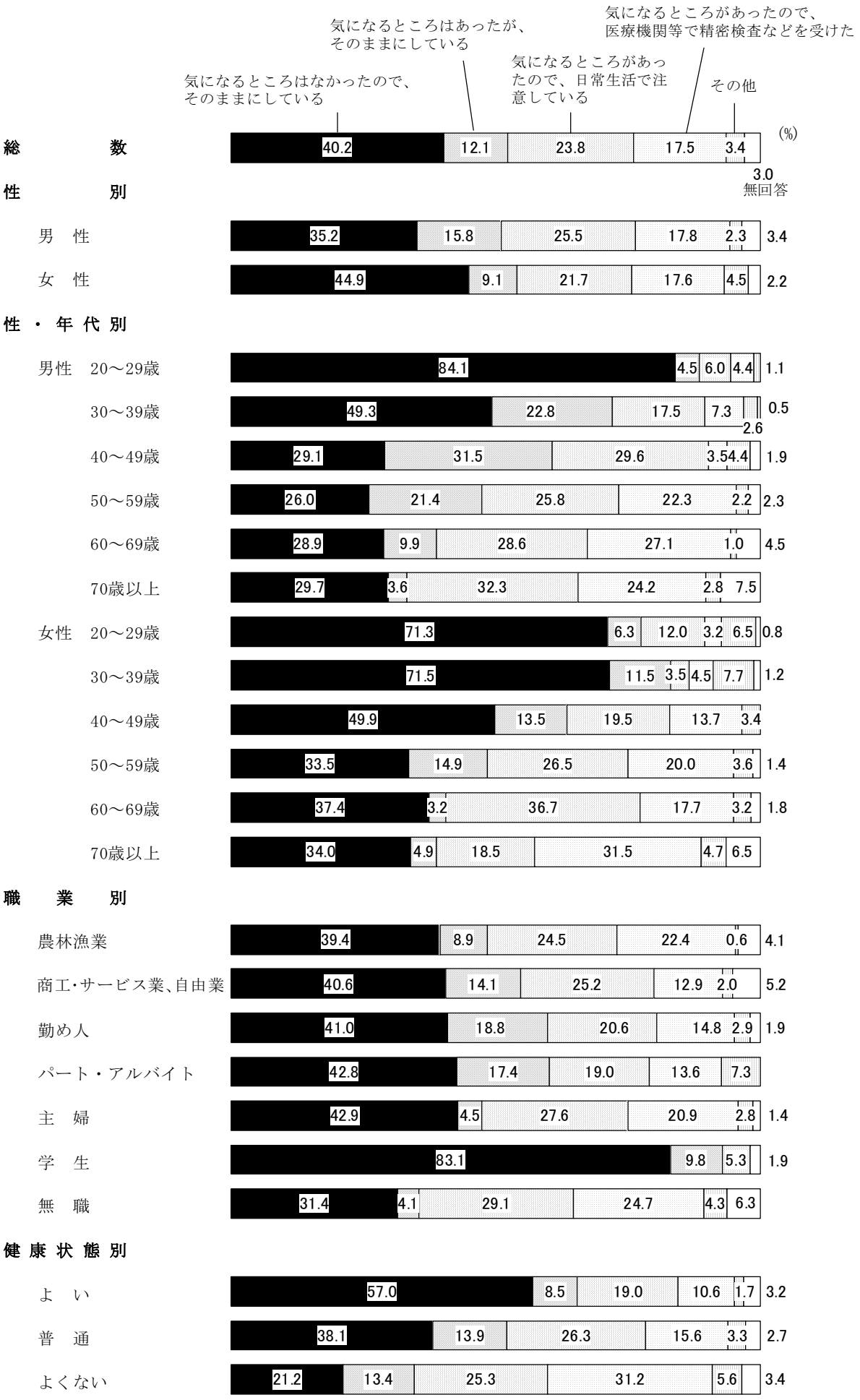
◆***性・年代別***　男性の20代、女性の20代から30代で「気になるところはなかったので、そのままにしている」が70%以上を占め、男性の30代及び女性の40代でも50%近くを占める。男性の40代では「気になるところはあったが、そのままにしている」が31.5%と多く、男性の70歳以上及び女性の60代では「気になるところがあったので、日常生活で注意している」が30%を超えている。

◆***職業別***　無職では「気になるところがあったので、日常生活で注意している」と「気になるところがあったので、医療機関等で精密検査などを受けた」が他の職業に比べてやや多くなっている。

◆***健康状態別***　健康状態がよい人ほど「気になるところはなかったので、そのままにしている」が多く、57.0%を占めている。これに対し、健康状態がよくない人ほど「気になるところがあったので、医療機関等で精密検査などを受けた」が多くなっている。

図４－８　健康診断結果への対応



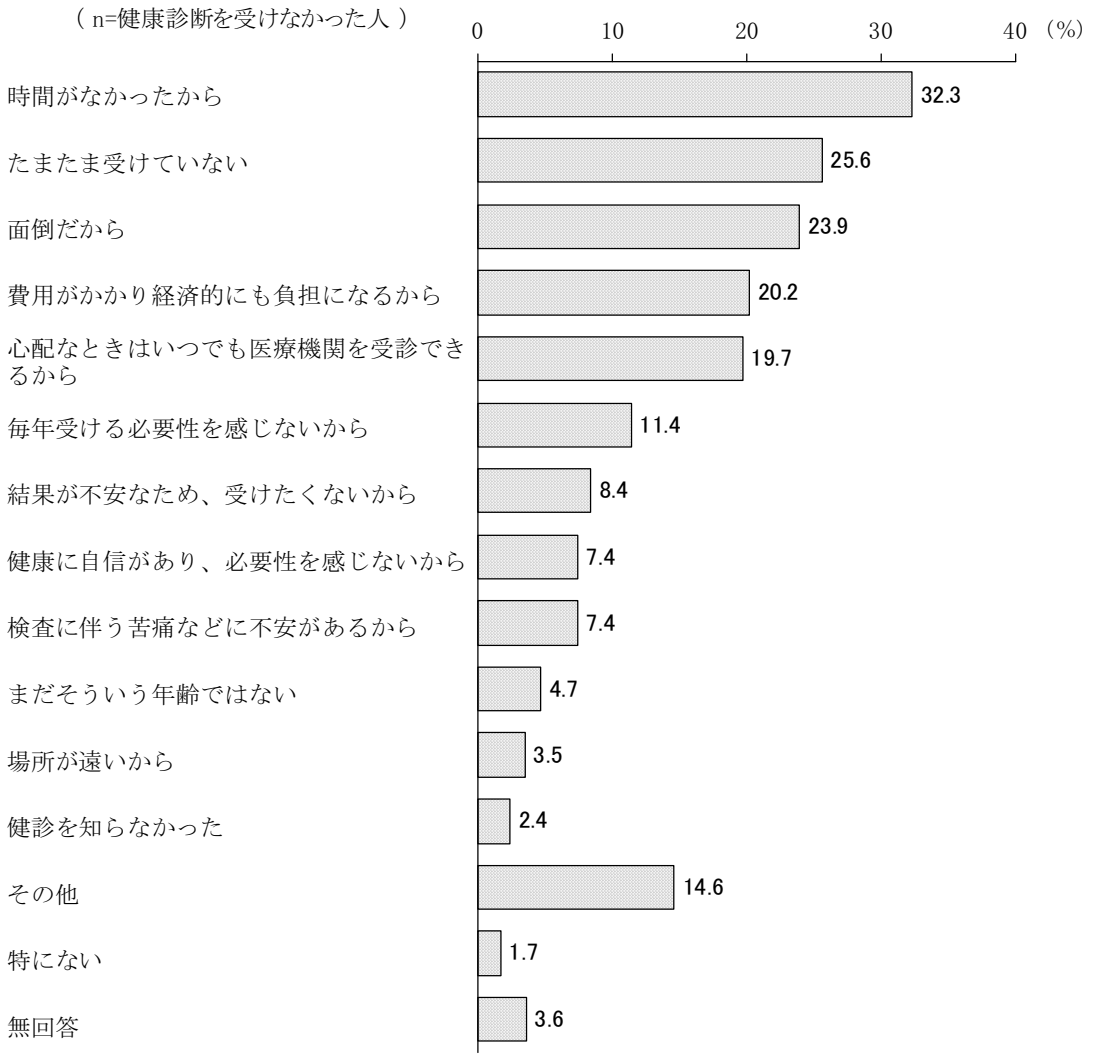

気になるところはなかったので、そのままにしている
気になるところはあったが、そのままにしている
気になるところがあったので、日常生活で注意している
気になるところがあったので、医療機関等で精密検査などを受けた
その他
無回答
(%)
総数 40.2 12.1 23.8 17.5 3.4 3.0
性別
男性 35.2 15.8 25.5 17.8 2.3 3.4
女性 44.9 9.1 21.7 17.6 4.5 2.2
性・年代別
男性 20～29歳 84.1 4.5 6.0 4.4 1.1
30～39歳 49.3 22.8 17.5 7.3 2.6 0.5
40～49歳 29.1 31.5 29.6 3.5 4.4 1.9
50～59歳 26.0 21.4 25.8 22.3 2.2 2.3
60～69歳 28.9 9.9 28.6 27.1 1.0 4.5
70歳以上 29.7 3.6 32.3 24.2 2.8 7.5
女性 20～29歳 71.3 6.3 12.0 3.2 6.5 0.8
30～39歳 71.5 11.5 3.5 4.5 7.7 1.2
40～49歳 49.9 13.5 19.5 13.7 3.4
50～59歳 33.5 14.9 26.5 20.0 3.6 1.4
60～69歳 37.4 3.2 36.7 17.7 3.2 1.8
70歳以上 34.0 4.9 18.5 31.5 4.7 6.5
職業別
農林漁業 39.4 8.9 24.5 22.4 0.6 4.1
商工･サービス業、自由業 40.6 14.1 25.2 12.9 2.0 5.2
勤め人 41.0 18.8 20.6 14.8 2.9 1.9
パート・アルバイト 42.8 17.4 19.0 13.6 7.3
主婦 42.9 4.5 27.6 20.9 2.8 1.4
学生 83.1 9.8 5.3 1.9
無職 31.4 4.1 29.1 24.7 4.3 6.3
健康状態別
よい 57.0 8.5 19.0 10.6 1.7 3.2
普通 38.1 13.9 26.3 15.6 3.3 2.7
よくない 21.2 13.4 25.3 31.2 5.6 3.4

（５）健康診断を受けなかった理由

～　「時間がなかったから」32%が最も多い　～

問５－４　健康診断を受けなかったのはなぜですか。（○は３つまで）

図４－９



健康診断を受けていない理由としては「時間がなかったから」が 32.3%で最も多く、以下「たまたま受けていない」(25.6%)、「面倒だから」(23.9%)、「費用がかかり経済的にも負担になるから」(20.2%)、「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」（19.7%）の順になっている。

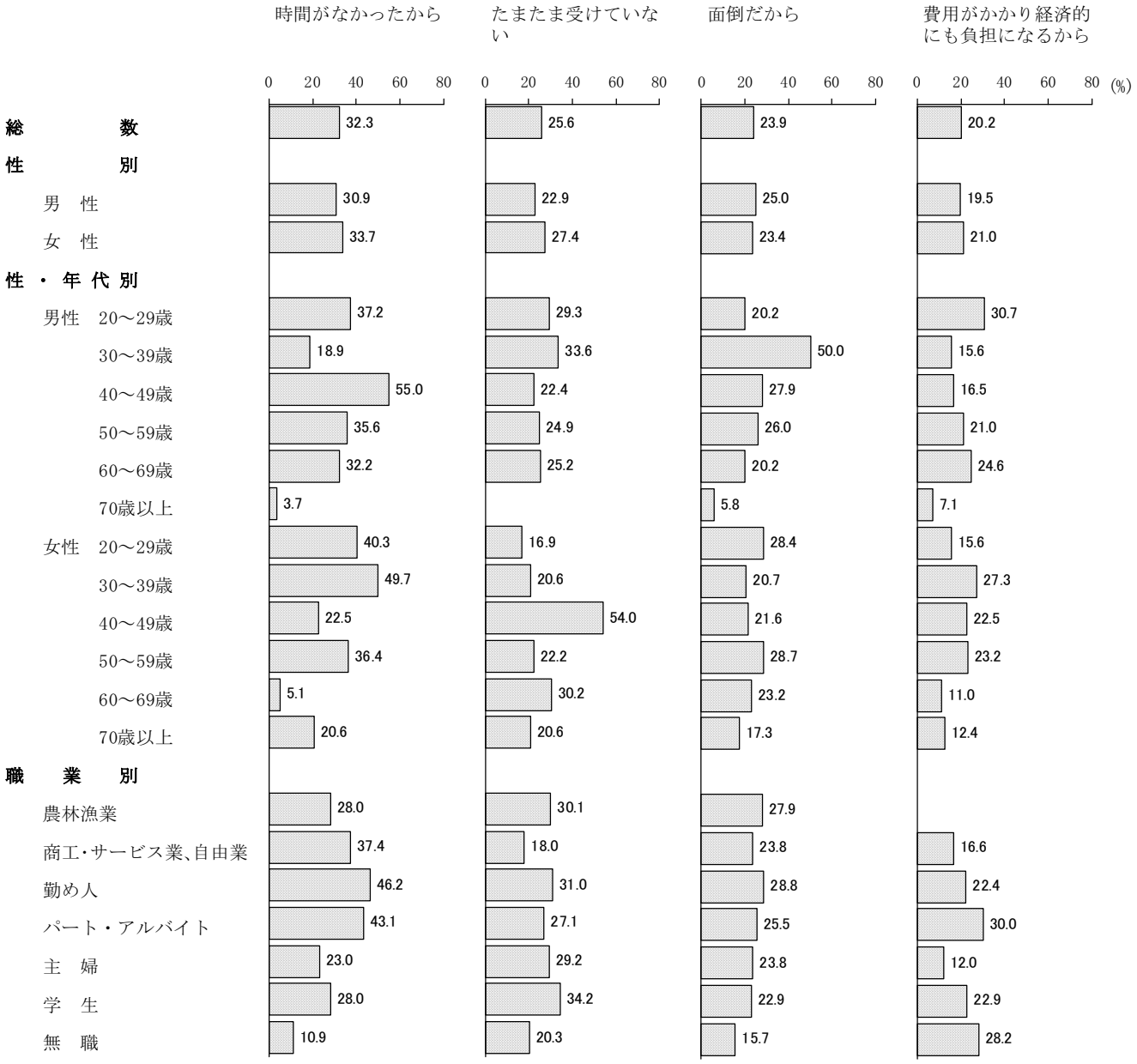
該当者が全体の 15.1%と少ないので詳細な分析はできないが、次のような傾向がみられる。

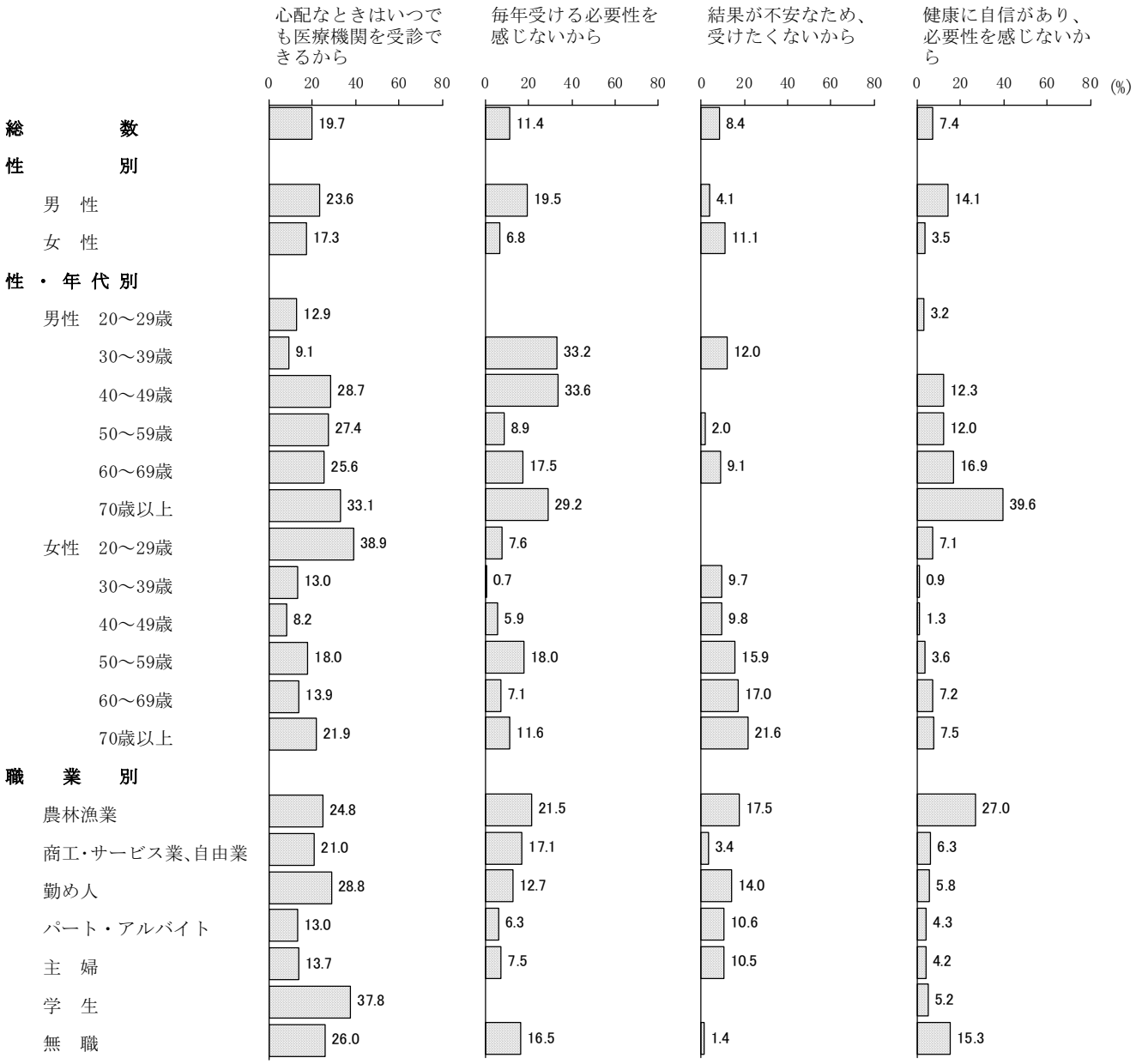
◆***性　別***　男性では「毎年受ける必要性を感じないから」「健康に自信があり、必要性を感じないから」が女性より多くなっている。

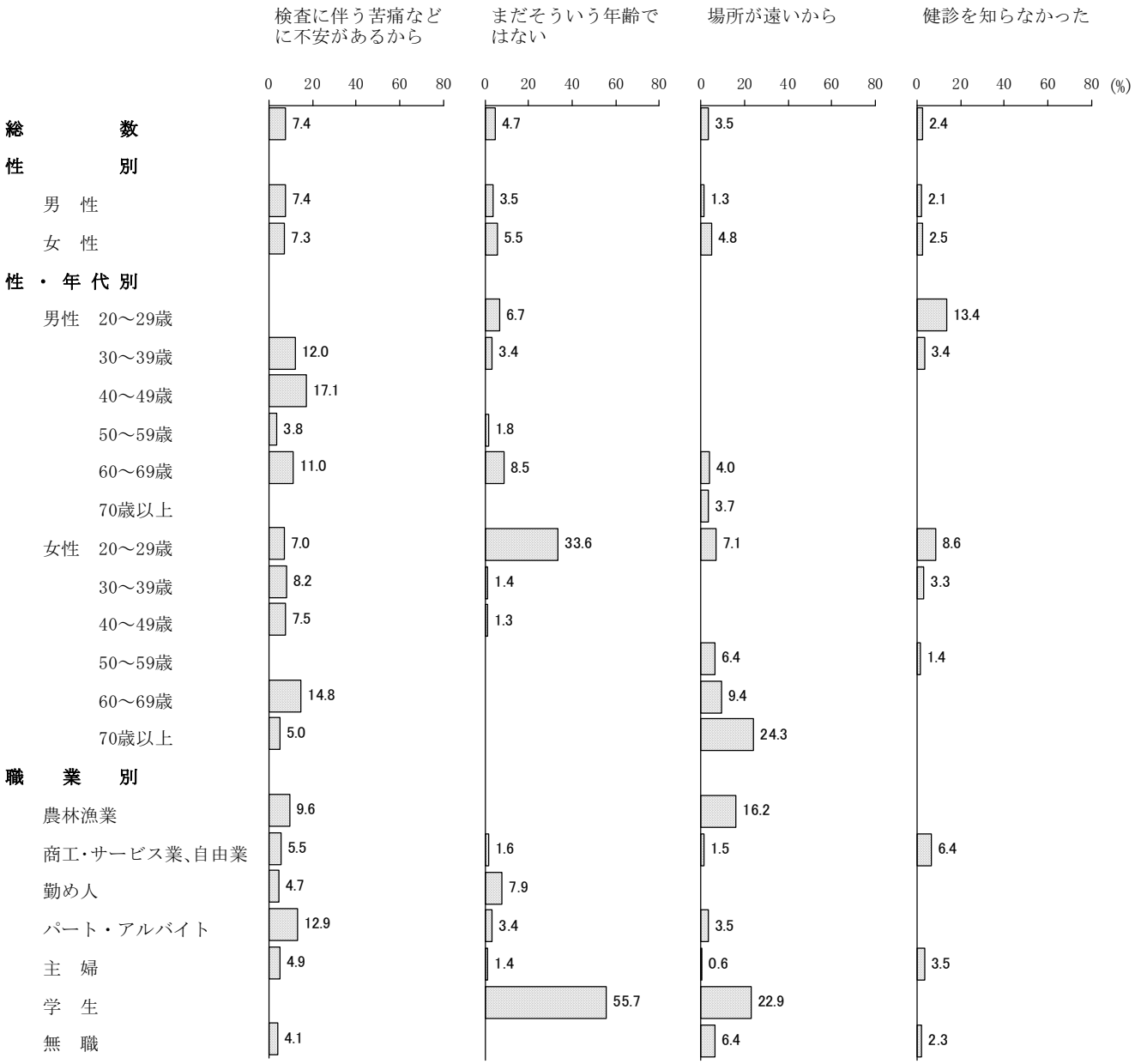
◆***性・年代別***　男性では、40 代で「時間がなかったから」、30 代で「面倒だから」が多くなっている。女性では、40 代で「たまたま受けていない」が多くなっている。

◆　***職業別***　勤め人とパート･アルバイトで「時間がなかったから」が多くなっている。

図４－10　健康診断を受けなかった理由




心配なときはいつでも医療機関を受診できるから
毎年受ける必要性を感じないから
結果が不安なため、受けたくないから
健康に自信があり、必要性を感じないから
0 20 40 60 80
(%)
総数 19.7 11.4 8.4 7.4
性別
男性 23.6 19.5 4.1 14.1
女性 17.3 6.8 11.1 3.5
性・年代別
男性 20～29歳 12.9 3.2
30～39歳 9.1 33.2 12.0
40～49歳 28.7 33.6 12.3
50～59歳 27.4 8.9 2.0 12.0
60～69歳 25.6 17.5 9.1 16.9
70歳以上 33.1 29.2 39.6
女性 20～29歳 38.9 7.6 7.1
30～39歳 13.0 0.7 9.7 0.9
40～49歳 8.2 5.9 9.8 1.3
50～59歳 18.0 18.0 15.9 3.6
60～69歳 13.9 7.1 17.0 7.2
70歳以上 21.9 11.6 21.6 7.5
職業別
農林漁業 24.8 21.5 17.5 27.0
商工・サービス業、自由業 21.0 17.1 3.4 6.3
勤め人 28.8 12.7 14.0 5.8
パート・アルバイト 13.0 6.3 10.6 4.3
主婦 13.7 7.5 10.5 4.2
学生 37.8 5.2
無職 26.0 16.5 1.4 15.3


検査に伴う苦痛などに不安があるから
まだそういう年齢ではない
場所が遠いから
健診を知らなかった
0 20 40 60 80 (%)
総数
性別
男性
女性
性・年代別
男性 20～29歳
30～39歳
40～49歳
50～59歳
60～69歳
70歳以上
女性 20～29歳
30～39歳
40～49歳
50～59歳
60～69歳
70歳以上
職業別
農林漁業
商工・サービス業、自由業
勤め人
パート・アルバイト
主婦
学生
無職
7.4 4.7 3.5 2.4
7.4 3.5 1.3 2.1
7.3 5.5 4.8 2.5
6.7 13.4
12.0 3.4 3.4
17.1
3.8 1.8
11.0 8.5 4.0
3.7
7.0 33.6 7.1 8.6
8.2 1.4 3.3
7.5 1.3
6.4 1.4
14.8 9.4
5.0 24.3
9.6 16.2
5.5 1.6 1.5 6.4
4.7 7.9
12.9 3.4 3.5
4.9 1.4 0.6 3.5
55.7 22.9
4.1 6.4 2.3

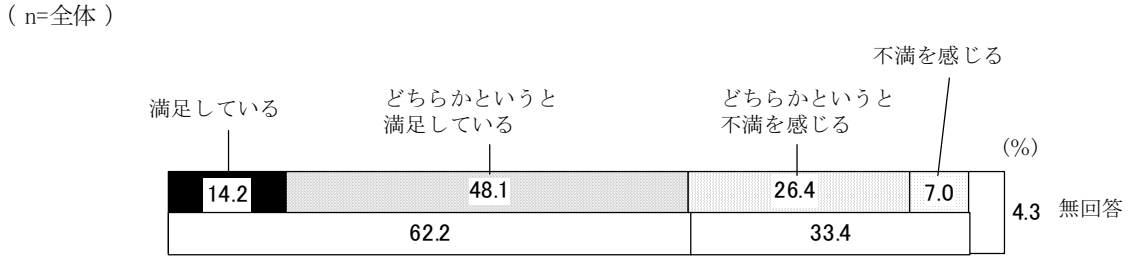
５　地域医療について

（１）地域の医療全般に対する満足度

～　「満足」62%、「不満」33%　～

問６　あなたがお住まいの地域の医療全般について、どのように感じていますか。次の中からあてはまるものをあげてください。（○は１つだけ）

図５－１



地域の医療全般について、「満足している」人は 14.2%で、これに「どちらかというと満足している」（48.1%）を合わせた＜満足＞は 62.2%となっている。これに対して「不満を感じる」人は 7.0%で、これに「どちらかというと不満を感じる」（26.4%）を合わせた＜不満＞は 33.4%となっている。

◆***地域別***　地域医療について、＜満足＞は前橋保健医療圏で 74.7%と最も高く、吾妻保健医療圏で 45.6%と最も低く、地域差が大きい。

◆***市郡別***　人口規模が大きいほど＜満足＞が多くなり、人口 10 万人以上の市では 67.7%となっている。

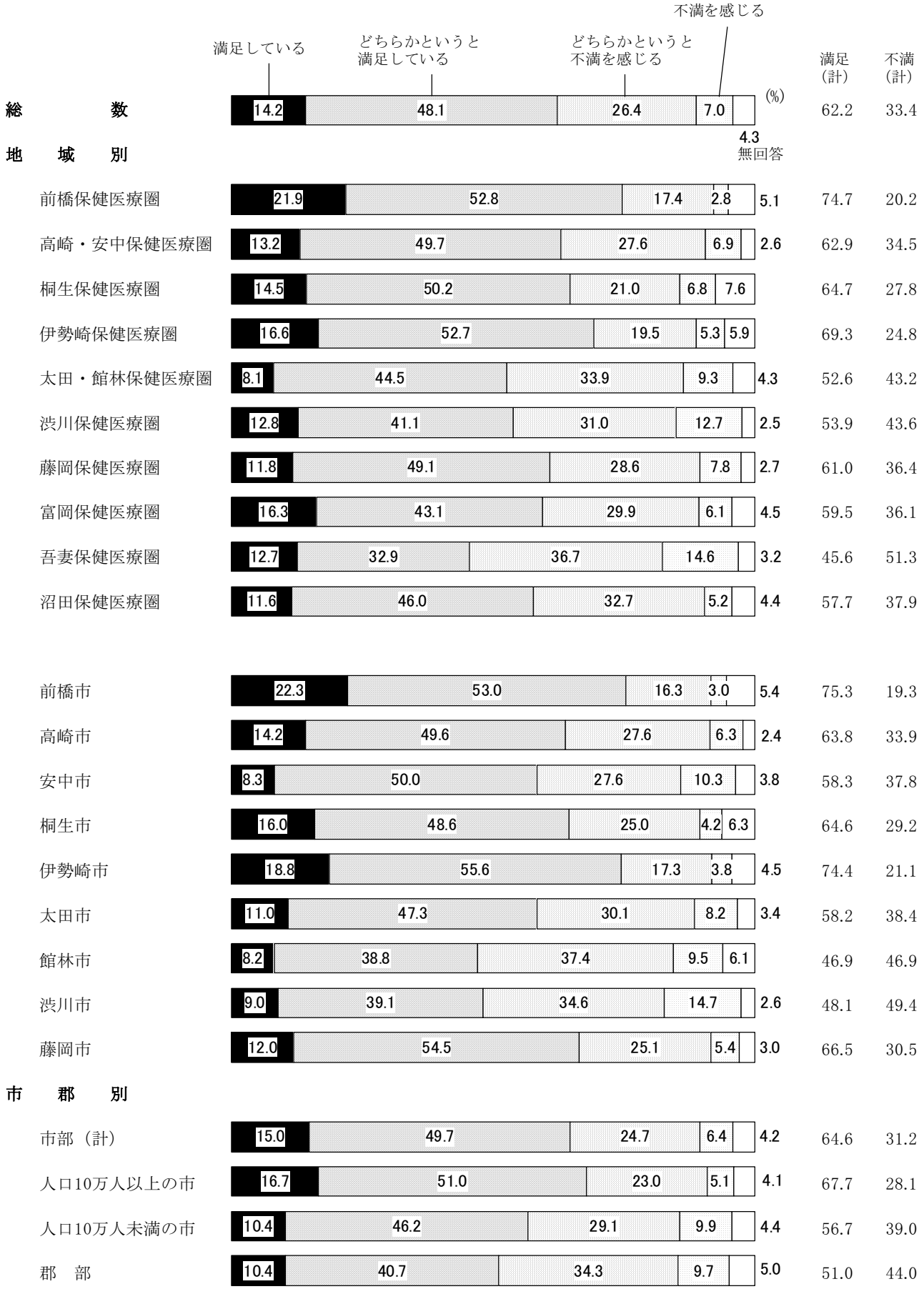
◆***性　別***　＜満足＞は男性が 64.8%、女性が 60.1%といずれも 60%以上を占める。

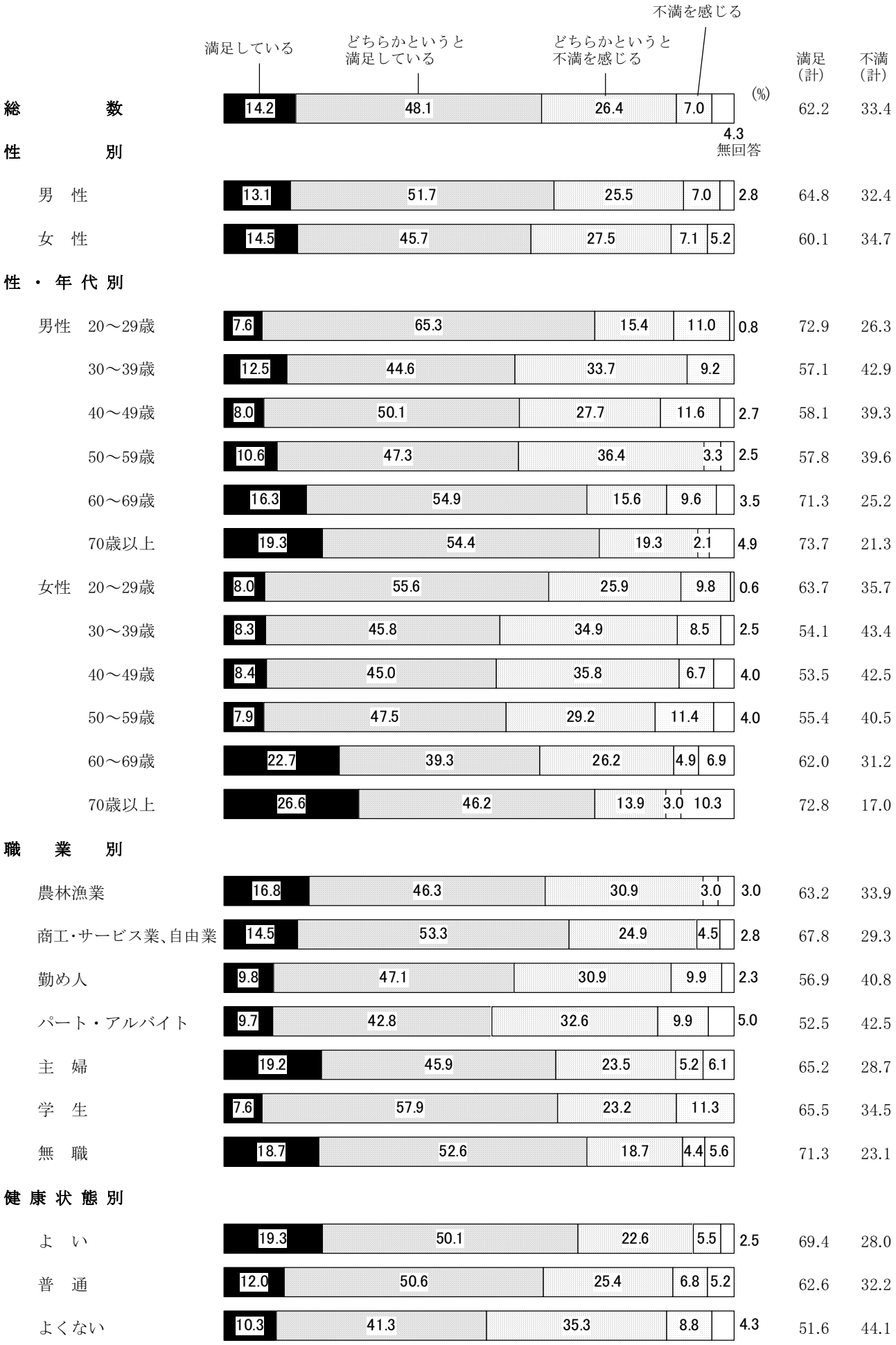
◆***性・年代別***　男性の 20 代、60 代、70 歳以上及び女性の 70 歳以上では＜満足＞が 70%を超えている。一方、男女とも、30 代から 50 代にかけては 50%台と低くなっている。

◆***職業別***　＜満足＞は無職（71.3%）で多く、勤め人（56.9%）、パート･アルバイト（52.5%）で少なくなっている。

◆***健康状態別***　健康状態がよいという人ほど＜満足＞は多くなっている。

図５－２　地域の医療全般に対する満足度



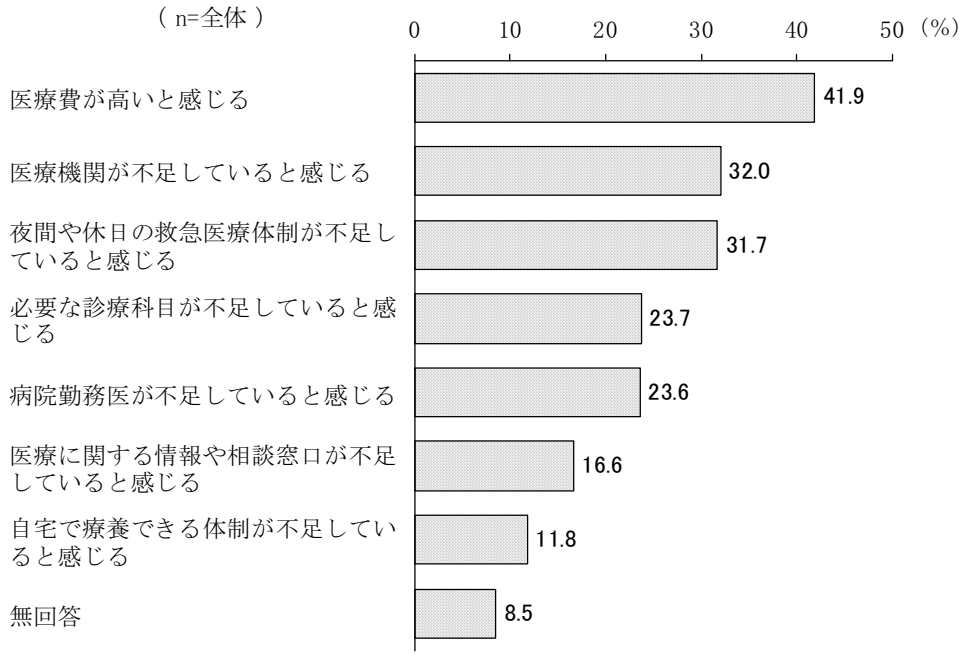

満足している
どちらかというと満足している
どちらかというと不満を感じる
不満を感じる
(%)
満足(計)
不満(計)
総数 14.2 48.1 26.4 7.0 4.3 無回答 62.2 33.4
性別
男性 13.1 51.7 25.5 7.0 2.8 64.8 32.4
女性 14.5 45.7 27.5 7.1 5.2 60.1 34.7
性・年代別
男性 20～29歳 7.6 65.3 15.4 11.0 0.8 72.9 26.3
30～39歳 12.5 44.6 33.7 9.2 57.1 42.9
40～49歳 8.0 50.1 27.7 11.6 2.7 58.1 39.3
50～59歳 10.6 47.3 36.4 3.3 2.5 57.8 39.6
60～69歳 16.3 54.9 15.6 9.6 3.5 71.3 25.2
70歳以上 19.3 54.4 19.3 2.1 4.9 73.7 21.3
女性 20～29歳 8.0 55.6 25.9 9.8 0.6 63.7 35.7
30～39歳 8.3 45.8 34.9 8.5 2.5 54.1 43.4
40～49歳 8.4 45.0 35.8 6.7 4.0 53.5 42.5
50～59歳 7.9 47.5 29.2 11.4 4.0 55.4 40.5
60～69歳 22.7 39.3 26.2 4.9 6.9 62.0 31.2
70歳以上 26.6 46.2 13.9 3.0 10.3 72.8 17.0
職業別
農林漁業 16.8 46.3 30.9 3.0 3.0 63.2 33.9
商工・サービス業、自由業 14.5 53.3 24.9 4.5 2.8 67.8 29.3
勤め人 9.8 47.1 30.9 9.9 2.3 56.9 40.8
パート・アルバイト 9.7 42.8 32.6 9.9 5.0 52.5 42.5
主婦 19.2 45.9 23.5 5.2 6.1 65.2 28.7
学生 7.6 57.9 23.2 11.3 65.5 34.5
無職 18.7 52.6 18.7 4.4 5.6 71.3 23.1
健康状態別
よい 19.3 50.1 22.6 5.5 2.5 69.4 28.0
普通 12.0 50.6 25.4 6.8 5.2 62.6 32.2
よくない 10.3 41.3 35.3 8.8 4.3 51.6 44.1

（２）地域医療に対する意識

～　「医療費が高いと感じる」42%が最も多い　～

問７　地域の医療に関する以下の項目について、どのように感じていますか。次の中からあてはまるものをあげてください。（○はあてはまるものすべて）

図５－３



地域医療について感じることとしては、「医療費が高いと感じる」が 41.9%で最も多く、以下「医療機関が不足していると感じる」（32.0%）、「夜間や休日の救急医療体制が不足していると感じる」（31.7%）が 30%以上となっている。

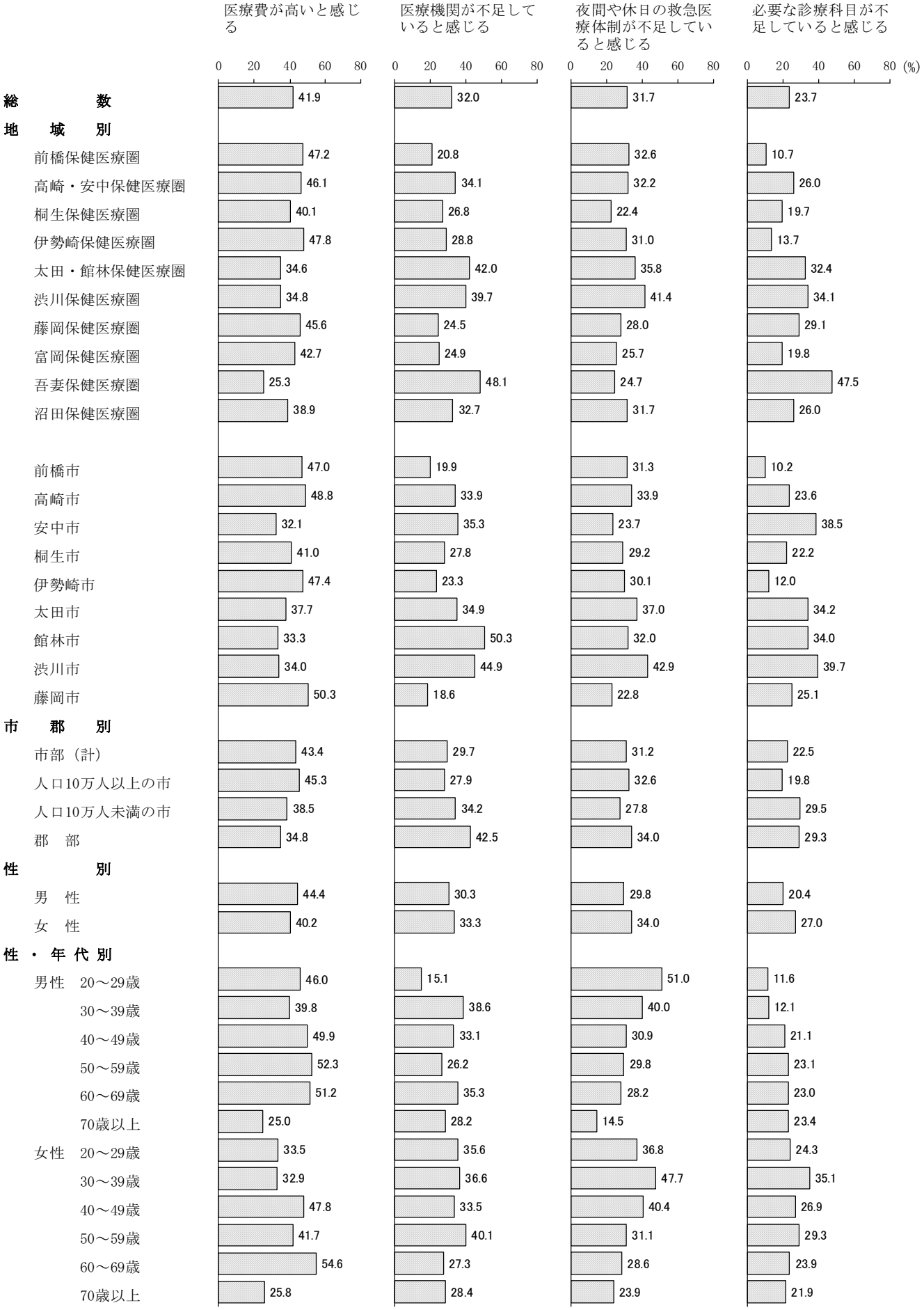
◆***地域別***　太田・館林保健医療圏、渋川保健医療圏、吾妻保健医療圏では、「医療費が高いと感じる」が少なく、これにかわって、太田・館林保健医療圏と吾妻保健医療圏では「医療機関が不足していると感じる」、渋川保健医療圏では「夜間や休日の救急医療体制が不足していると感じる」が最も多くなっている。また、吾妻保健医療圏では「必要な診療科目が不足していると感じる」が 47.5%と多くなっている。

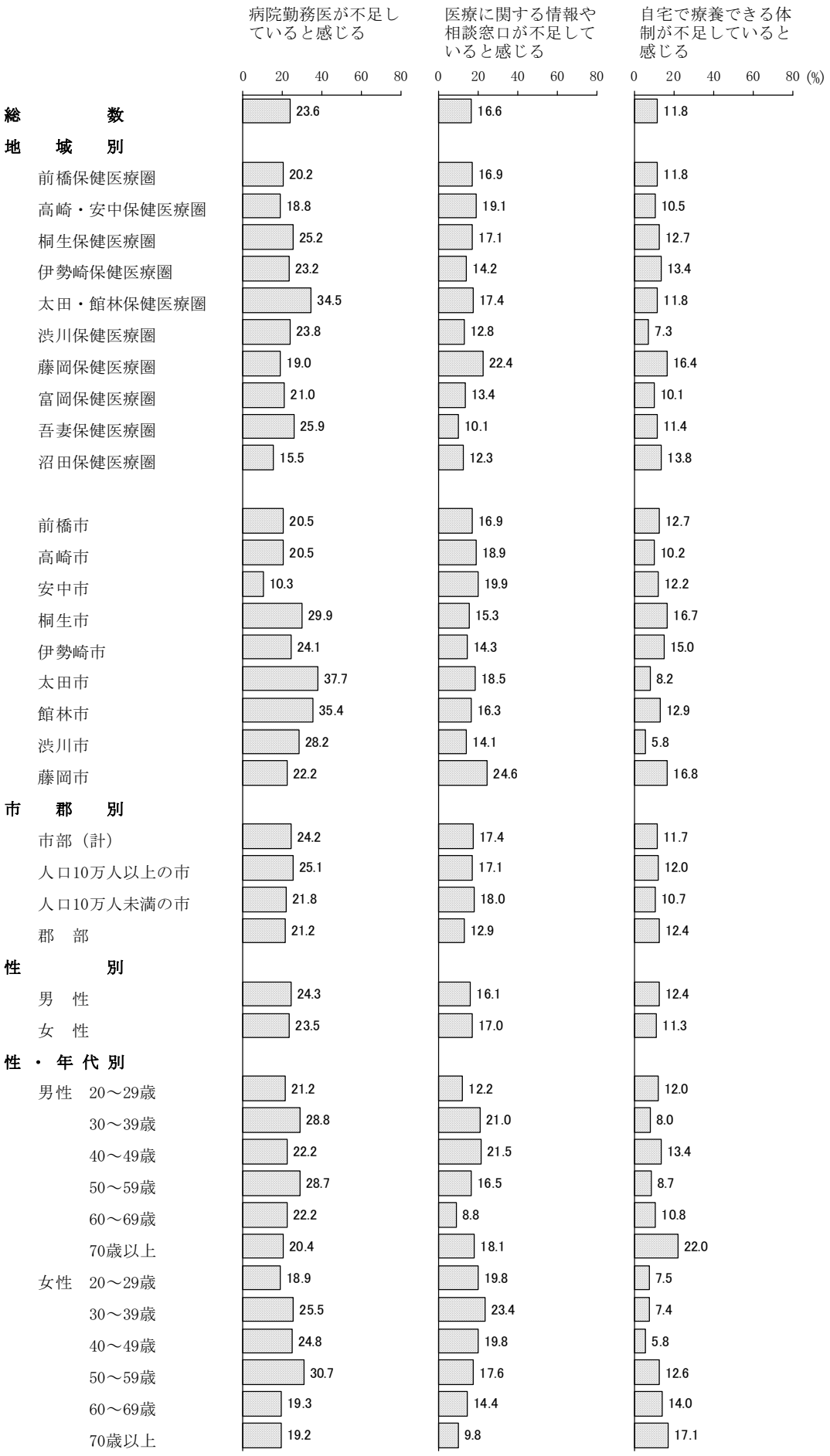
◆***市郡別***　人口規模が大きいほど「医療費が高いと感じる」が多くなっているのに対し、人口規模が小さいほど「医療機関が不足していると感じる」が多くなっている。

◆***性　別***　男性では「医療費が高いと感じる」が女性よりやや多く、女性では「医療機関が不足していると感じる」「夜間や休日の救急医療体制が不足していると感じる」「必要な診療科目が不足していると感じる」が男性よりやや多くなっている。

◆***性・年代別***　「夜間や休日の救急医療体制が不足していると感じる」は男性の 20 代（51.0%）と女性の 30 代（47.7%）、「必要な診療科目が不足していると感じる」は女性の 30 代（35.1%）で多くなっている。男女とも 70 歳以上で「自宅で療養できる体制が不足していると感じる」が多くなっている。

図５－４　地域医療に対する意識



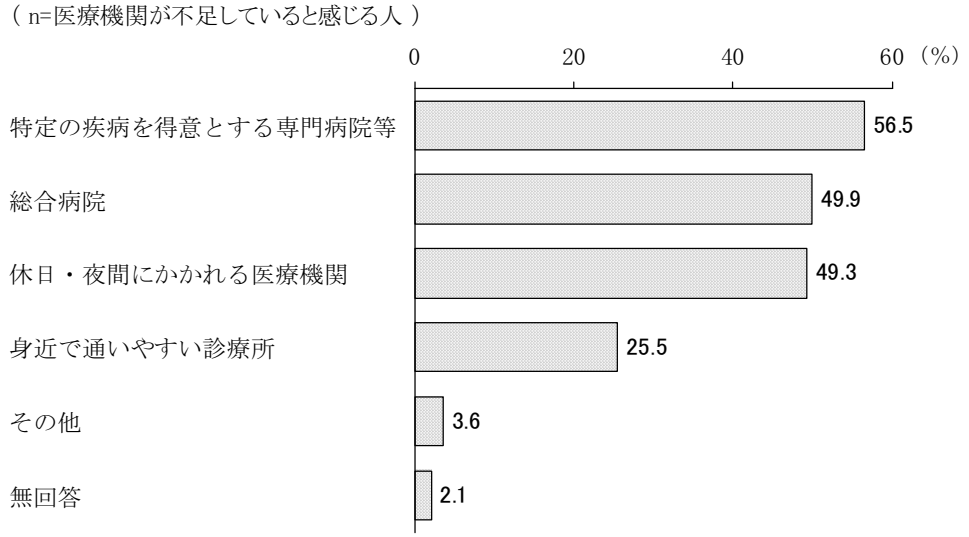

病院勤務医が不足していると感じる
医療に関する情報や相談窓口が不足していると感じる
自宅で療養できる体制が不足していると感じる
0 20 40 60 80 (%)
総数 23.6 16.6 11.8
地域別
前橋保健医療圏 20.2 16.9 11.8
高崎・安中保健医療圏 18.8 19.1 10.5
桐生保健医療圏 25.2 17.1 12.7
伊勢崎保健医療圏 23.2 14.2 13.4
太田・館林保健医療圏 34.5 17.4 11.8
渋川保健医療圏 23.8 12.8 7.3
藤岡保健医療圏 19.0 22.4 16.4
富岡保健医療圏 21.0 13.4 10.1
吾妻保健医療圏 25.9 10.1 11.4
沼田保健医療圏 15.5 12.3 13.8
前橋市 20.5 16.9 12.7
高崎市 20.5 18.9 10.2
安中市 10.3 19.9 12.2
桐生市 29.9 15.3 16.7
伊勢崎市 24.1 14.3 15.0
太田市 37.7 18.5 8.2
館林市 35.4 16.3 12.9
渋川市 28.2 14.1 5.8
藤岡市 22.2 24.6 16.8
市郡別
市部（計） 24.2 17.4 11.7
人口10万人以上の市 25.1 17.1 12.0
人口10万人未満の市 21.8 18.0 10.7
郡部 21.2 12.9 12.4
性別
男性 24.3 16.1 12.4
女性 23.5 17.0 11.3
性・年代別
男性 20～29歳 21.2 12.2 12.0
30～39歳 28.8 21.0 8.0
40～49歳 22.2 21.5 13.4
50～59歳 28.7 16.5 8.7
60～69歳 22.2 8.8 10.8
70歳以上 20.4 18.1 22.0
女性 20～29歳 18.9 19.8 7.5
30～39歳 25.5 23.4 7.4
40～49歳 24.8 19.8 5.8
50～59歳 30.7 17.6 12.6
60～69歳 19.3 14.4 14.0
70歳以上 19.2 9.8 17.1

（３）不足している医療機関

～　「特定の疾病を得意とする専門病院等」57%が過半数　～

問７－１　具体的にはどのような医療機関が不足しているとお考えですか。次の中からあてはまるものをあげてください。（○は３つまで）

図５－５



不足している医療機関としては、「特定の疾病を得意とする専門病院等」が 56.5%で最も多く、以下、「総合病院」(49.9%)、「休日・夜間にかかれる医療機関」(49.3%) もほぼ半数の人があげている。

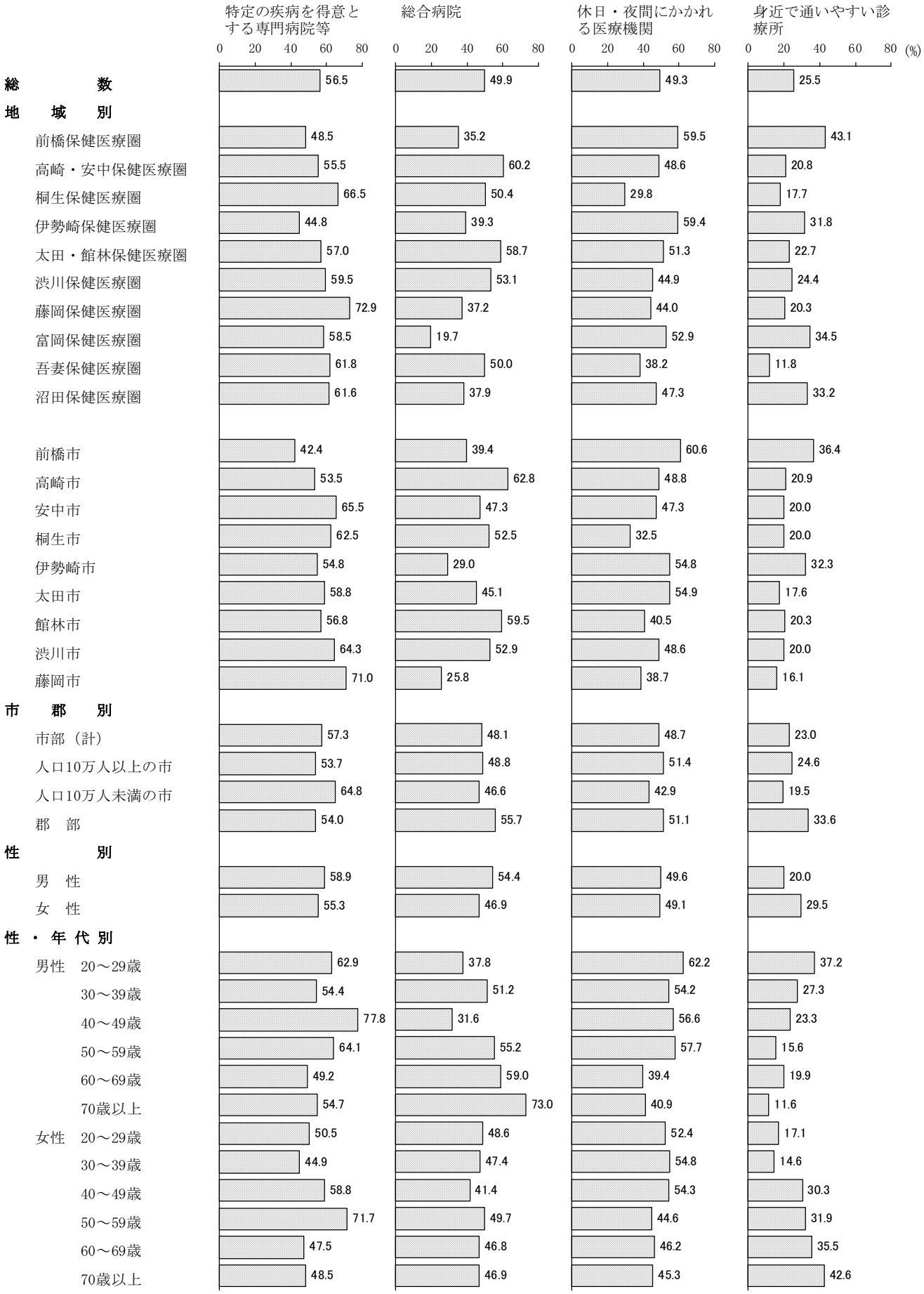
◆***地域別***　不足している医療機関は地域によって異なっている。藤岡保健医療圏では「特定の疾病を得意とする専門病院等」が 72.9%と他の地域より多い。高崎・安中保健医療圏と太田・館林保健医療圏は「総合病院」が、前橋保健医療圏と伊勢崎保健医療圏は「休日・夜間にかかれる医療機関」がそれぞれ 60%弱となっている。また、前橋保健医療圏では「身近で通いやすい診療所」が 43.1%と他の地域より多くなっている。

◆***市郡別***　人口 10 万人未満の市では「特定の疾病を得意とする専門病院等」が 64.8%と多く、郡部では「総合病院」が 55.7%、「身近で通いやすい診療所」が 33.6%と多くなっている。

◆***性　別***　男性では「特定の疾病を得意とする専門病院等」と「総合病院」が女性より多く、女性では「身近で通いやすい診療所」が男性より多くなっている。

◆***性・年代別***　男性の 40 代と女性の 50 代では「特定の疾病を得意とする専門病院等」が、男性の 70 歳以上では「総合病院」が 70%を超えている。また、「身近で通いやすい診療所」は男性では年齢が上がるにつれて低くなる傾向であるのに対し、女性では年齢が上がるほど増加する傾向にある。

図５－６　不足している医療機関

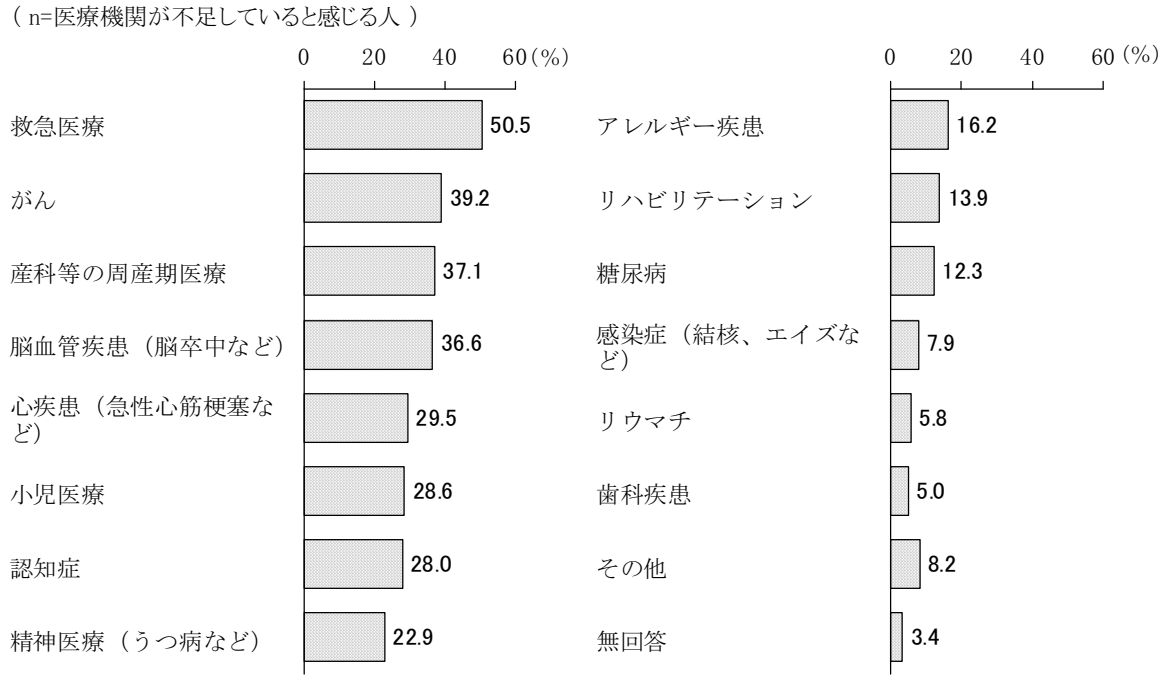


（４）不足している治療分野

～　「救急医療」51%が過半数　～

問７－２　具体的にはどのような分野の治療を行う医療機関が不足しているとお考えですか。次の中からあてはまるものをあげてください。（○はあてはまるものすべて）

図５－７



不足している医療分野としては、「救急医療」が 50.5%で最も多く、以下、「がん」(39.2%)、「産科等の周産期医療」(37.1%)、「脳血管疾患（脳卒中など)」(36.6%) の順になっている。

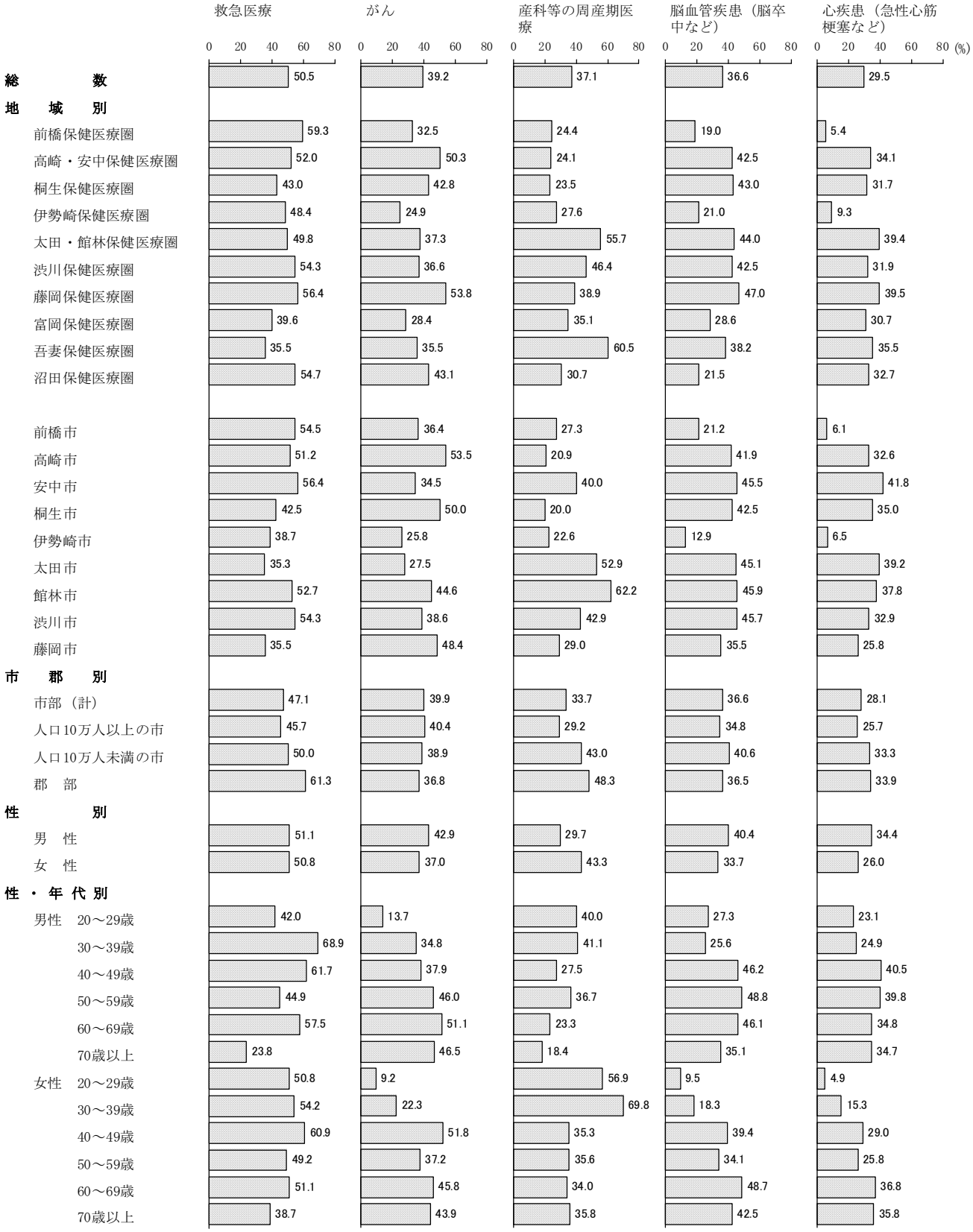
◆***地域別***　ほとんどの地域で「救急医療」が最も多くなっている中、太田・館林保健医療圏と吾妻保健医療圏では「産科等の周産期医療」をあげた人の割合がそれぞれ 55.7%、60.5%と最も多くなっている。吾妻保健医療圏では「小児医療」も 51.3%と多い。また、高崎・安中保健医療圏と藤岡保健医療圏では「がん」が 50%を超え、富岡保健医療圏では「精神医療（うつ病など)」が 41.7%と他の地域より多くなっている。

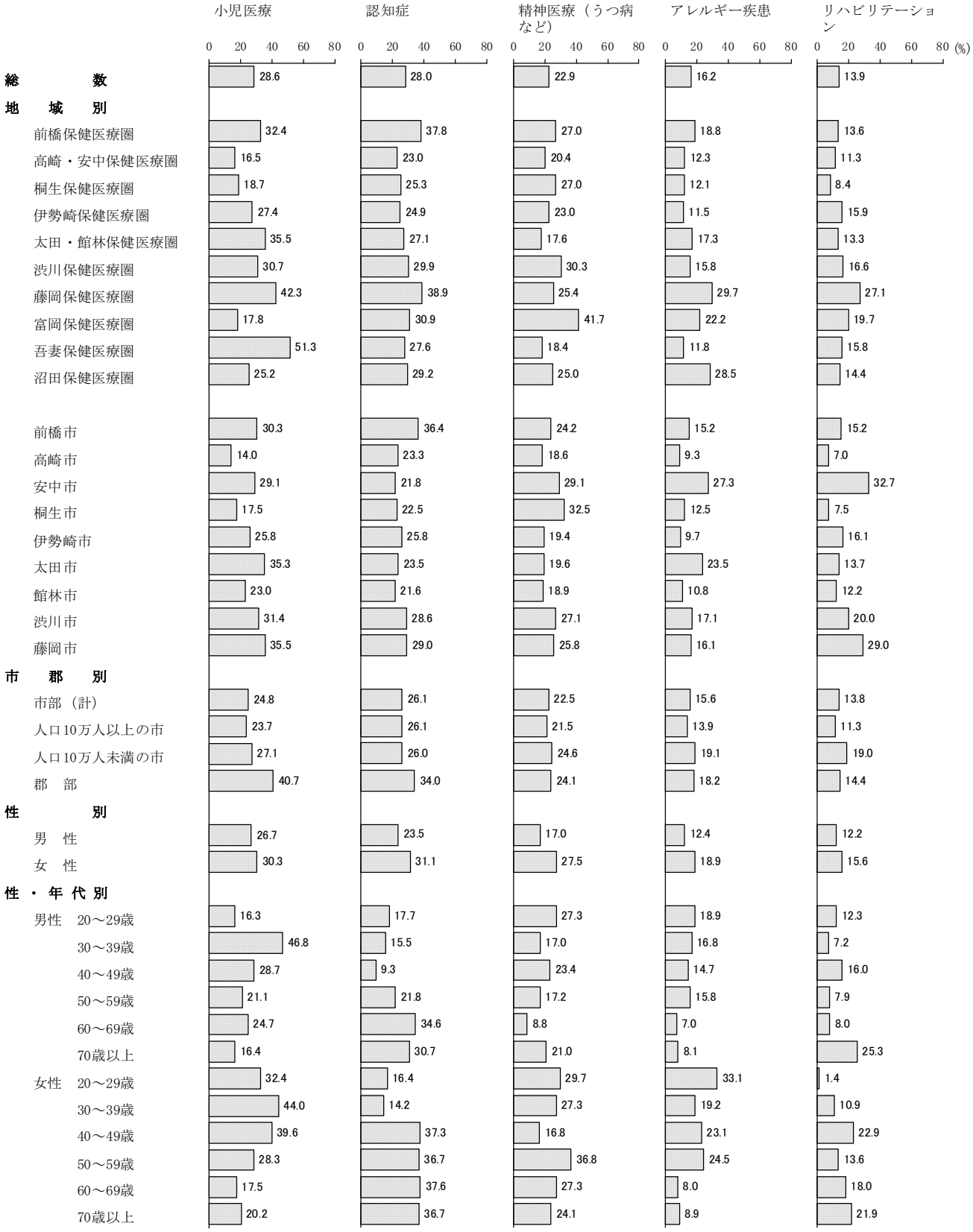
◆***市郡別***　市部よりも郡部で「救急医療」「小児医療」「認知症」が多くなっている。また、人口 10 万人以上の市に比べ、人口 10 万人未満の市と郡部で「産科等の周産期医療」が 40%を超え多くなっている。

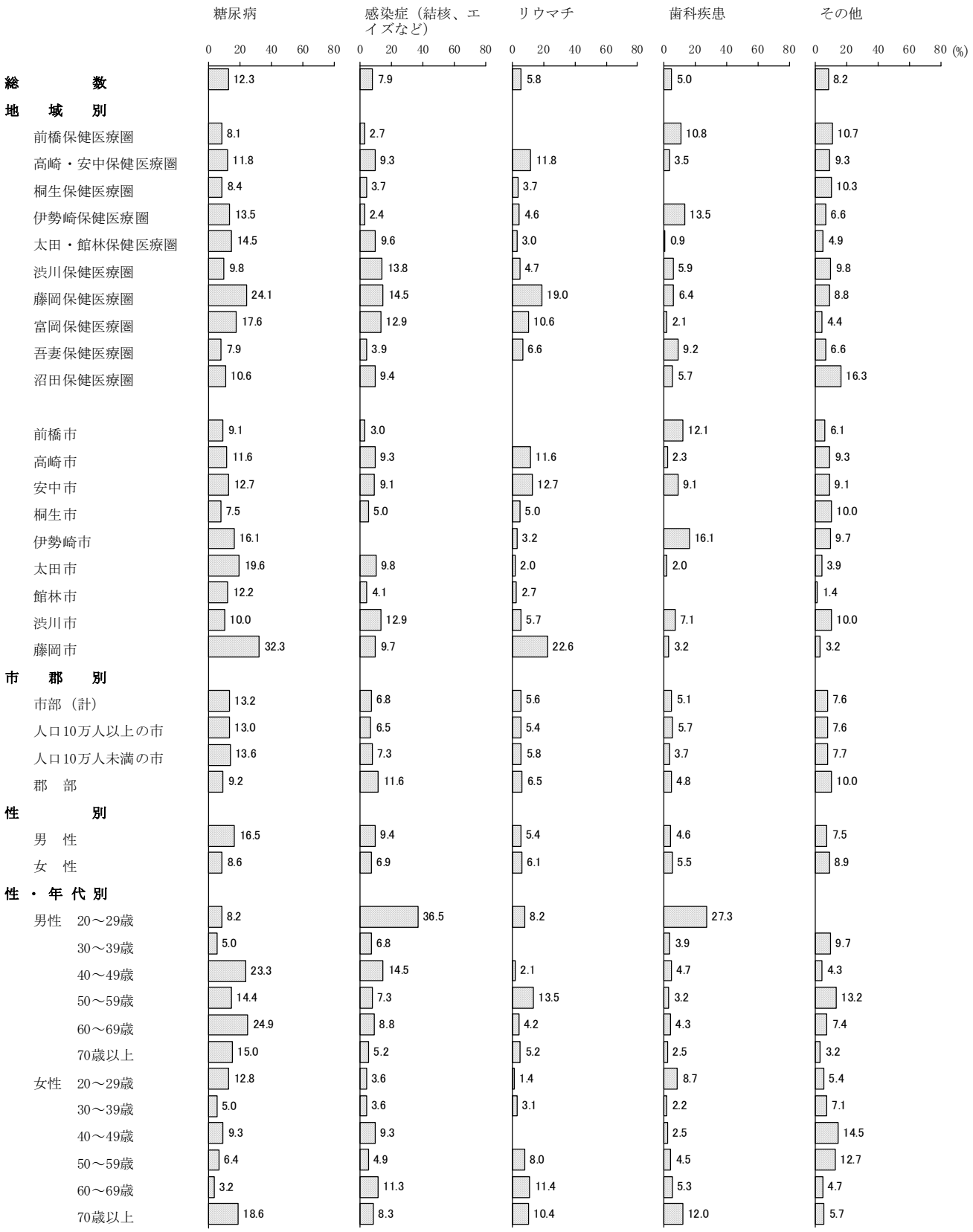
◆***性　別***　男女とも「救急医療」が最も多くなっており 50%を越えている。男性では「がん」「脳血管疾患（脳卒中など)」「心疾患（急性心筋梗塞など)」「糖尿病」が女性より多くなっている。

◆***性・年代別***　男女の年齢によって不足していると感じる治療分野は異なり、男性の 20 代から 40 代と 60 代、女性の 40 代から 60 代では「救急医療」の不足感が最も高い。男性の 50 代では「脳血管疾患（脳卒中など)」、男女の 70 歳以上では「がん」の不足感が最も高い。女性の 20 代から 30 代では「産科等の周産期医療」の不足感が最も高くなっている。

図５－８　不足している治療分野




小児医療
認知症
精神医療（うつ病など）
アレルギー疾患
リハビリテーション
0 20 40 60 80 (%)
総数 28.6 28.0 22.9 16.2 13.9
地域別
前橋保健医療圏 32.4 37.8 27.0 18.8 13.6
高崎・安中保健医療圏 16.5 23.0 20.4 12.3 11.3
桐生保健医療圏 18.7 25.3 27.0 12.1 8.4
伊勢崎保健医療圏 27.4 24.9 23.0 11.5 15.9
太田・館林保健医療圏 35.5 27.1 17.6 17.3 13.3
渋川保健医療圏 30.7 29.9 30.3 15.8 16.6
藤岡保健医療圏 42.3 38.9 25.4 29.7 27.1
富岡保健医療圏 17.8 30.9 41.7 22.2 19.7
吾妻保健医療圏 51.3 27.6 18.4 11.8 15.8
沼田保健医療圏 25.2 29.2 25.0 28.5 14.4
前橋市 30.3 36.4 24.2 15.2 15.2
高崎市 14.0 23.3 18.6 9.3 7.0
安中市 29.1 21.8 29.1 27.3 32.7
桐生市 17.5 22.5 32.5 12.5 7.5
伊勢崎市 25.8 25.8 19.4 9.7 16.1
太田市 35.3 23.5 19.6 23.5 13.7
館林市 23.0 21.6 18.9 10.8 12.2
渋川市 31.4 28.6 27.1 17.1 20.0
藤岡市 35.5 29.0 25.8 16.1 29.0
市郡別
市部（計） 24.8 26.1 22.5 15.6 13.8
人口10万人以上の市 23.7 26.1 21.5 13.9 11.3
人口10万人未満の市 27.1 26.0 24.6 19.1 19.0
郡部 40.7 34.0 24.1 18.2 14.4
性別
男性 26.7 23.5 17.0 12.4 12.2
女性 30.3 31.1 27.5 18.9 15.6
性・年代別
男性 20～29歳 16.3 17.7 27.3 18.9 12.3
30～39歳 46.8 15.5 17.0 16.8 7.2
40～49歳 28.7 9.3 23.4 14.7 16.0
50～59歳 21.1 21.8 17.2 15.8 7.9
60～69歳 24.7 34.6 8.8 7.0 8.0
70歳以上 16.4 30.7 21.0 8.1 25.3
女性 20～29歳 32.4 16.4 29.7 33.1 1.4
30～39歳 44.0 14.2 27.3 19.2 10.9
40～49歳 39.6 37.3 16.8 23.1 22.9
50～59歳 28.3 36.7 36.8 24.5 13.6
60～69歳 17.5 37.6 27.3 8.0 18.0
70歳以上 20.2 36.7 24.1 8.9 21.9


糖尿病
感染症（結核、エイズなど）
リウマチ
歯科疾患
その他
0 20 40 60 80 (%)
総数 12.3 7.9 5.8 5.0 8.2
地域別
前橋保健医療圏 8.1 2.7 10.8 10.7
高崎・安中保健医療圏 11.8 9.3 11.8 3.5 9.3
桐生保健医療圏 8.4 3.7 3.7 10.3
伊勢崎保健医療圏 13.5 2.4 4.6 13.5 6.6
太田・館林保健医療圏 14.5 9.6 3.0 0.9 4.9
渋川保健医療圏 9.8 13.8 4.7 5.9 9.8
藤岡保健医療圏 24.1 14.5 19.0 6.4 8.8
富岡保健医療圏 17.6 12.9 10.6 2.1 4.4
吾妻保健医療圏 7.9 3.9 6.6 9.2 6.6
沼田保健医療圏 10.6 9.4 5.7 16.3
前橋市 9.1 3.0 12.1 6.1
高崎市 11.6 9.3 11.6 2.3 9.3
安中市 12.7 9.1 12.7 9.1 9.1
桐生市 7.5 5.0 5.0 10.0
伊勢崎市 16.1 3.2 16.1 9.7
太田市 19.6 9.8 2.0 2.0 3.9
館林市 12.2 4.1 2.7 1.4
渋川市 10.0 12.9 5.7 7.1 10.0
藤岡市 32.3 9.7 22.6 3.2 3.2
市郡別
市部（計） 13.2 6.8 5.6 5.1 7.6
人口10万人以上の市 13.0 6.5 5.4 5.7 7.6
人口10万人未満の市 13.6 7.3 5.8 3.7 7.7
郡部 9.2 11.6 6.5 4.8 10.0
性別
男性 16.5 9.4 5.4 4.6 7.5
女性 8.6 6.9 6.1 5.5 8.9
性・年代別
男性 20～29歳 8.2 36.5 8.2 27.3
30～39歳 5.0 6.8 3.9 9.7
40～49歳 23.3 14.5 2.1 4.7 4.3
50～59歳 14.4 7.3 13.5 3.2 13.2
60～69歳 24.9 8.8 4.2 4.3 7.4
70歳以上 15.0 5.2 5.2 2.5 3.2
女性 20～29歳 12.8 3.6 1.4 8.7 5.4
30～39歳 5.0 3.6 3.1 2.2 7.1
40～49歳 9.3 9.3 2.5 14.5
50～59歳 6.4 4.9 8.0 4.5 12.7
60～69歳 3.2 11.3 11.4 5.3 4.7
70歳以上 18.6 8.3 10.4 12.0 5.7

６　医療機関の選択

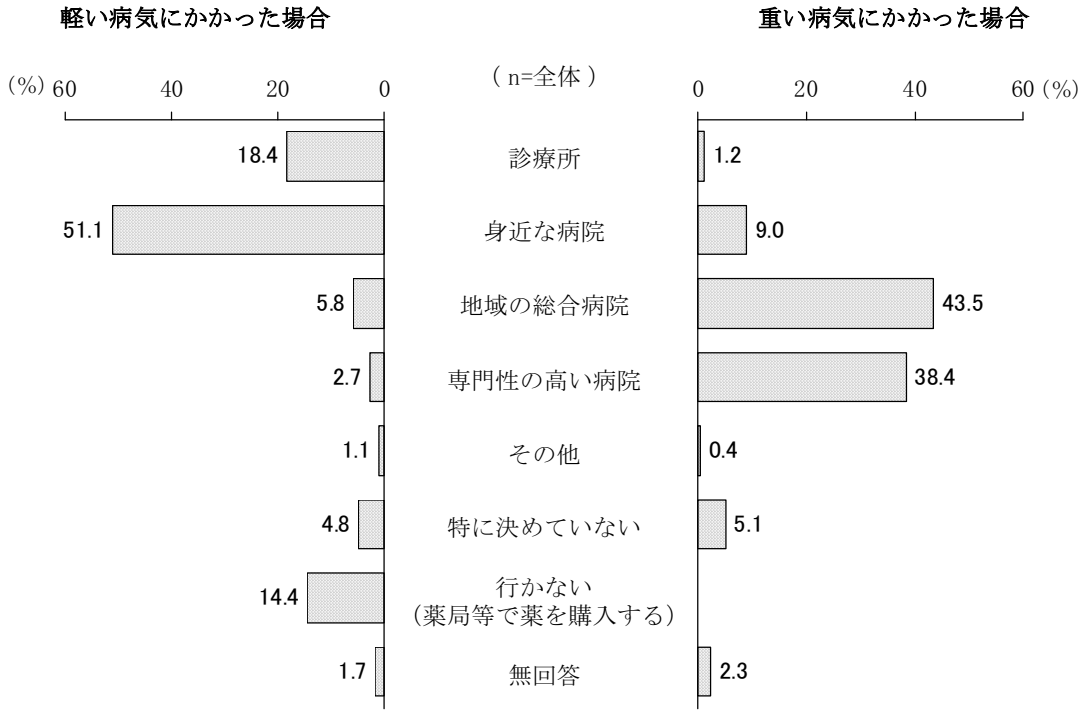
（１）医療機関の選択

～　軽い病気にかかった場合は「身近な病院」51%、
重い病気にかかった場合は「地域の総合病院」44%、「専門性の高い病院」38%が多い　～

問８　あなたがカゼや微熱など**軽い病気にかかったとき**、主にどの医療機関で診療を受けますか。あるいは、受けたいとお考えですか。（○は１つだけ）

問９　あなたが、入院が必要かもしれない**重い病気にかかった場合**、主にどの医療機関で診療を受けますか。あるいは、受けたいとお考えですか。（○は１つだけ）

図６－１



カゼなどの軽い病気の際に、受診する医療機関としては「身近な病院」が 51.1%で過半数を占め、これに「診療所」（18.4%）が次いでいる。

症状の重い病気にかかったときについては「地域の総合病院」が 43.5%と最も多く、次いで「専門性の高い病院」が 38.4%となっている。

◆地域別　軽い病気の場合、いずれの医療圏でも「身近な病院」が最も多くなっているが、中でも桐生保健医療圏では 60.9%と多くなっている。また、伊勢崎保健医療圏、太田・館林保健医療圏、吾妻保健医療圏では「診療所」が、20%を超えて多くなっている。

症状が重い場合、いずれの医療圏でも「地域の総合病院」と「専門性の高い病院」に回答が集中している。富岡保健医療圏では「地域の総合病院」が 68.4%と他の医療圏よりかなり多い。また、高崎・安中保健医療圏、太田・館林保健医療圏、渋川保健医療圏では「専門性の高い病院」が 40%台半ばと多くなっている。

◆***市郡別***　軽い病気の場合は、市部では「身近な病院」が 51.9%と過半数を占めるのに対し、郡部では 47.3%とやや少ない。また、人口規模別でみると、人口 10 万人未満の市では「診療所」が症状 13.8%と、人口 10 万人以上の市（19.7%）や郡部（20.2%）に比べ少なくなっている。

症状の重い病気の場合は、「地域の総合病院」が市部では 44.1%、郡部では 41.0%と最も多く、次いで「専門性の高い病院」が市部では 38.2%、郡部では 39.4%となっている。

◆***性　別***　軽い病気の場合、症状が悪い場合とも、男性と女性の間に大きな差異はない。

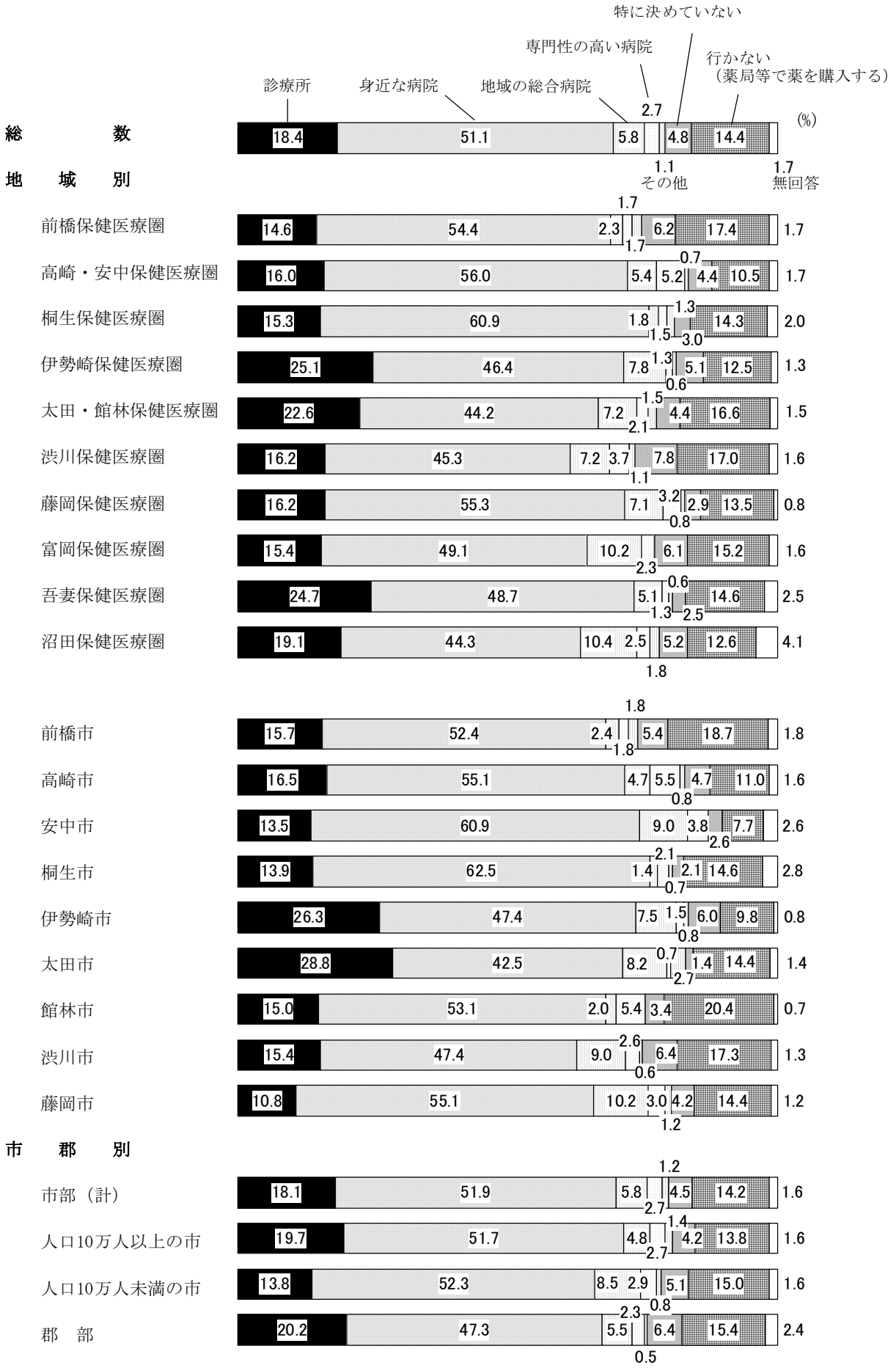
◆***性・年代別***　軽い病気の場合、男女のいずれの年齢でも「身近な病院」が最も多いが、男女とも 20 代から 30 代で 40%前後と少なくなっている。男女ともに 30 代では「診療所」が 30%前後と、他の年齢より多く、20 代では「行かない（薬局等で薬を購入する）」が 30%前後と目立って多い。

症状の重い病気にかかった場合、男性の 20 代から 30 代及び 60 代以上、女性の 20 代から 30 代及び 70 歳以上では「地域の総合病院」が最も多くなっているが、男性の 40 代から 50 代、女性の 40 代から 60 代では「専門性の高い病院」が最も多くなっている。

◆***健康状態別***　軽い病気の場合、健康状態がよい、普通という人では「身近な病院」が過半数を占めるが、健康状態がよくない人では 46.6%とやや少なく、「診療所」が 22.2%と多くなっている。

症状の重い病気にかかった場合、健康状態のよい人ほど、「特に決めていない」が増加している。

図６－２　医療機関の選択（軽い病気の場合）



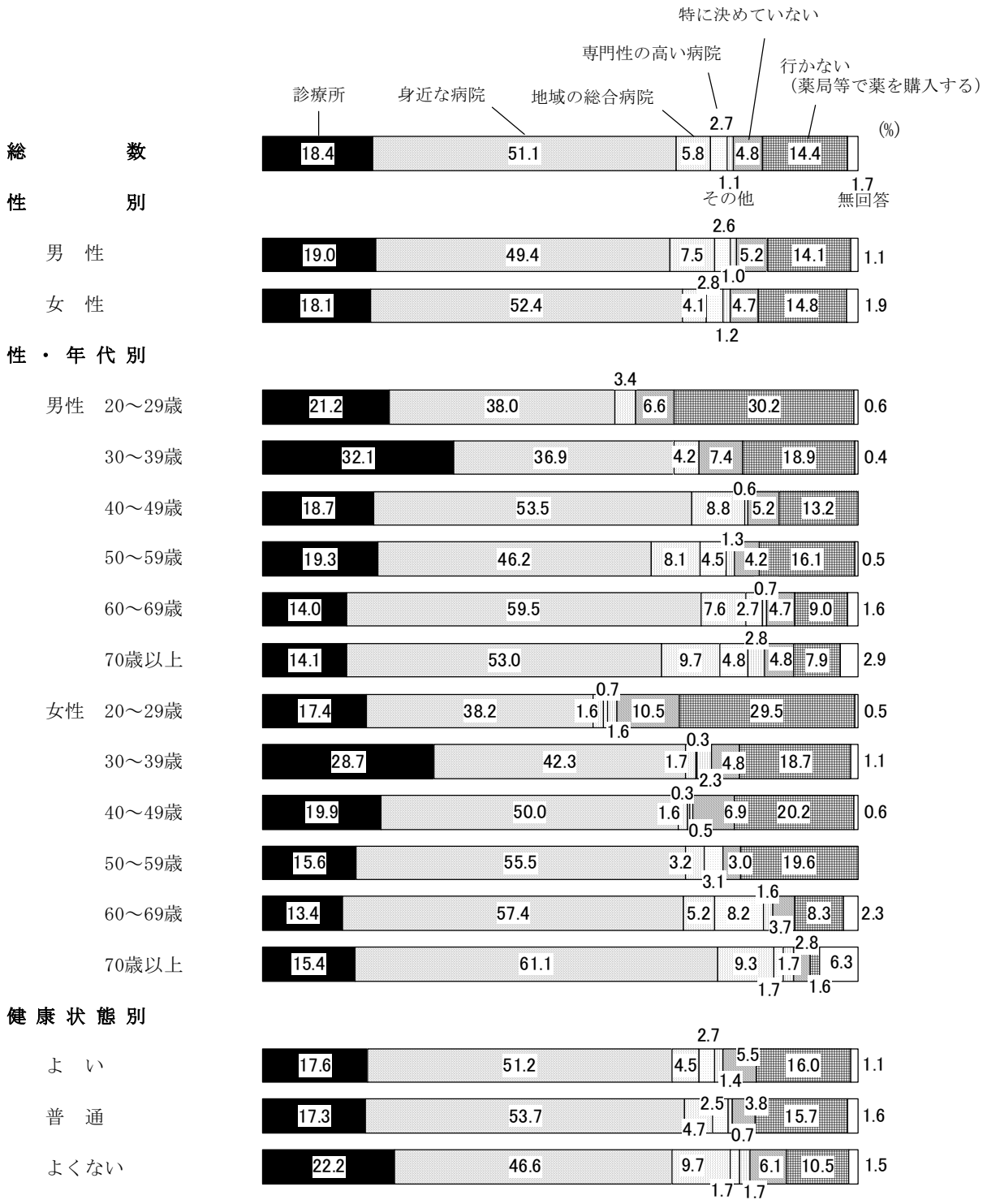
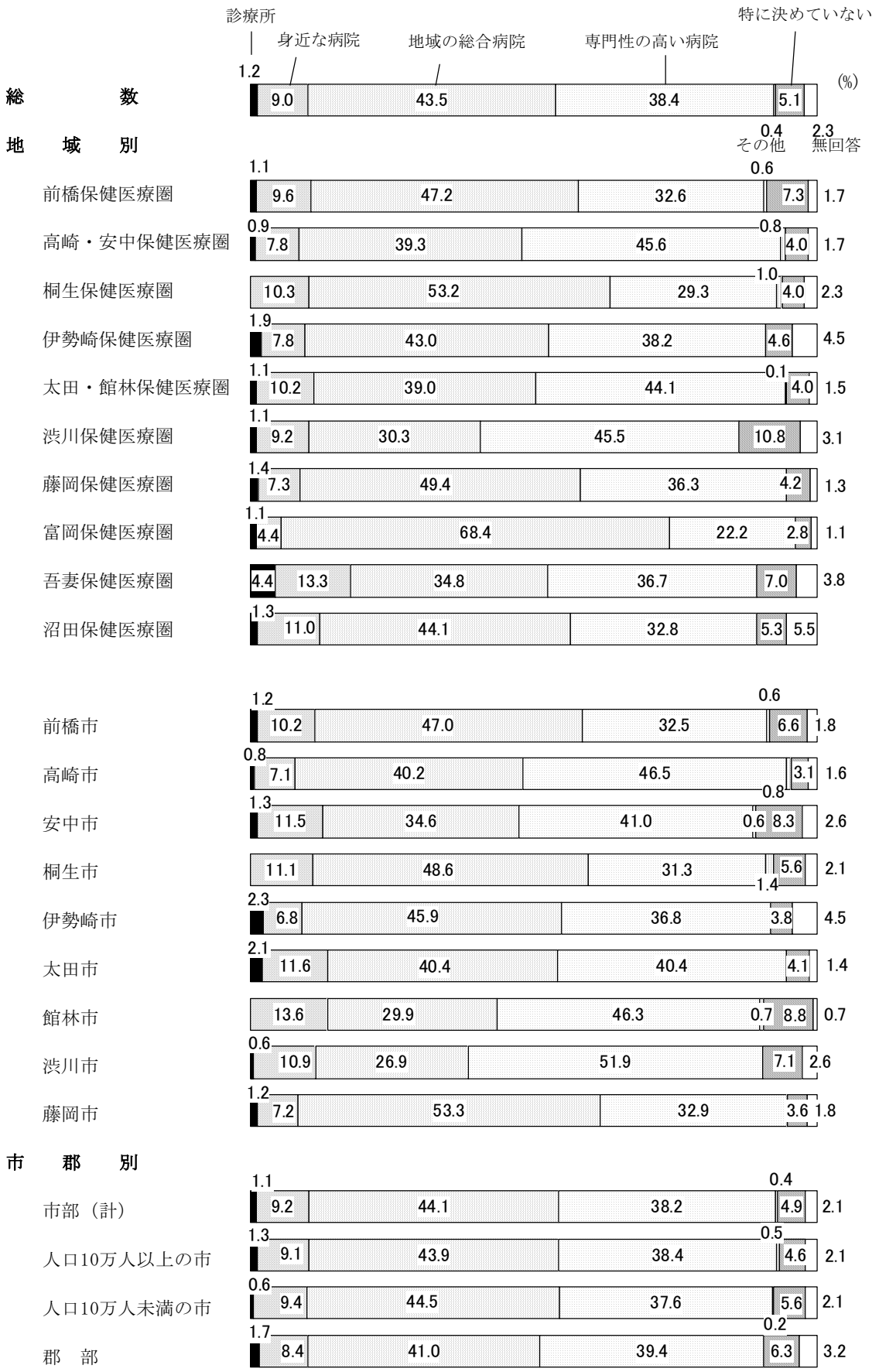
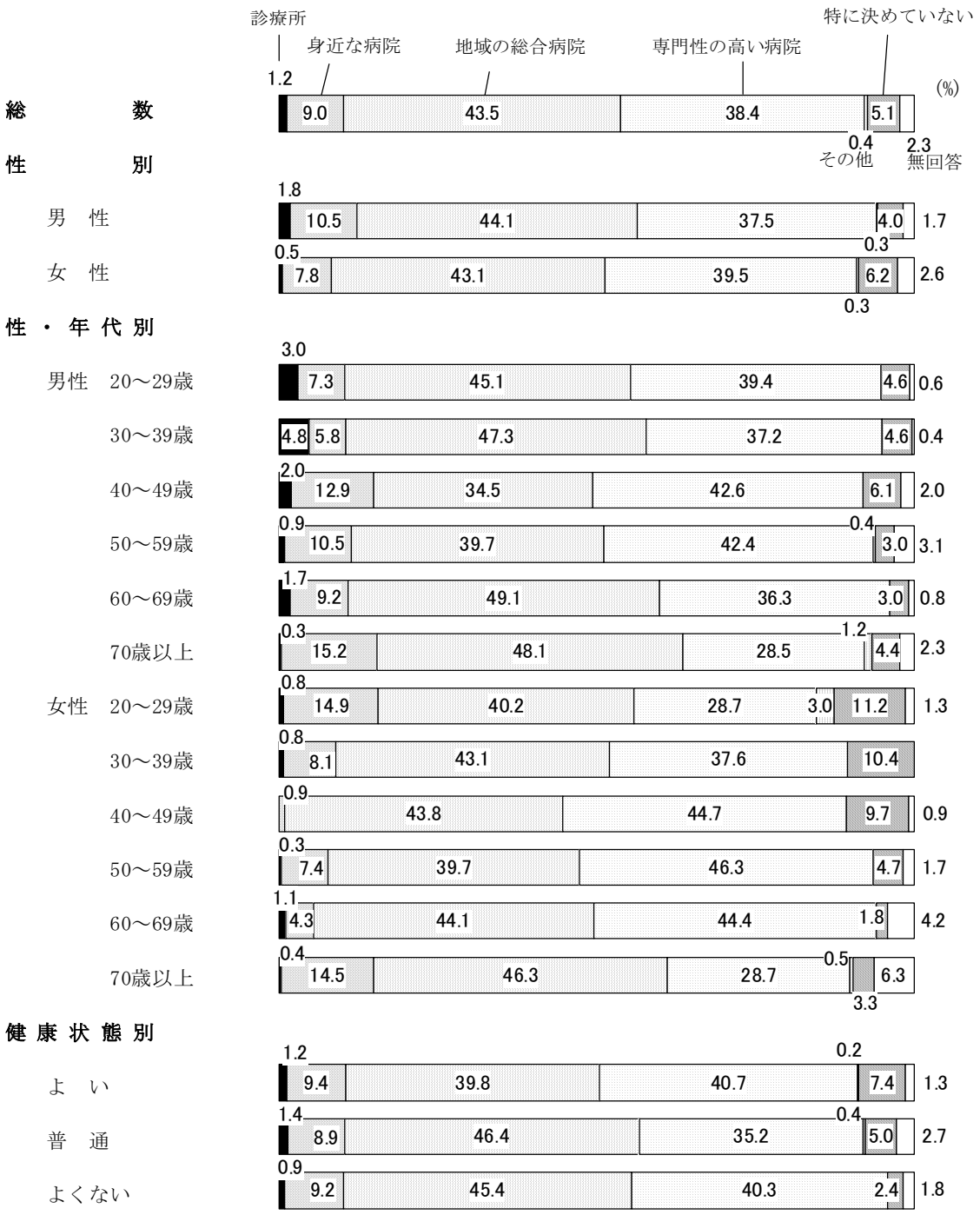

特に決めていない
専門性の高い病院
行かない
（薬局等で薬を購入する）
診療所
身近な病院
地域の総合病院
その他
無回答
(%)
総数 18.4 51.1 5.8 2.7 4.8 14.4 1.1 1.7
性別
男性 19.0 49.4 7.5 2.6 5.2 14.1 1.0 1.1
女性 18.1 52.4 4.1 2.8 4.7 14.8 1.2 1.9
性・年代別
男性 20～29歳 21.2 38.0 3.4 6.6 30.2 0.6
30～39歳 32.1 36.9 4.2 7.4 18.9 0.4
40～49歳 18.7 53.5 8.8 0.6 5.2 13.2
50～59歳 19.3 46.2 8.1 4.5 1.3 4.2 16.1 0.5
60～69歳 14.0 59.5 7.6 2.7 0.7 4.7 9.0 1.6
70歳以上 14.1 53.0 9.7 4.8 2.8 4.8 7.9 2.9
女性 20～29歳 17.4 38.2 1.6 0.7 1.6 10.5 29.5 0.5
30～39歳 28.7 42.3 1.7 0.3 2.3 4.8 18.7 1.1
40～49歳 19.9 50.0 1.6 0.3 0.5 6.9 20.2 0.6
50～59歳 15.6 55.5 3.2 3.1 3.0 19.6
60～69歳 13.4 57.4 5.2 8.2 1.6 3.7 8.3 2.3
70歳以上 15.4 61.1 9.3 1.7 2.8 1.6 6.3
健康状態別
よい 17.6 51.2 4.5 2.7 1.4 5.5 16.0 1.1
普通 17.3 53.7 4.7 2.5 0.7 3.8 15.7 1.6
よくない 22.2 46.6 9.7 1.7 1.7 6.1 10.5 1.5

図６－３　医療機関の選択（重い病気の場合）




診療所
身近な病院
地域の総合病院
専門性の高い病院
特に決めていない
(%)
その他
無回答
総数 1.2 9.0 43.5 38.4 5.1 0.4 2.3
性別
男性 1.8 10.5 44.1 37.5 4.0 0.3 1.7
女性 0.5 7.8 43.1 39.5 6.2 0.3 2.6
性・年代別
男性 20～29歳 3.0 7.3 45.1 39.4 4.6 0.6
30～39歳 4.8 5.8 47.3 37.2 4.6 0.4
40～49歳 2.0 12.9 34.5 42.6 6.1 2.0
50～59歳 0.9 10.5 39.7 42.4 0.4 3.0 3.1
60～69歳 1.7 9.2 49.1 36.3 3.0 0.8
70歳以上 0.3 15.2 48.1 28.5 1.2 4.4 2.3
女性 20～29歳 0.8 14.9 40.2 28.7 3.0 11.2 1.3
30～39歳 0.8 8.1 43.1 37.6 10.4
40～49歳 0.9 43.8 44.7 9.7 0.9
50～59歳 0.3 7.4 39.7 46.3 4.7 1.7
60～69歳 1.1 4.3 44.1 44.4 1.8 4.2
70歳以上 0.4 14.5 46.3 28.7 0.5 3.3 6.3
健康状態別
よい 1.2 9.4 39.8 40.7 0.2 7.4 1.3
普通 1.4 8.9 46.4 35.2 0.4 5.0 2.7
よくない 0.9 9.2 45.4 40.3 2.4 1.8

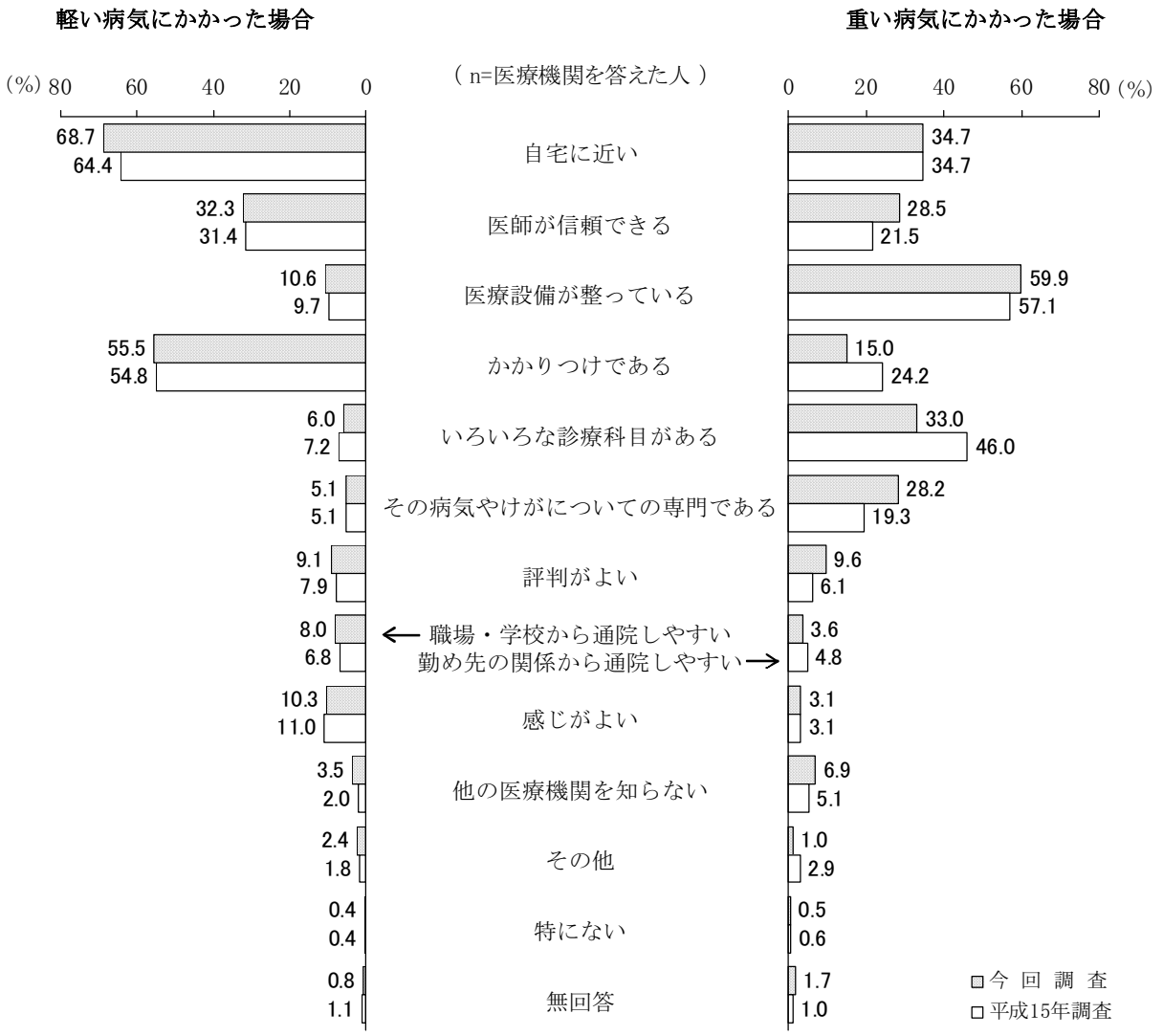
（２）医療機関の選択理由

～　軽い病気の場合「自宅に近い」69%と「かかりつけである」56%が多く、
重い病気にかかった場合は「医療設備が整っている」60%が多い　～

問８－１　その医療機関を選ぶのはどういう理由からですか。（○は３つまで）

問９－１　その医療機関を選ぶのはどういう理由からですか。（○は３つまで）

図６－４



軽い病気の場合、医療機関の選択理由としては「自宅に近い」が 68.7%で最も多く、これに「かかりつけである」（55.5%）が次いでいる。

平成 15 年の調査結果と比べると、大きな変化はない。

症状の重い病気にかかった場合、医療機関の選択理由としては「医療設備が整っている」が 59.9%で最も多く、これに「自宅に近い」（34.7%）と「いろいろな診療科目がある」（33.0%）が次いでいる。

平成 15 年の調査結果と比べると、「いろいろな診療科目がある」が、前回の 46.0%より減少し、「か

かりつけである」も前回の24.2%から減少している。一方、「医師が信頼できる」は前回の21.5%から増加し、「その病気やけがについての専門である」は前回の19.3%から増加している。

◆地域別　軽い病気の場合、前橋保健医療圏、高崎・安中保健医療圏では「自宅に近い」が75%前後と他の医療圏より多くなっている。また、桐生保健医療圏では「かかりつけである」が67.6%と多くなっている。

症状が重い場合、いずれの地域でも「医療設備が整っている」が最も多くなっているが、吾妻保健医療圏と沼田保健医療圏では50%に届かない。また、前橋保健医療圏、桐生保健医療圏、富岡保健医療圏、吾妻保健医療圏では「自宅に近い」が40%前後と多くなっている。

◆市郡別　軽い病気の場合、市部と郡部ではあまり相違はない。人口規模でみると、「自宅に近い」は人口10万人以上の市で72.3%と70%を超え、次いで郡部で67.7%となっているが、人口10万人未満の市では59.9%と少なくなっている。

症状が重い場合、人口規模が大きいほど「自宅に近い」は増加している。

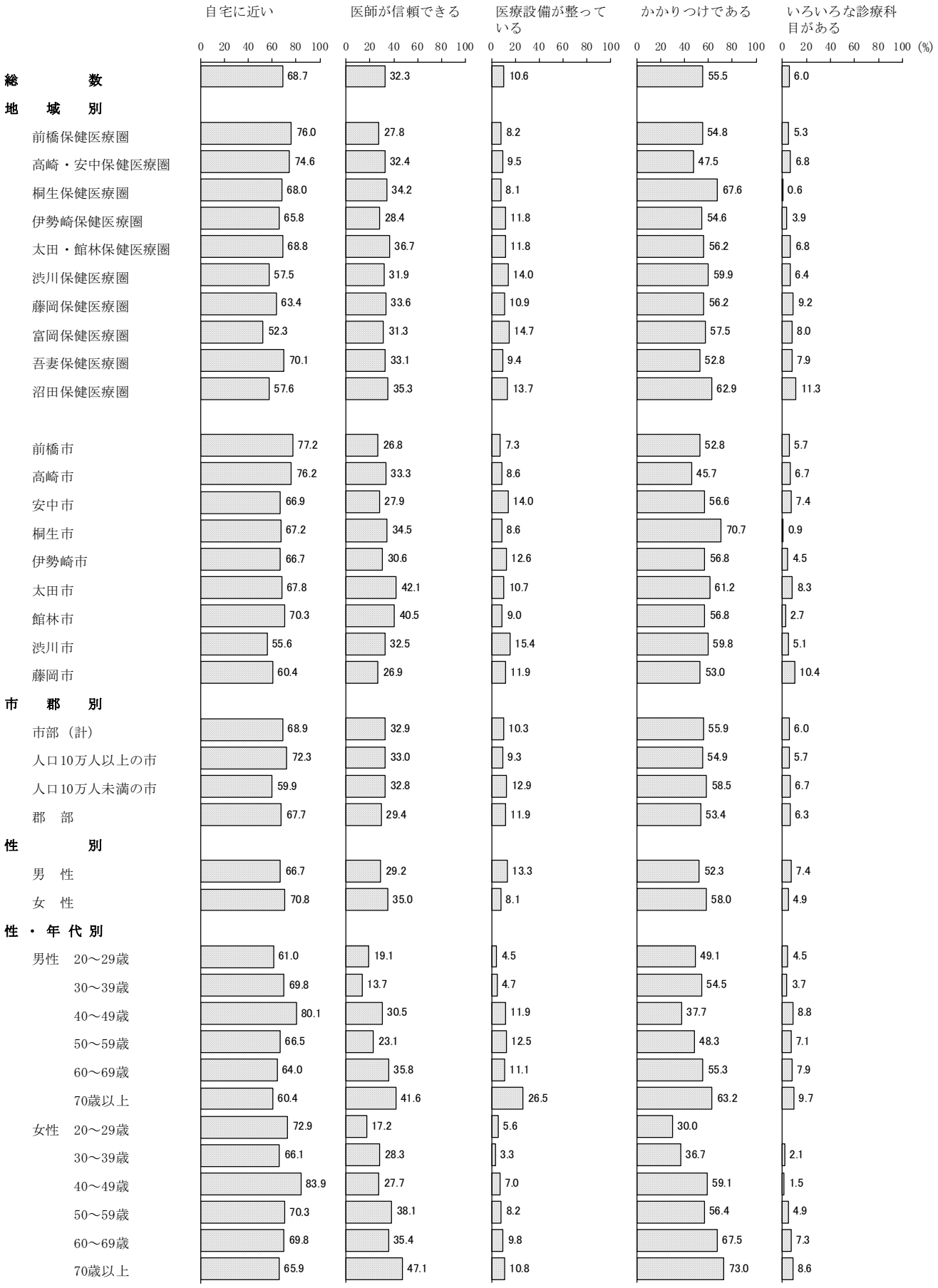
◆性　別　軽い病気の場合、上位項目である「自宅に近い」「かかりつけである」「医師が信頼できる」は男性よりも女性の方が多くなっている。

症状が重い場合、男性と女性で大きな相違はない。

◆性・年代別　軽い病気の場合、男女ともに40代で「自宅に近い」が80%を超えている。また、男女とも、70歳以上では「かかりつけである」と「医師が信頼できる」が他の年齢に比べ多くなっている。

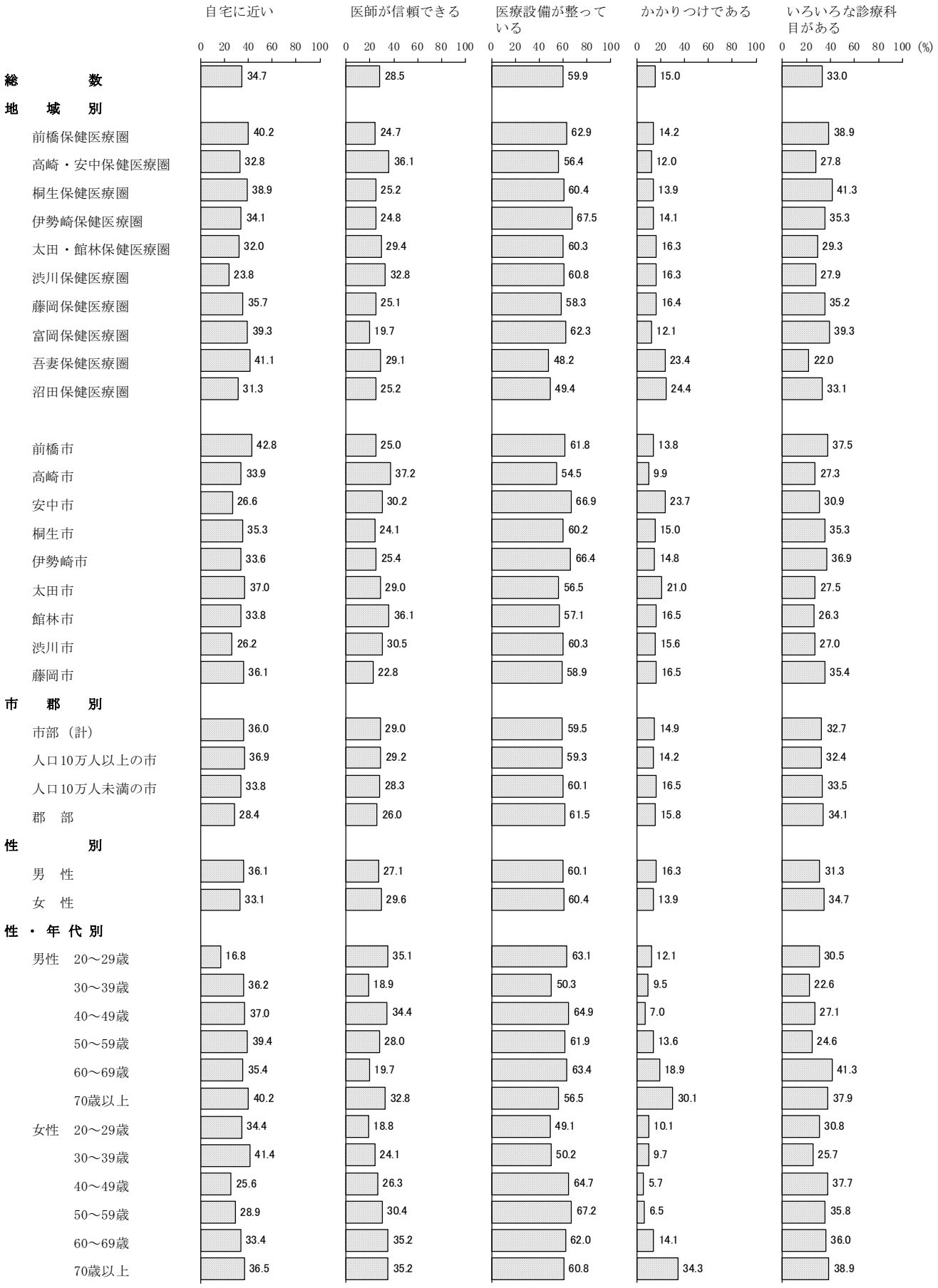
症状が重い場合、男女ともすべての年齢で「医療設備が整っていること」が最も多く、男性の20代及び40代から60代、女性の40代以上の年齢では60%を超えている。また、男女とも70歳以上では「かかりつけである」が30%を超え、多くなっている。

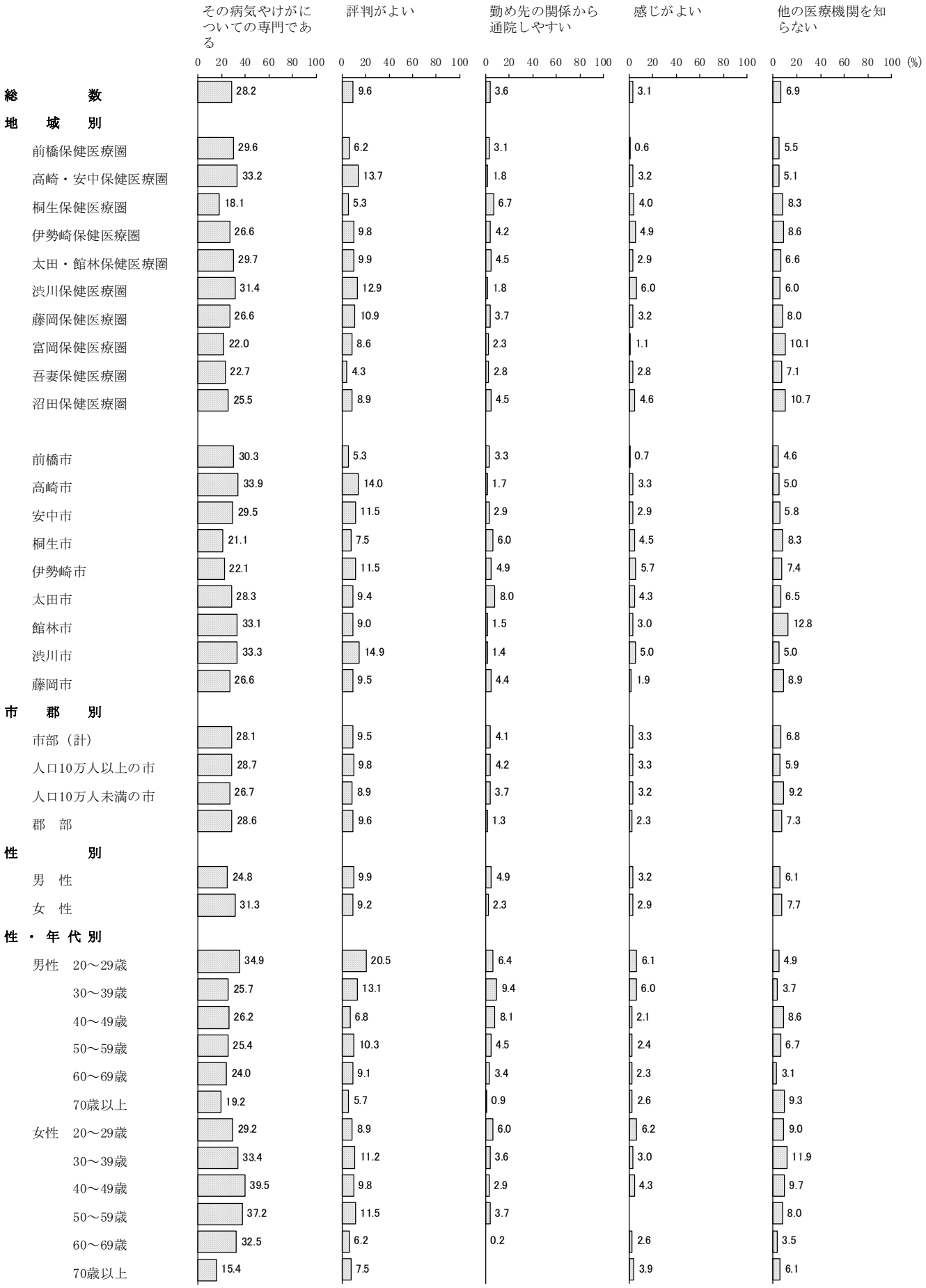
図６－５　医療機関の選択理由（軽い病気の場合）



	その病気やけがについての専門である	評判がよい	職場・学校から通院しやすい	感じがよい	他の医療機関を知らない
総数	5.1	9.1	8.0	10.3	3.5
地域別					
前橋保健医療圏	5.2	9.0	6.8	8.2	6.7
高崎・安中保健医療圏	7.9	10.6	10.4	13.9	3.1
桐生保健医療圏	3.4	9.6	5.9	8.7	2.2
伊勢崎保健医療圏	4.7	7.9	10.4	9.7	4.1
太田・館林保健医療圏	3.5	7.2	7.6	11.4	2.0
渋川保健医療圏	2.8	12.3	5.1	9.1	2.6
藤岡保健医療圏	5.8	11.0	5.5	12.3	2.9
富岡保健医療圏	8.1	11.7	8.5	4.2	2.9
吾妻保健医療圏		7.1	6.3	5.5	2.4
沼田保健医療圏	6.0	6.7	8.6	8.9	3.7
前橋市	4.1	8.1	7.3	7.3	5.7
高崎市	8.6	10.5	10.5	14.3	2.9
安中市	4.4	11.0	10.3	11.8	4.4
桐生市	3.4	9.5	6.9	9.5	1.7
伊勢崎市	5.4	8.1	9.9	8.1	2.7
太田市	4.1	5.0	7.4	13.2	0.8
館林市	1.8	6.3	5.4	11.7	3.6
渋川市	2.6	12.0	3.4	7.7	3.4
藤岡市	7.5	9.0	6.0	11.9	2.2
市郡別					
市部（計）	5.4	8.9	7.9	10.5	3.2
人口10万人以上の市	5.6	8.4	8.7	10.8	3.0
人口10万人未満の市	5.1	10.1	5.9	9.6	3.6
郡　部	3.5	10.5	8.7	9.4	4.7
性別					
男　性	5.3	10.2	10.6	10.3	3.6
女　性	4.9	8.1	6.1	10.4	3.4
性・年代別					
男性　20～29歳	13.2	3.1	19.1	7.2	12.5
30～39歳	1.5	4.9	21.2	15.8	4.9
40～49歳	5.6	12.5	14.2	13.8	8.3
50～59歳	6.8	6.5	16.1	8.9	2.8
60～69歳	3.5	17.1	3.0	7.3	1.4
70歳以上	5.3	10.8	0.7	10.2	0.3
女性　20～29歳	7.4	10.6	14.1	15.0	3.7
30～39歳	5.8	15.4	12.2	12.8	5.6
40～49歳	2.5	8.4	7.7	12.7	5.8
50～59歳	5.9	6.5	6.7	14.0	1.9
60～69歳	5.3	5.3	3.5	6.2	2.4
70歳以上	3.9	6.0		6.7	2.2

図６－６　医療機関の選択理由（重い病気の場合）




その病気やけがについての専門である
評判がよい
勤め先の関係から通院しやすい
感じがよい
他の医療機関を知らない
0 20 40 60 80 100 (%)
総数 28.2 9.6 3.6 3.1 6.9
地域別
前橋保健医療圏 29.6 6.2 3.1 0.6 5.5
高崎・安中保健医療圏 33.2 13.7 1.8 3.2 5.1
桐生保健医療圏 18.1 5.3 6.7 4.0 8.3
伊勢崎保健医療圏 26.6 9.8 4.2 4.9 8.6
太田・館林保健医療圏 29.7 9.9 4.5 2.9 6.6
渋川保健医療圏 31.4 12.9 1.8 6.0 6.0
藤岡保健医療圏 26.6 10.9 3.7 3.2 8.0
富岡保健医療圏 22.0 8.6 2.3 1.1 10.1
吾妻保健医療圏 22.7 4.3 2.8 2.8 7.1
沼田保健医療圏 25.5 8.9 4.5 4.6 10.7
前橋市 30.3 5.3 3.3 0.7 4.6
高崎市 33.9 14.0 1.7 3.3 5.0
安中市 29.5 11.5 2.9 2.9 5.8
桐生市 21.1 7.5 6.0 4.5 8.3
伊勢崎市 22.1 11.5 4.9 5.7 7.4
太田市 28.3 9.4 8.0 4.3 6.5
館林市 33.1 9.0 1.5 3.0 12.8
渋川市 33.3 14.9 1.4 5.0 5.0
藤岡市 26.6 9.5 4.4 1.9 8.9
市郡別
市部（計） 28.1 9.5 4.1 3.3 6.8
人口10万人以上の市 28.7 9.8 4.2 3.3 5.9
人口10万人未満の市 26.7 8.9 3.7 3.2 9.2
郡部 28.6 9.6 1.3 2.3 7.3
性別
男性 24.8 9.9 4.9 3.2 6.1
女性 31.3 9.2 2.3 2.9 7.7
性・年代別
男性 20～29歳 34.9 20.5 6.4 6.1 4.9
30～39歳 25.7 13.1 9.4 6.0 3.7
40～49歳 26.2 6.8 8.1 2.1 8.6
50～59歳 25.4 10.3 4.5 2.4 6.7
60～69歳 24.0 9.1 3.4 2.3 3.1
70歳以上 19.2 5.7 0.9 2.6 9.3
女性 20～29歳 29.2 8.9 6.0 6.2 9.0
30～39歳 33.4 11.2 3.6 3.0 11.9
40～49歳 39.5 9.8 2.9 4.3 9.7
50～59歳 37.2 11.5 3.7 8.0
60～69歳 32.5 6.2 0.2 2.6 3.5
70歳以上 15.4 7.5 3.9 6.1

（３）医療機関の所在地

～　軽い病気の場合も、重い病気の場合も「前橋市」が最多　～

問８－２　主に診療を受ける（あるいは受けたい）その医療機関はどの市町村にありますか。

（○は１つだけ）

問９－２　主に診療を受ける（あるいは受けたい）その医療機関はどの市町村にありますか。

（○は１つだけ）

図６－７

（ n=医療機関を答えた人 ）

(%)

軽い病気にかかった場合		重い病気にかかった場合	軽い病気にかかった場合		重い病気にかかった場合
20.2	前橋市	31.0	0.4	甘楽町	0.1
17.3	高崎市	14.4	0.9	中之条町	0.2
7.0	桐生市	6.6	0.5	長野原町	0.2
9.6	伊勢崎市	8.6	0.1	嬬恋村	0.1
10.8	太田市	10.4	0.2	草津町	0.0
3.2	沼田市	3.2	－	六合村	－
4.2	館林市	3.8	0.1	高山村	0.0
3.5	渋川市	2.1	1.0	東吾妻町	1.5
3.6	藤岡市	3.0	0.2	片品村	0.1
3.5	富岡市	4.9	0.1	川場村	－
2.4	安中市	1.0	0.2	昭和村	0.1
2.1	みどり市	1.1	0.8	みなかみ町	0.1
0.5	富士見村	0.0	0.6	玉村町	－
0.2	榛東村	0.0	0.4	板倉町	0.1
0.4	吉岡町	0.0	0.0	明和町	0.0
0.9	吉井町	0.2	－	千代田町	－
－	上野村	－	0.9	大泉町	0.1
0.3	神流町	0.1	0.7	邑楽町	－
0.5	下仁田町	0.1	1.5	県外	4.1
0.0	南牧村	－	0.9	無回答	2.5

（注）　表中の「0.0」は、回答者が「1人」以上となっているが、医療機関を答えた人に対する百分比としては「0.05%」未満の数値となり、小数第2位を四捨五入した結果「0.0」となったもの。
「－」は回答者が「0人」のもの。

主に診療を受ける、あるいは受けたい医療機関の所在地は、軽い病気の場合も、重い病気の場合も、「前橋市」が最も多くなっている。次いで、「高崎市」「太田市」が多くなっている。

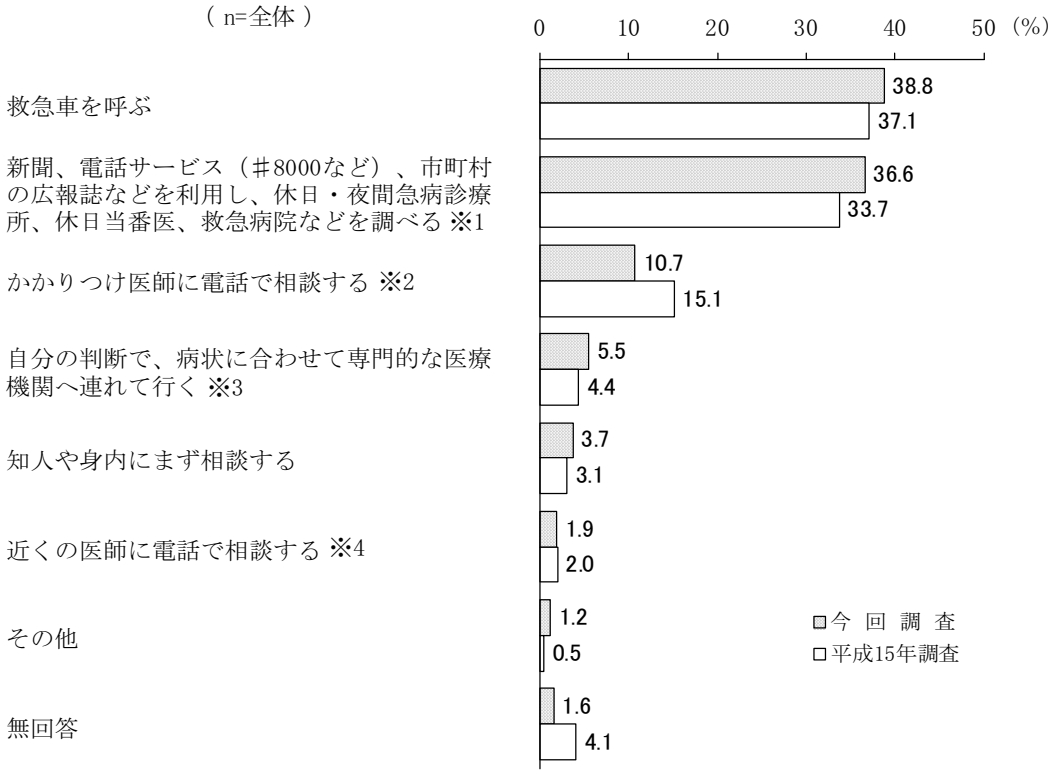
「前橋市」においては、軽い病気の場合（20.2%）よりも重い病気の場合（31.0%）に、選択する人が多くなっている。

7　家族が夜間や休日に病気になった際の対応

～「救急車を呼ぶ」39%が最多　～

問10　家族のだれかが夜間や休日に急病になり、医師にみてもらいたいとき、まず、**一番初めに**どうしますか。次の中からあてはまるものをあげてください。（○は１つだけ）

図７－１



※1　平成15年調査は「新聞、電話サービスなどを利用し、休日・夜間急病診療所、休日当番医、救急病院などを調べて連れて行く」
※2　平成15年調査は「かかりつけ医師に電話で相談するか、みてもらう」
※3　平成15年調査は「自分の判断で、よくみてくれそうな医療機関へ連れて行く」
※4　平成15年調査は「近くの医師に電話で相談するか、みてもらう」

夜間や休日に病気になった際の対応としては「救急車を呼ぶ」が 38.8%で最も多く、これに「新聞、電話サービス（＃8000 など)、市町村の広報誌などを利用し、休日・夜間急病診療所、休日当番医、救急病院などを調べる」(36.6%）が次いでいる。

平成 15 年の調査結果と比較すると、選択肢に若干の変更はあるが、「かかりつけ医師に電話で相談する」が、前回の 15.1%から減少している。

◆***地域別***　沼田保健医療圏では、「救急車を呼ぶ」が 49.4%と多く、前橋保健医療圏では「新聞、電話サービス、市町村の広報誌などを利用し、休日・夜間急病診療所、休日当番医、救急病院などを調べる」が 48.9%と多くなっている。

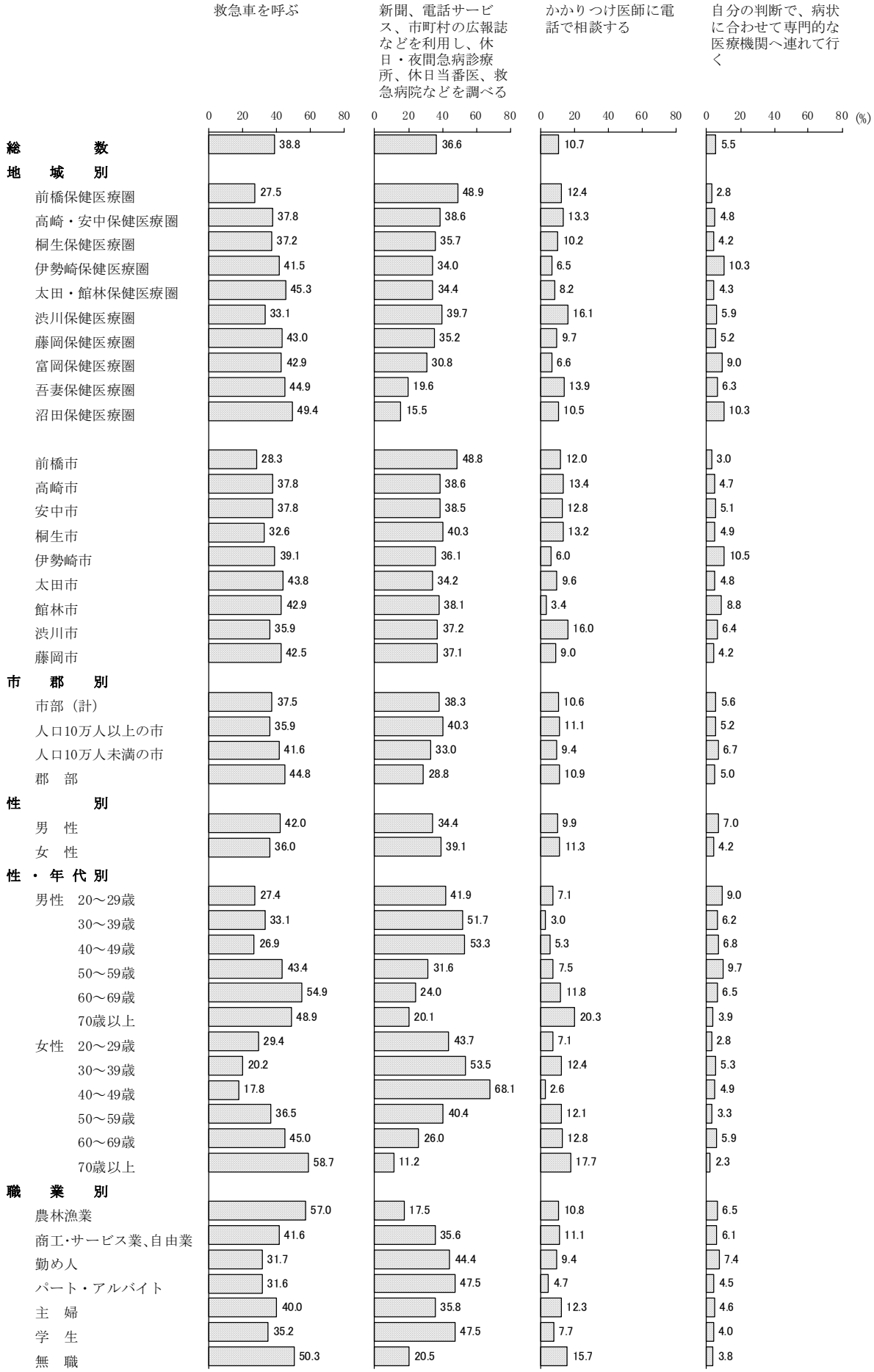
◆***市郡別***　人口規模が小さいほど「救急車を呼ぶ」が増加し、人口規模が大きいほど「新聞、電話サービス、市町村の広報誌などを利用し、休日・夜間急病診療所、休日当番医、救急病院などを調べる」が増加している。

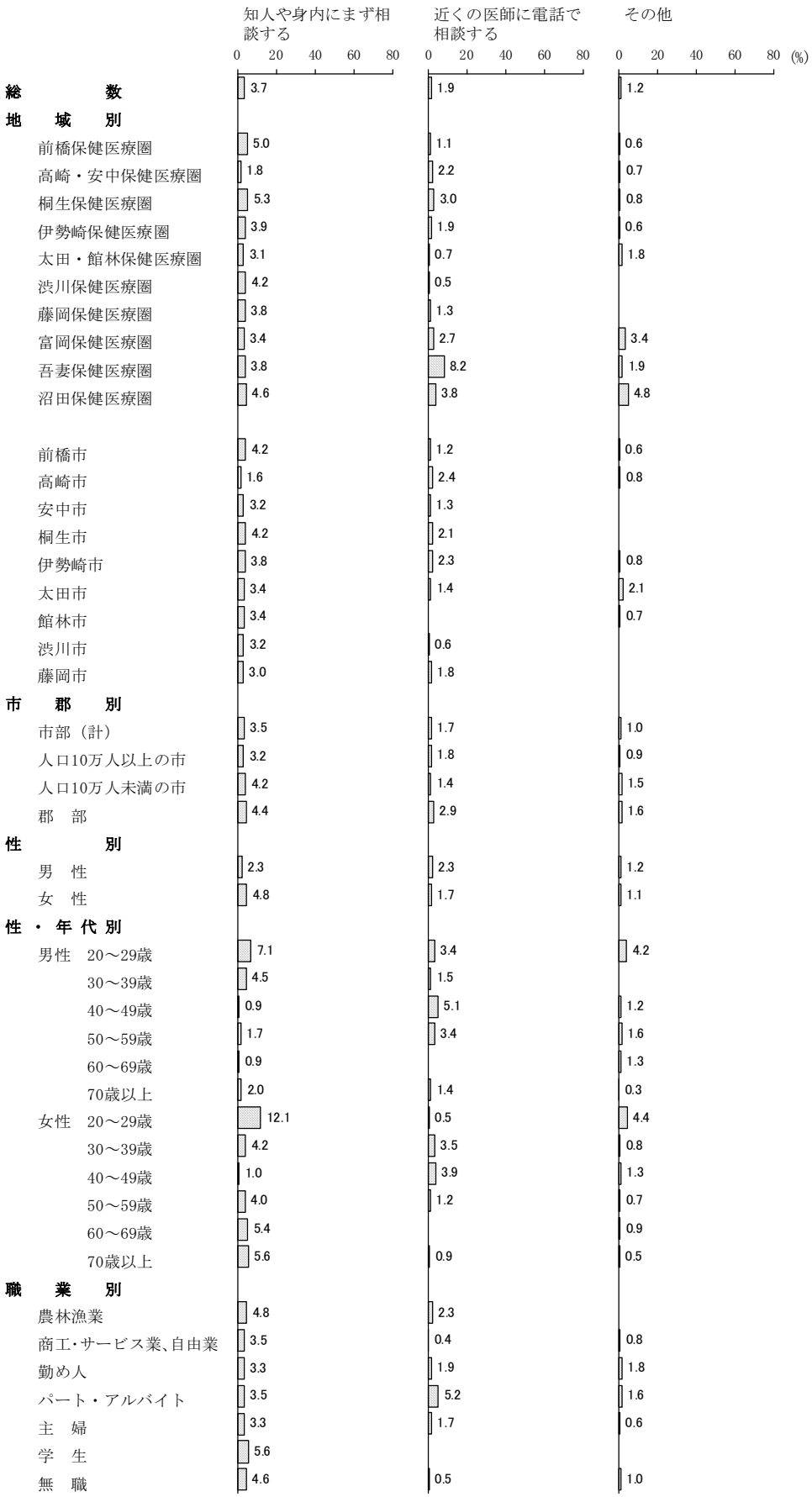
◆***性　別***　男性では「救急車を呼ぶ」が 42.0％と、女性（36.0％）を上回るのに対し、女性では「新聞、電話サービス、市町村の広報誌などを利用し、休日・夜間急病診療所、休日当番医、救急病院などを調べる」が 39.1％と男性（34.4％）を上回る。

◆***性・年代別***　男性の 60 代、女性の 70 歳以上では「救急車を呼ぶ」が多く、50％を超えている。また、女性の 40 代では「新聞、電話サービス、市町村の広報誌などを利用し、休日・夜間急病診療所、休日当番医、救急病院などを調べる」が 68.1％と際立って多く、男性の 30 代から 40 代、女性の 30 代でも 50％を超え、他の年齢より多くなっている。

◆***職業別***　農林漁業と無職では「救急車を呼ぶ」が50％を超え多くなっている。一方、勤め人、パート・アルバイト、学生では「新聞、電話サービス、市町村の広報誌などを利用し、休日・夜間急病診療所、休日当番医、救急病院などを調べる」が、いずれも40％を超えている。

図７－２　家族が夜間に病気になった際の対応




知人や身内にまず相談する
近くの医師に電話で相談する
その他
0 20 40 60 80
(%)
総数 3.7 1.9 1.2
地域別
前橋保健医療圏 5.0 1.1 0.6
高崎・安中保健医療圏 1.8 2.2 0.7
桐生保健医療圏 5.3 3.0 0.8
伊勢崎保健医療圏 3.9 1.9 0.6
太田・館林保健医療圏 3.1 0.7 1.8
渋川保健医療圏 4.2 0.5
藤岡保健医療圏 3.8 1.3
富岡保健医療圏 3.4 2.7 3.4
吾妻保健医療圏 3.8 8.2 1.9
沼田保健医療圏 4.6 3.8 4.8
前橋市 4.2 1.2 0.6
高崎市 1.6 2.4 0.8
安中市 3.2 1.3
桐生市 4.2 2.1
伊勢崎市 3.8 2.3 0.8
太田市 3.4 1.4 2.1
館林市 3.4 0.7
渋川市 3.2 0.6
藤岡市 3.0 1.8
市郡別
市部（計） 3.5 1.7 1.0
人口10万人以上の市 3.2 1.8 0.9
人口10万人未満の市 4.2 1.4 1.5
郡部 4.4 2.9 1.6
性別
男性 2.3 2.3 1.2
女性 4.8 1.7 1.1
性・年代別
男性 20～29歳 7.1 3.4 4.2
30～39歳 4.5 1.5
40～49歳 0.9 5.1 1.2
50～59歳 1.7 3.4 1.6
60～69歳 0.9 1.3
70歳以上 2.0 1.4 0.3
女性 20～29歳 12.1 0.5 4.4
30～39歳 4.2 3.5 0.8
40～49歳 1.0 3.9 1.3
50～59歳 4.0 1.2 0.7
60～69歳 5.4 0.9
70歳以上 5.6 0.9 0.5
職業別
農林漁業 4.8 2.3
商工・サービス業、自由業 3.5 0.4 0.8
勤め人 3.3 1.9 1.8
パート・アルバイト 3.5 5.2 1.6
主婦 3.3 1.7 0.6
学生 5.6
無職 4.6 0.5 1.0